*0054319000*

0054319-000

特２０８－２２２

改ったものゝ言ひ方

趣味の教育普及会・編

大京堂書店

昭和１１

AIC

特208
222

帝國圖書館藏

趣味の教育普及會編

大日本總文庫

# 改まるものゝ言ひ方

# 序

挨拶など何でもない――といへば、確かに何でもないものに違ひありません。

所が、少し改つた挨拶をしなければならない場合に直面いたしますと、大抵の人がはたと行き當る。例へば隣家の息子さんが結婚した。披露宴に是非御參列下さいと招待されて、二つ返事で喜んで承知したが、さて愈々その席に出て、新郎新婦や双方の親や、或はその親戚の者に對して如何いふ挨拶をして好いか解らない。まさか、誰に對しても「お芽出度う、やあ、お芽出度う……」を繰り返すだけでは餘りに藝がなさ過ぎる。

といつて、幾等考へても、こればつかりは作法として一定の型があるのですから、考へたのでは解らない。仕方がないから家主さんへ行つて聞いて來よう――といふやうなことになると、全く落語を地で行くことになつて、裏長屋の熊さん八さんならそれも宜しいが、なまぢつか、多少でも教育があると、それも出來ない。そこで愈々、弱つたなあ――と、人知れず四苦八苦することになりますが、こんな詰らぬことで、大切な頭腦を惱ます位馬鹿気た、詰らぬことは世の中にありません。第一恥か

# 祝賀 弔祭 改まつたもの、言ひ方

## 目次


はしがき……一

新年の挨拶……五

—一家族の新年の挨拶……五

—夫に對する妻の挨拶（對話）……六

—兩親に對する子供の挨拶（對話）……六

—主人に對する女中の挨拶（對話）……七

—普通一般の新年挨拶……九

—普通一般の新年の答禮挨拶……九

—家族の者又は保護者よりの新年挨拶……一〇

—家族又は保護者に對する年の答禮挨拶……一〇

—途中にて長上への新年挨拶（對話）……一〇

—新年に長上の宅を訪問した場合の挨拶（對話）……一三

—新年に知己を訪問した場合の挨拶（對話）……一三

—御祝儀と御年始の區別……一五

—お福茶と粗茶との區別……一六

—三ケ日中の心掛……一七

—特に注意すべき言葉……一七

—多數人に對しての挨拶……一八

—新年宴會幹事の開會挨拶……一九

—新年宴會に於ける有志者の挨拶……一九

—忘年會幹事の挨拶……二〇

—忘年會有志者の挨拶……二一

—新年の用語……二一






しくて他人にも話せないではありませんか。

そんな時、本書を利用して頂きたい。もの〻五分もか〻らないで、は〻あ、とすつかり要領が呑み込めて、鮮かな挨拶が出來て、なるほど心得のある人は違つたものだと面目を施すばかりでなく、時には斯ういふことから出世の緒が繰り出されるのであります。と申しますと、心事が如何にも輕浮なやうに聞えますが、これは確かな事實で、昔から人を評するにも、先づ第一に、進退擧措が如何とか、或は進退應答に節度があるとか、ないとかいつたものでありまして、進退應答に節度が備つて居るといふことは、要するに常日頃から、普通人と心掛けが違うことを證するもので、これは人を評する標準として、少しも不思議はないのであります。

どうぞ皆樣も、進退應答の節度を備へて頂きたい。單に結婚に關することばかりではありません。人間生活には冠婚祭葬を始めとして、非常の場合が澤山あります。本書は御覽の通りの小冊子ではありますが、少し常識を働かして判斷すれば、人事百般に亘る挨拶の仕方が、容易に理解出來る筈であります。幸に日常坐右の資とならば、編者の勞は酬ひられるのであります。

昭和十一年初春

編者識

## 季候見舞の挨拶……二二


—春の挨拶……二二
—春の挨拶の用語……二三
—夏の挨拶……二三
—夏の挨拶の用語……二三
—秋の挨拶……二四
—秋の挨拶の用語……二四
—冬の挨拶……二五
—冬の挨拶の用語……二五


## 物品贈答の挨拶……二六


—新茶を贈る挨拶（對話）……二六
—中元の贈物持參の挨拶（對話）……二七
—歳暮贈り物の挨拶（對話）……二二


## 結婚の挨拶……三六


—結納持參の挨拶……三六
—結納持參者に對する答禮挨拶……三六
—結納披露に招く挨拶（對話）……三八
—本人に對し結婚祝を贈る挨拶……三九
—結婚祝を受けし本人よりの答禮挨拶……四〇
—結婚祝を家族の方に贈る挨拶……四一
—結婚祝を受けし家族の方より答禮挨拶……四一
—嫁の荷物持參者の挨拶……四二
—嫁の荷物持參者に答禮挨拶……四二
—荷物持參者歸りの挨拶……四三
—姑より神佛に對する嫁の紹介挨拶……四三
—神佛に對する嫁の挨拶……四三
—嫁の親より婿の親に對する挨拶並に親族紹介の挨拶……四四
—婿の親より嫁の親に對する答禮挨拶並に親族紹介の挨拶……四五





—兩家の親族より新郎新婦の親への挨拶（對話）……四五
—荷飾り披露に招く挨拶……四六
—荷飾り披露に招かれた客の歸りの挨拶……四七
—家族の者から結婚披露招待の挨拶……四七
—家族の者より結婚披露に招かれた答禮挨拶……四八
—本人より結婚披露に招く挨拶……四九
—結婚披露の招待席上に於ける席順……五〇
—結婚祝席上の媒介人の挨拶（其一）……五〇
—同（其二）……五一
—同じく兩親の挨拶……五一
—新婦の挨拶……五二
—新郎の挨拶……五三
—舅の場合に於ける今一例……五三
—正客の答禮挨拶……五四
—來賓代表の答辭挨拶（大一座の披露宴に於ける例）……五四
—姑及び新婦のお禮廻り挨拶……五五
—結婚後新婦の實母より姑に對する挨拶……五六
—結婚後新郎の實母より嫁の母に對する答禮挨拶……五七
—結婚に關する忌み言葉……五八
—婚禮の用語……五八


## 出産の挨拶……五九


—産婦の姑に對する出産祝の挨拶……六〇
—産婦の姑から答禮挨拶……六〇
—産婦の夫に對する挨拶……六一
—産婦の夫より答禮挨拶……六一
—産婦に對する挨拶……六二
—産婦よりの答禮挨拶……六二

—出產祝の挨拶（對話）……六四
—出產祝に家族より招く挨拶……六六
—出產祝招待に對する答禮挨拶……六七
—夫より出產祝に招く挨拶……六七
—夫より招かれし答禮挨拶……六八
—出產祝の席上主人の挨拶……六八
—出產祝席上正客の答禮挨拶……六九
—出產祝席上有志者の挨拶……六九
—命名日の內祝を持參する女中の挨拶……七一
—內祝を持參せる女中への答禮挨拶……七一
—內祝を持參する子女の挨拶……七二
—內祝を持參せる子女への答禮挨拶……七三
—出產に關する成語と單語……七三


## 誕生日の挨拶……七四


—子供の誕生に招く挨拶……七五
—招待を受けし人の答禮挨拶……七五
—誕生祝に招待されし人が祝物を贈る挨拶……七六
—當日の祝の挨拶（對話）……七六
—自分の誕生に客を招く挨拶（對話）……七八
—來賓有志者の挨拶……七九
—主人の答禮挨拶……八〇
—誕生祝に關する用語……八〇


## 節句の挨拶……八一


—雛祭の祝物持參者の挨拶……八二
—祝物を受ける主婦の答禮……八二
—節句の祝物持參者と主婦の挨拶（對話）……八三
—菱餅を贈る挨拶（對話）……八五
—五月人形を贈る挨拶（對話）……八七
—端午の節句に客を招く挨拶（對話）……九四




## 入學の挨拶……九六


—入學通知の挨拶……九七
—入學せし本人へ祝の答禮挨拶……九八
—入學者家族への挨拶……九八
—入學祝を受けた家族の答禮挨拶……九九
—入學に關する用語……一〇〇


## 入退營の挨拶……一〇〇


—本人に對する入營祝の挨拶……一〇一
—本人の答禮挨拶……一〇一
—家族の人に對し入營祝の挨拶……一〇一
—入營祝を受けし家族の答禮挨拶……一〇二
—送別會席上に於ける有志者の挨拶（其一）……一〇二
—同、有志者の挨拶（其二）……一〇四
—同、入營者の答辭（其一）……一〇五
—同、入營者の答辭（其二）……一〇六
—入營當日見送人の挨拶……一〇六
—入營者の最後挨拶……一〇七
—退營當日出迎の挨拶……一〇七
—出迎へを受けた本人の挨拶……一〇七
—退營前日家族への挨拶……一〇八
—家族からの答禮挨拶……一〇九
—留守中の廻禮挨拶……一〇九
—入退營の用語……一一〇


## 火事見舞の挨拶……一一〇


—突差の近火見舞の挨拶……一一一
—出火の翌日近火見舞の挨拶……一一三
—近火見舞の答禮挨拶……一一三
—類燒見舞の挨拶……一一三
—類燒見舞の答禮挨拶……一一四
—火事見舞に關する用語……一一五


## 病氣及び全快の挨拶……一一五

—病人の家族に述べる挨拶……二五
—見舞を受けた家族よりの答禮挨拶……二六
—友の母の入院を見舞ふ挨拶（對話）……二七
—全快祝に招待する本人の挨拶……二九
—招待を受けた答禮挨拶……三〇
—全快祝に家族より招く挨拶……三〇
—全快祝當日客の挨拶……三一
—病氣に關する用語……三一


## 新築祝の挨拶……三二


—新築の祝物を贈る挨拶……三三
—祝物を贈られた答禮挨拶……三三
—新築落成祝に招く挨拶……三四
—新築落成祝に招かれし答禮挨拶……三五
—新築祝の當日客の挨拶……三六
—新築祝宴の席上主人の挨拶……三六
—新築祝來賓の挨拶……三七
—新築祝に關する用語……三八


## 開店祝の挨拶……三八


—新築開店を祝ふ挨拶……三八
—開店祝を受けた答禮挨拶……三〇
—開店の祝宴に客を招く挨拶……三〇
—開店祝宴に招かれた答禮挨拶……三一
—開店祝の席上に於ける主人の挨拶……三一
—開店祝の席上に於ける來賓の挨拶……三三
—開店祝の用語……三四


## 面會の挨拶……三四


—初對面の挨拶……三五
—知人を紹介する挨拶（對話）……三六
—面會に關する用語……三七


## 依賴の挨拶……三七


—初對面の者に物を依賴する挨拶（對話）……三八
—依賴を斷る挨拶（對話）……四〇
—依賴を考慮する挨拶（對話）……四一
—依賴に關する用語……四二


## 祭禮の挨拶……四二


—祭禮に人を招く挨拶……四三
—祭禮に招かれた答禮挨拶……四四
—祭禮當日の挨拶（對話）……四四
—祭禮に招かれた人の歸りの挨拶（對話）……四七
—祭禮に關する用語……四七


## 送別の挨拶……四八


—本人よりの別れの挨拶……四九
—本人への別れの挨拶……四九
—家族の者よりの答禮挨拶……五〇
—家族の者への答禮挨拶……五一
—見送りの挨拶……五一
—遊學送別會の席上挨拶……五二
—遊學者の答禮挨拶……五三
—海外留學者送別會幹事の挨拶……五四
—海外留學者の答辭……五五
—送別に關する用語……五六


## 壽賀の挨拶……五七


—還曆祝賀に招く挨拶……五七
—招かれし人の答禮挨拶……五八
—還曆祝宴に家族より招く挨拶……五八
—家族の者への答禮挨拶……五九

—古稀の祝を贈る挨拶……一六〇
—喜壽の祝物を贈る挨拶……一六一
—祖父の米壽に招く挨拶……一六一
—米壽のお祝を贈る挨拶……一六二
—米壽の祝物を持參する娘の挨拶……一六三
—古稀壽筵に於ける祝辭挨拶……一六四
—還暦賀筵に於ける主催者たる長男の挨拶……一六五
—壽賀に關する用語……一六七

死亡の挨拶……一六七
—友の母の死を聞き馳けつけた人の挨拶……一六九
—逸早く悔に來た友に對する挨拶……一六九
—死亡通知の挨拶……一七〇
—實母を失つた人から通知の挨拶……一七一
—祖父を失つた人から通知の挨拶……一七一





—妻を失つた人から通知の挨拶……一七一
—祖母を失つた人に對する挨拶……一七一
—母を失つた友人の挨拶（對話）……一七三
—お通夜に行く人の挨拶……一七五
—葬儀當日の挨拶……一七六
—葬儀のお禮挨拶……一七八
—葬儀後家族に對する挨拶……一七九
—夫を失つた人に對する挨拶（對話）……一八〇

小說に於けるもの、言ひ方……一八三

愛翼千里（岸田國士作）……一八三
—愛情の期限——の一節……一八三

良人の惡友（山中峯太郎作）……一八七
—知らざる妻にも罪なきや——の一節……一八七

結婚條件（菊池寛作）……一八九
—僕では？——の一節……一八九

訪問答禮の心得と作法……一九一
—訪問の時刻……一九一
—對談の時間……一九一
—訪問の服裝……一九二
—名刺の心得……一九二
—取次を乞ふ場合、不在の場合……一九三
—應接室に案内された時……一九四

立ち居の作法……一九五
—坐り方……一九五
—立ち方……一九五
—退き方……一九五
—歩み方……一九六
—塵の心得……一九七
—腰のかけ方……一九七
—立禮の心得……一九八
—座禮の心得……一九八
—人前を通る時の心得……一九八
—戸障子の開け方、閉め方……一九九
—案内の仕方……二〇〇
—座布團の薦め方……二〇〇
—座布團の受け方……二〇一
—煙草盆の出し方……二〇一
—煙草盆の引き方……二〇一
—火鉢の出し方……二〇二
—火の直し方……二〇二
—煙草盆及び火鉢の受け方……二〇三
—團扇の出し方……二〇四
—懷紙及び楊子のすゝめ方……二〇四
—手洗水の出し方……二〇五
—手拭の出し方……二〇五

手拭の受け方……二〇六
小刀の出し方……二〇六
傘の出し方……二〇六
帽子の渡し方……二〇七
帽子の受け方……二〇七
土產物の進め方……二〇八
挨拶の順序……二〇八
暇乞の仕方……二〇八
訪問禁物の條々……二〇九


## 訪問一般の注意……二一一


履物のこと……二一一
取次人の心得……二一二
對客の心得……二一三
客の前で叱る勿れ……二一三
家人の心得……二一三
度々席を離れぬ事……二一三
泊客の場合……二一三
客を送り出す時……二一四


## 對談中の心得……二一五


對談中の態度……二一五
言葉使ひの心得……二一六
談話する時の心得……二一六
他人の談話を聞く時の心得……二一七
物を問ふ時の心得……二一七
物を問はれた時の心得……二一八
軸物の掛け方……二一八
軸物の見方……二一九
お茶の出し方及び受け方……二二〇
湯及び水の飲み方……二二一
紅茶及びコーヒーのすゝめ方及び飲み方……二二一
お菓子のすゝめ方……二二一
果物のすゝめ方……二二二
サイダー類のすゝめ方……二二四
お壽司のすゝ方、食べ方……二二四




祝賀
弔祭

# 改つたものゝ言ひ方

## 趣味の教育普及會編纂

### はしがき

古い昔の道德によりますと、多辯は惡で、寡默は美德としてあります。なるほど餘計なことや卑猥なことをべら〳〵饒舌るよりも、寧ろ寡默で、生きた寒山子か石佛のやうな顏をしてゐる方が、幾等かその人の人品を上げるかも知れません。

併し、いはねばならぬことをいひ、話さなければならぬことを話す、といふ程度なら金佛樣のやうに無愛嬌に、四角張つて默々然としてゐるよりは、優ること幾倍か知れません。單に快活な、社交的な情味を對手に傳へるといふだけでも、美德の一つに數へる事が出來ると思ひます。

實際人と人とが相對して、談話のないほど憂鬱なものはありませぬ。人の居ない所ではなか〳〵雄

辯な辯に、いざ澤山の人前に出るとか、或は改つてものを云はなければならなくなると、一言も口が利けぬ人がよくあります。斯ういふ人は要するに社交上必要な武器を持たない譯でありましそ、何時の間にか同僚から除物にされ、或は下積みにされて、相當の學識を備へてゐるに拘らず、世の敗殘者となることが少くないのであります。

近來は御承知の通り、如何に最高の學府を卒へたからといつても、卒業證書一枚で無條件で就職出來るやうなことは滅多にありませぬ。必ず就職に先立つて多くの候補者に伍して、採用試驗を受けなくてはなりませぬ。此の時、筆記試驗では優秀な、諷爽たる成績を見せたに拘らず、口答試驗がしどろもどろで、思ふことを十分の一もいひ得ないで、折角の秀才が無殘な落伍者となつた例は決して珍らしくないのであります。實に氣の毒な次第でありますが、思ふことが思ふやうにいひ得ないやうでは、日常の事務上に甚だしい支障を生じますので、誠に止むを得ないことであります。ものゝ云へる啞と申しますと、如何にも奇矯ないひ方のやうでありますが、事實上さういふ人は不具者と選ぶところはありませぬ。そして、活氣ある快活な周圍に壓迫されて、日一日と非社交的な度を深めて行つて、遂には取り返しの付かぬ厭世家ともなるのであります。

斯樣に學識と辯口は必ずしも兩立するものでありませぬ。そして學識が孜々として撓まない勉學によつて得られると同樣、辯口も矢張り常日頃から相當の注意を拂つて練磨する必要があります。それには先づ日常の挨拶から、冠婚祭葬の改つた挨拶を圓滑にするやう心掛けることが肝要であります。私共はよく、日頃尊敬する名士の方の拙劣極まる挨拶振りを見て、失笑を禁じ得ないことがよくあります。殊に婚禮や葬式などの席上などに、非常にそれが多いのであります。よく落語にお悔みの滑稽な挨拶を話題としたものがありますが、私共は全く落語そのまゝの「えゝ、どうも飛んだことで、どうも……」といつて、後は何か口の中でぐづ〳〵いつて頭ばかり屈めてゐるやうな挨拶を、よく見受けるのであります。

勿論さういふのは下の下でありますが、少しは挨拶らしい挨拶をしたやうな顏をしてゐるものでも、もう一度君、今いつたことを大きな聲でいつて見てくれ、といつたら、頭を搔いて首をすくめるものが十人の中六七人は確かでせう。いや、誰に聞かれても恥かしくない、儀禮にかなつた挨拶をし得るものは、十人の中三人とはありますまい。

とはいへ、素より挨拶の巧拙によつて、たゞちに人格の高下を定めることは出來ませぬ。又日頃の挨拶が如何にも圓轉滑脫だから、必ずしも辯論が巧みで、口答試問で優秀な成績を示し得るとはいへませぬ。が、確にその一助とはなり得る筈であります。假令一歩讓つて、なり得ないとしても、社會

生活をする以上、社交上の儀禮に適つた挨拶をするのが禮儀であります。先年我が衆議院議員の方々が、支那の視察に出掛けたことがありましたが、その際支那要路の大官達は、善隣の諸名士であるといふので、非常に一行を歓待いたしました。

所が、我が代議士連中は、旅の恥は掻き捨てといつたやうな氣持からか、禮儀を無視し、粗暴な言動をなしたものが多かつたので、一驚を喫したといふことであります。當時日本の大新聞は、その事實を報道して筆誅を加へて居りましたが、誠に國家の體面を汚した、此上もない恥辱であります。が、それと申しますのも、畢竟彼等代議士が、日頃神聖な國會議事堂に於て、稍もしては粗暴な吐鳴り合ひを始め、或は土方人足にも劣つた殴り合ひをも演ずるからでありまして「内での習ひは外で出る」と申す古人の言に、今更ながら思ひ當るのであります。

されば何人も、常に内での習を慎み、言語動作に意を用ゐて、社交上の儀禮に悖らないやう心掛けねばなりませぬ。それには、我が田へ水を引くやうでありますが、社交上の凡ゆる場合の挨拶の仕方を、是非とも一通り心得て置かねばなりませぬ。



# 新年の挨拶

場合と對手の如何によつて、種々變化がありますが、先づ代表的な基準となる言葉は、

新年でお芽出度うございます。

明けましてお芽出度うございます。

の二語でありまして、此の二語に續く言葉が、對手と場合によつて變化するのであります。然し人間生活は御承知の通り至つて複雜多岐に亘つて居りますから、今玆にその全部の場合なり對手に對する變化を一々列擧することは出來ませぬが、大體氣付いたまゝに網羅し、且つ動作に就いての注意を述べて御參考に供します。

## ――一家族の新年の挨拶

家族の者の挨拶は、元三の毎朝、お屠茶を飲む前に、主人は先づ第一に神佛に對し、家族が無事に新年を迎へたことを感謝し、お祭事（神酒を供し、或は線香、お茶湯などを供すること）をいたし

ます。又主婦やその他の者は、此間にお祝ひの準備をいたし、主人が神佛に對する禮拜を終りましたなれば、主人は自ら床前の上席に着坐いたします。讀いて主婦、子供が着席し、各自の間に挨拶の言葉が取り交されるのであります。勿論親昧深い家族のことでありますから、殊更に鹿爪らしく、改つては不可ませぬ。同時に又不眞面目であつても不可ませぬ。どこまでも靄々たる和氣を失はず、怡悅に滿ちた明朗な態度で取り交さなければなりませぬ。

## ――夫に對する妻の挨拶（對話）

妻　（主人に對ひ極丁重に）新年でお芽出度うございます。と（挨拶一禮）

主人　新年でお芽出度うございます。と（答禮挨拶一禮）

## ――兩親に對する子供の挨拶（對話）

子供　お父様、お母様、新年で御芽出度うございます。と（挨拶一禮）

父母　新年で御芽出度うございます。と（答禮挨拶一禮と同時に）昨年中は何子（何坊）もお父様やお母様のいふことをよく聞いて勉強しましたが、今日からは又一つ大きくなつたのですから、今年は



尙ほ一層よく勉強しなければなりませんよ。（などと挨拶の言葉の後に注意や激勵の言葉を加へる）。

子供　ハイ、よく勉強いたします。（ハイ、何かとよく氣を附けます）。と（挨拶一禮）

## ――主人に對する女中の挨拶（對話）

下女　旦那様、奥様、新年でお芽出度うございます。と（挨拶一禮）

主人　新年でお芽出度う。と（挨拶）

下女　昨年中は色々と粗相ばかりいたしましたが、よくお目をお掛け下さいまして有難うございました。と（挨拶一禮）其上身に餘ります澤山の御祝儀を頂戴いたしまして、有難うございました。と（挨拶一禮）

主人　昨年中は多忙で、よく働いてくれたのにも拘らず、達者で、家事其他の事に氣を附けながら、子供の世話まで何くれと無く能くして呉れて、有難う、お前も年が重なるにつれて自家の家風もよくお分りだらうしする（分りませう）から、本年も何卒氣を附けてお呉れ。と（輕く挨拶）

下女　ハイ、不束者でございますが、よく氣をお附けいたしますから、旦那様や奥様も、宜しくお引廻し下さいませ。と（挨拶一禮、同時に下女はお臺所に至り、お福茶の用意を整へ、主人より順に

差出し、最後に自分も頂戴いたします。そして、次にはお雑煮を差出します。併し色々の行事をいたしますにも、其の處々に依つて幾分違つた處もありますから、其の順序は別として、成可嚴肅に行ひたいものであります。女中の居ないお家では、奥様やお嬢様が斯うした役を受持つことになります。

御參考までに私の親戚の行事を一寸御照會申上げます。

正月三ケ日のお福茶は、必ず主人が入れて、主婦がそれを家族全部に運んで與へます。又挨拶等も至つて堅苦しい挨拶をいたしますが、此時の感じは、何とも申上様のないまでに神々しく思はれます。家族の者も皆粗相のない様にと心を引き締めて居るらしいのが能く見えます。普通民間では、常には仕事の爲めに稍もいたしますと禮儀を失ない勝になりますが、せめては一年に一度だけでもといつて堅くそれを守つて居るのでありますが、凡夫の吾々には、それが大變、親しい仲にも禮儀を失はないやうで圓滿に思はれるのであります。此三日間は常日頃の不平、不滿、不服も、邪心も、心底から取り去つて、圓滿、尊敬、慈愛といふやうな崇高な氣持より外に何も思ふ事を致しません。家族の者も大變夫を賛美してやりますから、毎年のことながら、此挨拶を取り交すと、目頭があつくなるやうな氣がするさうであります。斯く申しますと、或は虚禮だとお笑ひになるかも知れませぬが、決して虚禮ではありません。虚禮とは要するに心にもない儀禮をすることでありますが、其家の家族は心からの禮儀を以て取り交はすのであります。昔の人の言葉にもある通り、一年の謀事は元旦にありで、年の初めに當りまして、言語動作をお互に改め、其氣分を忘れないで新しい年のスタートをきりましたなれば、家庭の圓滿と向上は求めずして得られるのであります。現在實行して居られぬ方は、是非とも實行なさるやうお勸めいたします。此挨拶の時の心持を例へて申上げますれば、丁度婚約が整つて、式を上げる當日と少しも變らない様に思はれます。或はスポーツをして、敗けた方が勝つた者に對して祝辭を述べる時のやうな、一種の崇高な氣持になるのであります。



## ——普通一般の新年挨拶

「新年でお芽出度うございます。と（挨拶一禮）昨年中は色々とお世話様になりまして、有難うございました。何卒本年も相變らず——お變り無く——宜しくお願申上ます。」と（挨拶一禮）

## ——普通一般の新年の答禮挨拶

「仰の通り、新年でお芽出度うございます。——或は單に、お芽出度うございます。と（挨拶一禮）私の方こそ色々と御厄介になりまして、有難う存じます。何卒本年も相變りませず、宜しくお願申

上げます。」と（挨拶一禮）

## ——家族の者又は保護者よりの新年挨拶

「明けましてお芽出度うございます。と（挨拶一禮）舊年中は（主人）（愚妻）（愚息）（愚女）（兄）（弟）（姉）（妹）が一方ならぬお引立にあづかりまして、有難うございました。と（挨拶一禮）。何卒本年もお變り無く——相變らず——お引立御指導下さいます樣、呉々もお願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

## ——家族又は保護者に對する新年の答禮挨拶

「新年でお互にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）御挨拶でございますが一向に行屆きませんでございました。と（挨拶）仰までも無く出來得る限り本年もお務めいたします。」と（挨拶一禮）

## ——途中にて長上への新年挨拶（對話）

（途中で長上の方に出逢つたなれば、先づ一間ほど手前で、肩掛、帽子、等を取のぞき、左手に持ち



長上の方が眞前に進んで來られた頃を見計らひ、）

**下者** 新年でお芽出度うございます。と（挨拶一禮）昨年は種々お引立に預りまして有難うございました。尙ほ本年も相變らず宜しくお引立の程、幾重にもお願ひ申上げます。と、（挨拶一禮）

**長上** 先づ明けまして、お芽出度う。と（挨拶一禮）何分多忙の身で、いつも不行屆の事ばかりで相濟みませんでした。と（挨拶）それから、昨年末は大變結構なお歳暮を頂戴して、有難うございました。と（挨拶一禮）

**下者** いゝえ、ほんのお印だけで、お恥しうございます、と（挨拶一禮）

**長上** 今日は、何方へ……、

**下者** ハイ、一寸と親族へ年詞に參る途中でございます。と、（輕く挨拶）

**長上** さうですか、それでは之で失禮します。お手すきの時に、お遊びにいらつしやい。——お出で下さい——。と（挨拶一禮）

**下者** ハイ有難う御座います。と（挨拶一禮）お歸りでございましたら、どうぞお宅樣へ宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

## ――新年に長上の宅を訪問した場合の挨拶（對話）

客　新年でお芽出度うございます。と（挨拶一禮）

主　お互に新年でお芽出度うございます。と（挨拶一禮）

客　舊年は一方ならぬお引立を蒙りまして有難うございました。と（挨拶一禮）何卒本年もお變り無く、宜しくお力添へ下さいます樣お願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

主　いいえ、一向に行き届きませんでございました。と、（挨拶）何卒お互に宜敷お願申上ます。と（挨拶一禮）昨年末は又大變結構なお歳暮を頂戴いたしまして、有難うございました。と（挨拶一禮）

客　いゝえ、誠にお恥しい事でございます。――さう仰しやられますと、お恥かしうございます。――。と（挨拶一禮）

客　それでは、之で失禮いたします。――失禮させて戴きます――奥樣に宜しくお傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

主　承知いたしました。貴方もお歸りになりましたら、皆樣に宜敷お傳へ下さいませ。（挨拶一禮）

客　ハイ、左樣申聞けます。と（挨拶、改めて）それでは、御免下さいませ。と（挨拶一禮）



主　御免下さいませ。と（挨拶一禮）

## ――新年に知巳を訪問した場合の挨拶（對話）

客　新年お芽出度うございます。と（挨拶一禮）

主　お互にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）

客　舊冬は何與れと無くお世話樣になりまして、誠に有難うございました。何卒本年も相變らず、宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

主　何を仰しやいますやら、私の方こそ御面倒のことばかり申上げて、御厄介をお掛けいたしまして、誠に有難うございました。と（挨拶一禮）何卒私の方こそ宜敷お願ひ申します。と（挨拶一禮）それに年頭は早々貴方樣の方から態々お運び下さいまして、有難うございました。と（挨拶一禮、と同時に一寸失禮いたしますと挨拶して立上り、お座ぶとんを進め）、何卒お敷き下さいませ、と（挨拶、手あぶり――火鉢――の用意のあります時は）何卒お寄り下さいませ。と（挨拶、用意のない室に案内した時は、手あぶりを持ち來たりて）何卒お當て下さいませ、と（挨拶、次にお菓子を進め）本年の干支にちなみましたものでございます。又は本年の勅題にちなみましたものでございます。（お茶を進め）

お飼茶でございますから、何卒一服召上りませ――お上り下さいませ――と（挨拶一禮、又屠蘇を進め）御祝儀でございますから、何卒一献お受け下さいませ。と（挨拶一禮）

客　（其都度）ハイ、有難うございます。と（挨拶一禮）

（これより主人側はお正月の馳走を進め、談笑の内に饗應いたします。）

（このとき客は餘り長座にならない樣時間を見計らひ、早々に座をすべり）、大變御馳走樣でございました。と（挨拶一禮）

主　いゝえ、如何いたしまして、お正月の事でございますから、御ゆるりとお遊び下さいませ。と（答禮挨拶）

客　どうも長居をいたしまして、失禮いたしました。と（挨拶一禮）

主　何れ私の方よりも御挨拶に上りますが、お歸りになり――遊ばし――ましたなれば、皆樣に宜しくお傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ、左樣申傳へ――申付け――ます。（とて立ち上り、玄關に進み、己が所持せし、肩掛、帽子、半コート、マント等を手に持ち、庭に降ります。此時主人は）

主　何卒お召物をお召し下さいませ。と（挨拶）

客　それでは、失禮さして戴きます。と（挨拶をなしつゝ、半コート、肩掛、等を身に纏ふ。此時主人は、其着附を助けます。）

客　どうも恐入ります。と（挨拶の後庭に降り、改めて）さようなら。と（挨拶一禮）

主　さようなら、御免下さい。と（答禮挨拶）

**注意**　他人のお家を訪問いたします場合は、自己の身に纏へる、帽子、肩掛、半コート、マント、等は門外で脱いで左手に持ち、玄關に進み案内を乞ひます。又歸りの時は、門外まで持つて出て、然る後に身に纏ふのが禮であります。

## ――御祝儀と御年始の區別

近頃の方は御祝儀とお年始を同一のものゝやうに考へて居られるやうでありますが、之は大なる間違ひであります。

御祝儀のお肴には（スルメ）（コンブ）（カチグリ）等を三寶に盛りまして之を客に差出します。次に屠蘇を三献進めます。屠蘇とは（山椒）（防風）（肉桂）（結梗）（白朮）等を調合いたしました藥を、白又は紅の布地で作つた三角形の袋の中に入れたものを申します。之を、酒に浸して差出します。此

の酒を俗にお正月の屠蘇と申します。――但し家風によりましてはお酒の代りに味淋を用ひるお家もございますが、之は女、子供、等の口にも合ふ樣にと考へられたものでございます。――此屠蘇を進めました後に、お福茶を進めます。是を卽ち新年の御祝儀と申します。

## ――御福茶と粗茶との區別

普通一般に誰でも自已の物は謙遜する意味で（粗）と云ふ言葉を用ひますが、之も又大變な間違ひであります。如何に謙遜が美德だといつても、時と場合に依りましては、『粗』といふ言葉を用ひては非常な失禮になる場合があります。お芽出度い場合、又はお正月お祝等の席では、よく〳〵注意しなくてはなりません。殊にお正月は一年の始めでありますから、成可お芽出度い言葉を用ひて、お互に祝福し合ふのが『禮』であります。例へばお正月に梅干を入れてお煎茶を進めた時は『お福茶でございますから、一つお持ち下さいませ』又、お菓子を進めました時は『本年の干支にちなんだものでございますから、何卒おつまみ下さいませ』と挨拶すべきであります。



## ――三ケ日中の心掛

三ケ日中は努めて笑ふ事、芽出度言葉を用ゐる事、禮儀を正しくする事、他人の事を云はぬ事、物事を大切にする事、時間を守る事、等に心掛け、その外萬事に對し正しい心を持ち、且つ、自分の缺點などに氣付いたならば、新年と共に斷然改めるやう努めなくてはなりませぬ。さうして新らしい習慣を作り、人格を高めてこそ、初めて新年を迎へる意義があるのであります。

## ――特に注意すべき言葉

（お座ぶとんを進める場合）お寒うございますから、何卒お敷き下さいませ。冷へますから何卒お當て下さいませ。

（手あぶり（火鉢）を進める場合）お寒うございますから、何卒おあぶり下さいませ。冷ますから何卒おのばし下さいませ。

（お菓子を進める場合）本年の干支にちなみましたものでございます。本年の勅題にちなみましたものでございます。

（お茶を進める場合）お茶でございますから、何卒一煎召上りませ。一服召上りませ。
（屠蘇を進める場合）御祝儀でございますから、一献召上つて下さいませ。御祝儀でございますから一盞お受け下さいませ。

## ――多數人に對しての挨拶

挨拶にも二つの場合があります。即ち一人と一人の場合と、一人が多人數に對してする場合の二つであります。

後者は主として會合に於ける主催者又は有志の挨拶でありまして、所謂テーブルスピーチがその大部分であります。年末年始の場合で申しますと、忘年宴會、新年宴會に於ける、種々の立場からの挨拶でありますが、如何に親しい人ばかりの會合でも、いざ多人數を前にして挨拶するとなると、相等もの馴れた人でも麻胡つくものであります。勿論演說や式辭と違つて、挨拶ですから長たらしく喋舌る必要はありませぬが、それかといつて、諸君、明けましてお芽出度う、相變らず何分宜しく……位では榮えない。少くとも、何かを代表し、或は選ばれて起つた以上、少しは挨拶らしい挨拶をしなくてはなりますまい。



## ――新年宴會幹事の開會の挨拶

「諸君、坤輿一轉して萬象新に、玆に昭和十一年を迎へることゝなりました。國旗は朝風に飜つて千門萬戸いづれも歡聲をあげて聖代を謳歌してをります。此歲首にあたりまして、過去一年間の事を回想して見ますると、寔に過去の歷史は空想と失敗の歷史でありました。併し私共は徒に失望するものでありません。古人も一年の計は元旦にあり、と申して居りますが、今年の事實は果してどうなるでせうか。斷じて過去のやうな失敗はないやうに努め、奮勵一番せねばならぬと思ひます。本日、知友相會し、新年の賀宴を開くに當り、本年に於ける事業の前途を祝し、且つ益々御懇誼を賜はらんことを希望いたします。」

## ――新年宴會に於ける有志者の挨拶

「古人の謂はれました光陰は矢の如しと申す格言は、千古を通じて今尙眞理なのであります。多事多忙でありました昭和十年は過ぎて、爰に新年を迎へることになりました。此の歲首にあたりまして、過去一年間を回想しますると、寔に夢の如き感じが致すのであります。期待致しました事業及び計畫

は、事實豫想に反した場合が多くありました。光陰は忽ち去つて復空しく一年を加へた次第であります。昔から一日の計は朝にあり一年の計は元旦にありと申して居りますが、定めし諸君に於かれても、周到なる御用意があること〻信じて疑はないのでありますが、吾人は過去の失敗の歴史に鑑みまして、本年は最善の努力を試みなければなりません。新年に際しまして、聊か所感を述べて挨拶に代へておきます。」

## ――忘年會幹事の挨拶

「古人は光陰は矢の如しと申して居りますが寔にその通りで、本年も最早餘す所兩三日となりました。然るに今夕の忘年會には斯く多數の御出席を得、誠に感謝に堪へない次第であります。顧ふに諸君に於かれましても、本年中に色々經驗を得られたこと〻信じますが、今夕は何卒御遠慮なく本年に於ける御經驗など話合つて、互に利益を交換し、交誼を厚うせられて、新年に處して益々發展の方法を講究せらんことを希望致す次第であります。又餘興として諸君御秘藏の隠し藝をお洩らしあつて、今夕の宴に一段の興趣をお添へ下されんことを、幹事が特にお願ひ申上げる次第であります。而して談笑交歡の裡に今夜を過し、新たなる勇氣と希望とを以て將に來らんとする新年を迎へることに致したいと思ひます。」

## ――忘年會有志者の挨拶

「只今幹事よりの指名に依り、何か一言述べなければならぬ義務の如きものを感じましたから、訥辯を弄して其の責を果さうと存じます。實に光陰は矢の如く流れ、本年も餘す所僅に數日になりまして今更過去一年間を回想しますると、徒に計畫のみ多くして、實行の毫も之に伴はなかつた失敗の歴史のみが眼前に髣髴と致しまして、寔に無量の感慨にうたれるのであります。併乍ら過去は如何にしても再び歸り來るものではありません。我々は此一年間の歴史に鑑みて、更に新年に對する決心を作り、意味ある新春の曙光を迎へなくてはならぬと考へます。今日この忘年會の席上に於て、親愛なる諸君と相會し、平素兎角御無沙汰勝ちにして、失禮を重ねてゐました方々と一日の歡を盡し得るのは、私の甚だ悦びとする所であります。」

## ――新年の用語

昨年中、舊年中、舊臘は、舊冬は、冬年は、色々、種々、御盡力、お引立、御高配、御庇護、御鞭

鍵、御助力、御指導、御教導、御垂情、御垂示、御配慮、お世話様、御厄介様、御面倒様、何奥となく、一方ならず、頂り、蒙り、賜り、相成、戴き、頂戴いたしまして、有難うございます。有難う存じます。感謝いたします、相變らず、相變りませず、お變りなく、

## 季候見舞の挨拶

手紙なら日頃の御無沙汰を詫びる序に、態々季候見舞を出すこともありますが、口頭で態々見舞に行くことは少ない。先づ何かの要事で行つた場合、或は途上で逢つた場合に述べるのが普通で、たゞ暑いとか寒いとかいふだけなら何でもないが、氣の利いた挨拶するには日頃の心掛が必要であります。

### ――春の挨拶

「此節は大變春めいて參りましたが、お宅（お内）では皆々様お變りございませんか。と（挨拶一禮）いつも御無沙汰ばかりいたしまして、相濟みません。と（挨拶）私方もお蔭様でこれといふこともなく、皆達者で過して居りまする。と（挨拶）此節は私共の邊では、〇〇の櫻が眞盛りでございます。次ぎの日曜日にでも、是非皆様お揃ひで、お出掛け下さいませんか、まだ殘りのよめ菜や土筆も少しはございます。」と（挨拶一禮）

### ――春の挨拶の用語

〇肌心地よい時候〇凌ぎよい時候〇誠に申分のない陽氣〇よい季候でございます〇氣も浮き立つやうな〇春暖の時候

### ――夏の挨拶

「お久しうございます。と（挨拶一禮）土用に入りましてからは、毎日照りつゞきまして一層お暑うございますが、お内皆々様は御機嫌お宜しうございますか。と（挨拶一禮）私の方もお蔭様で本年は皆達者でございますから、御安心下さいませ。と（挨拶一禮）まだ〳〵暑さが續きさうでございますから、何卒皆々様お身體を御大切になさいませ。（折角お身體をお厭ひ遊ばしませ。）」と（挨拶一禮）

### ――夏の挨拶の用語

〇大變お暑くなりました〇堪へ難いお暑さ〇凌ぎ難いお暑さでございます〇お宅様はお涼しいやうで

ございますが、宅などでは……。

## ——秋の挨拶

「暫くでございます。と（挨拶一禮）朝夕の涼風に、いくらか秋らしくなつて參りましたが、お宅様では皆様御壯健で居らつしやいますか。と（挨拶）私の方はいつも病氣がちの母が、本年は至極達者でございますから、皆の者も大變喜んで居ります。と（挨拶）これは鄉里から參りました梨でございます。珍らしくもございませんが、ほんの一つお裾分けいたします。どうぞお子様に差上げて下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——秋の挨拶の用語

○立秋とは名ばかりで、大變お暑うございます○何日までもお暑ひことでございます○涼風にやうやく秋らしくなりましてございます。○日中でもさすがに秋らしくなりましてございます。○朝夕は大變（めつきり）凌ぎよくなりましてございます。



## ——冬の挨拶

「お久しうございます。と（挨拶一禮）皆様お變りはございませんか。と（挨拶）私共でも皆達者で居りますが、昨今のお寒さで出不精にばかりなりまして、ほんとに申譯ない御無沙汰をいたして居ります（心にかゝりながらも御無沙汰がちで）と（挨拶一禮）いづれその內、ゆつくり一度寄せて頂きますが、少し急ぎの用事がございますので、今日はこれで失禮さして頂きます。と（挨拶）お寒さの折でございますから、折角お身體をお厭ひ遊ばすやう、皆様に宜しくお傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）左様なら、御免下さいませ。」と（重ねて挨拶一禮）

## ——冬の挨拶の用語

○めつきり冷え始めましてございます○追々冬らしくなつて參りました○嚴しいお寒さ○寒に入りましてから格別のお寒さ

# 物品贈答の挨拶

物品の贈答に先づ誰何もお氣をお使ひになるのは、贈答すべき品物の撰擇であります。此の撰擇に當りましては、誰何にしても幾分かは必ず自分本位になるものでございますが、これは是非とも先方の嗜好を考慮して、ぴつたりその趣味に適する物を贈らなければなりませぬ。

それから物品を持たせますために、供を連れました時は、自分の身のまわりの物（肩掛、ハンドバツクなど）は、全部供の者に持たして置いて、お客間に通ります。

又訪問されました方では、此の場合、供人を待たして置く室を與へ、これにも茶菓を差出し、歸りには少しの心附けを與へるのが禮でございます。供の者は、若し心附けをもらひましたら、そのことを主人に申述べ、主人は應接の家人に對して「只今は供の者にお心附を頂戴いたしまして、有難うございました。と（挨拶一禮）私より厚くお禮申上げますと。」（重ねて挨拶一禮）いたします。

## ——新茶を贈る挨拶（對話）



贈る人　大變お暑くなりましてございますが、皆様お變りはございませんか。と（挨拶一禮）

主婦　ほんとうにお暑くなりましてございますが、貴女様は何時もお達者で御結構でございます。と（挨拶一禮）私の方もお蔭様で無事に暮して居ります。と（挨拶）

贈る人　此のお茶は誠に少々でございますが、八十八夜に摘みました芽を、手すさみに製しましたものでございます。お目に掛けます様な品ではございませんが、私の邊では八十八夜に摘みましたお茶を飲みますと、惡病に掛らぬとか申します。ほんの少しでございますが、お裾分いたします。と（挨拶一禮）お宅様等は日頃宇治狭山の精撰にお馴でございますから、お口にはとてもお合ひ申ませんけれど、おまじないのお心算で、御老人様と御笑味下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——中元の贈物持參の挨拶（對話）

客　御免下さいませ、お暑い時分にお邪魔いたします。と（挨拶一禮）

主婦　イ、エ、ほんとうによくお出掛け下さいました。と（挨拶）

客　大變お暇しうございますが、皆様お變りはございませんか、時々お伺ひいたしますが本意でございますが、失禮ばかりいたして居ります。と（挨拶一禮）

主婦　イ、エ、私の方こそいつも御無沙汰ばかり致して居りますが、お暑いにも拘らず、皆様お變りございませんでは、何よりも御結構でございます。私の方も、本年はお蔭様で皆達者で暮して居ります。と（挨拶）

客　左様でございますか、お互様に達者が一番結構でございます。と（挨拶）

主婦　お仕度をお寛め遊ばして、おくつろぎ下さいませ。と（挨拶、帯をゆるめてお楽にといふも同じであります。）

（此間に女中が冷しコーヒー、か又はコー茶、麥茶の類を持つて出て進めます。）

主婦　何卒。と（挨拶して口を添へます）

客　有難うございます。御遠慮無く頂戴いたします。と（挨拶、此頃より、主、客、は共に日頃の無談に入る。其内水菓子なども進めます。）

主婦　何卒お一つおつまみ下さいませ。と（挨拶）

客　有難うございます。と（挨拶）

主婦　一寸と失禮いたします。（といつて中座して、勝手元に行つて息女或は女中等に、お食事の用意を命じます。このあひだに客は持參の物品を差出す様に、用意いたします。やがて、主婦が元の座に



歸つて。）

主婦　どうも失禮いたしました。と（挨拶）

客　如何いたしまして。と（答禮と、同時に用意の品物を差出し）之は誠にお粗末な品でさいますが、お中元のお印でございます。と（挨拶一禮）

主婦　之はまあ何かと存じましたら、お中元を下さいますとは逆さ事でございます、私の方からいたしますのが道でございますのに、貴方様の方から頂戴いたします事は道でございませんから、之だけは頂戴いたしましたも同じでございますから、元通りお納め下さいませ。と（挨拶）

客　其の様な御挨拶では却てお恥かしうございます。何卒其様に仰しやらないでお納め下さいませ。と（重ねて挨拶）

主婦　其では、主人が歸りましたなれば、如何申ますか分りませんが、お言葉に從ひまして、御遠慮なく頂戴いたします、有難うございます。と（兩手に持ち上げ鄭寧に一禮いたしまして、女中、又は、息女を呼び寄せ）之は奥様から頂戴いたしましたお品ですから、主人の居間の床の上に置きなさい。と（挨拶）

女中　ハイ、承知いたしましてございます。と（挨拶、と同時に兩手に持ち上げ、二三歩退り、物品

を持ちしまゝ）奥様、お食事の用意が出來してございますが、どちらにいたしませう。と（挨拶）

客　あら、若し、私でございますなら、何卒おかまひ下さいませんお様にお願いいたします。お蔭様で汗も引きましたから、之で失禮さして戴きます。と　挨拶）

主婦　マアお宜敷うございます。日中はお暑うございますから、何もございませんが、娘共も大變よろこんで居りますから、御一所におつき合ひ下さいませ。と（挨拶、と同時に、女中に對ひ）いつものお座敷がお涼しいから、失禮ですけれど、あちらに用意をしてお呉れ、さうして用意が出來ましたら、此の扇風器をあちらの方へ運んでお呉れ。と（挨拶）

客　それでは、却つてお暑い時分に、お手間をお取りいたしまして相濟みません。と（挨拶）

主婦　彼女等の御馳走でございますから、御遠慮には及びません、ほんのお凌ぎでございます。と（挨拶、此時、息女出で來り、）

息女　小母様、お母様、御飯のお仕度が出來ましたから、何卒彼方へお出で下さいませ。と（挨拶一禮）

主婦　それでは何卒此方へ、（と立ち上ります）

客　それでは、お言葉に甘へまして、お令嬢様や女中さんのお手づからのお心盡を、御遠慮なく頂戴いたしませう。と（挨拶と、同時に立ち上り主婦の後に續いて、定めの席に着座いたします。と同時に）ほんとうに相濟みません。と（挨拶）

主婦　何卒いたしまして。と（挨拶）大變お粗末でございますが、ほんのお凌ぎでございます、何卒召上りませ。と（挨拶）

客　有難うございます。と（挨拶）

主婦　サア何卒。（と進む）

客　頂戴いたします。と（挨拶、と同時に、お茶碗を取り上げ、息女の作つた心盡しの品を褒めつゝ頂戴いたします。そして最後に）何卒も色々と御馳走様でございました。と（挨拶一禮）

主婦。イエ　如何いたしまして、お口にお合ひ惡うございましたでせう。と（挨拶、と同時に、女中共は膳部を引き退げます、之れより主、客、共に暫時談笑の後、）

客　日も大分かたむきまして、お涼しくなりましたから、之で失禮いたします。（と座蒲團を離れ）お暑い時分に長居をいたしまして、其上大變御馳走様でございました、何卒お暑い時でございますから、皆様お身體を御大切に遊ばし（なさい）ませ。と（挨拶一禮）

主婦　有難うございます。モウお歸りでございますか、お暑い中を、折角お運び下さいましたのに、

一向おかまひも致しませんで、ほんとうに失禮いたしました。何卒貴方樣もお身體をお大切に遊ばしませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ有難うございます。御主人樣がお歸りでございましたなら、何卒宜敷お申傳へ下さいませ。と（挨拶）

主婦　ハイ左樣申傳へますでございます。又、大變御結構な品を頂戴いたしまして、有難うございました。お歸りになりましたら、お內皆樣に、宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ左樣申傳へまする。と（挨拶一禮、此時、主、客、共に）さようなら、（時に依つては主婦、又は女中、息女が、門前までお見送りいたします。）

## ——歲暮贈り物の挨拶（對話）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

主婦　（玄關に出迎へ）入來つしやいませ、これは〳〵、ようこそお出で下さいました、今日は大變取散らして居りますが、何卒お通り下さいませ。と（挨拶一禮）

客　御多忙中お手間をお取りいたしましては、却つて相濟みませんから玄關で失禮さして戴きます。と（挨拶）

主婦　其では御挨拶も出來ませんから、むさ苦敷うございますけれ共、何卒お通り下さいませ。と（重ねて挨拶）

客　其では折角でございますから、一寸お邪魔さして戴きます。御免下さいませ。と（挨拶一禮）

主婦　サア、何卒此方へ。と（挨拶、此の時客は主婦の案內に連れられて客間に通り、床、花、置物等を拜見いたしまして席に着きます。又主婦は座蒲團を持つて入り來つて、火鉢の近くの上座に敷いて、進めます。）

客　有難うございますと（挨拶。が座蒲團を敷かず）、大變押つまりまして御多用にございませう。と（挨拶一禮）年內は色々とお世話樣になり乍ら、つい御無沙汰ばかりいたしまして、申譯の無い事でございます。と（挨拶一禮）

主婦　何を仰しやいますやら、御無沙汰は當方でございます。お內樣には皆樣お變りはございませんか。と（挨拶）又本日は御遠路の處を、よくお出で下さいました、何卒御ゆつくり遊ばしませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ有難う存じます。お蔭樣で皆達者で暮して居ります。と（挨拶）

主婦　それは何よりでございます。と（挨拶、之れにて普通一般の時候の挨拶が済んだ譯です。一寸氣を、變へて）何卒、お敷下さいませ。と（挨拶）

客　ハイ、頂戴いたします。と（挨拶）

主婦　失禮でございますが、と（挨拶、お菓子を進め）粗菓でございます。と（挨拶一禮）

客　有難うございます。何卒おかまい下さいませぬ樣にお願申上げます。と（挨拶一禮）

主婦　イ、エ、ほんの有合せ者で誠に失禮でございます。と（挨拶一禮）若し、客がお菓子を取られない樣な場合は、よく氣を附けて懐紙を持ち出で、之にお菓子を取つて進め）粗菓でございますが、何卒お一つお摘み下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ、有難うございます。御遠慮無く頂戴いたします。と（挨拶一禮）と同時に、お茶を飲みお菓子を割つて食べます。此間に、主客は共に、四方山のお話をいたします。其内、客は餘り長座にならない樣氣を附け、よい加減を見計ひ、持參いたしましたお歳暮を取り出し）之は誠にお粗末でございますが、年末の御祝儀のお印でございます、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）

主婦　左樣な事は、何卒御無用にして戴き度うございます。毎年々々お義理堅く、御心配をお掛け致しまして、却つて痛み入ります。と（挨拶一禮）

客　何をお仰しやいますやら、平素は御心配の掛けつぱなしで、ほんとうに申譯がございません。何卒其樣に仰しやられませんで、お納め下さいませ。と（挨拶）

主婦　左樣でございますか、其れでは折角の御芳志でございますから、頂戴いたして置きます。有難うございます。と（挨拶一禮）

客　ほんのお印でお恥かしうございます。と（挨拶一禮）

主婦（おうつりを入れてお風呂敷を持つて來て）只今は誠に御結構な御祝儀に預りまして、有難うございました。何卒皆樣に宜敷くお傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ、左樣申聞けますでございます。と（挨拶一禮して、落着いてそれとなく忘れ物などないやう氣をつけ、お茶碗を上座の膝頭より七八寸前横に進め、座蒲團を離れて下座の膝横に置きます）其では之で失禮いたします。大變御多忙中に出ましてお邪魔をいたしました。と（挨拶一禮、と同時に、）又新年の御挨拶には上りますが、皆樣御機嫌よく御越年遊ばしませ。（よいお年をお迎へなさいませ）と（挨拶一禮）

主婦　有難うございます、大變取り散らして居りまして失禮いたしました。御多用で居らつしやいませうから、お引留も致しませんでございます。今日は大變お足元のお悪いにも拘らず、態々お運び下

さいましたのに、何んのおかまひも致しませんで、ほんとうに失禮いたしました。と（挨拶）何卒、お宅様にも皆様、良いお歳をお迎へ遊ばしませ。と（挨拶一禮）新年にはお待ち申して居りますから、何卒御ゆつくりとお出掛け下さいませ。と（挨拶）

客　ハイ有難うございます、其では失禮いたします。と（挨拶一禮、と同時に立ち上り、玄關に進みコート、肩掛、手袋等を持つて庭に降ります。）

主婦　何卒お召し下さいませ。と（挨拶をいたしますと同時に、半コート、肩掛等の着附をお手傳ひいたします）

客　其では失禮いたします。と（挨拶して身に纏ひます。）

主、客　共に、左様なら。と（挨拶一禮）

## 結婚の挨拶

結婚は申すまでもなく生涯一度の大禮でありまして、終生の幸不幸は爰に始まるといつても決して過言ではありますまい。で、何人も只皆前途の多幸を祈る氣持から、忌言葉も相等あります。

斯う申しますと、或は時代遅れだとか御幣擔ぎだといふ方があるかも知れませぬが、心から多幸を祈る誠意があるならば、假令御幣擔ぎにもせよ、宜しくないといふ事は避けるに如かずであります。自分は兎も角、他人に好い氣持を與へぬとしたら、出來るだけ注意するのが人情であります。先づ一般的な結婚祝の主なる言葉を申上げますと、

○先頃お話申上げて居りました何子の縁談もいよ〳〵一昨日纏まりましてございますから御安心下さい。○御婚約がお整になりまして誠にお芽出度ございます。お輿入も恙なくお濟みになりましたさうでお芽出度うございます。○此品誠にお粗末でございますがお祝のお印でございます。○お聞きいたしますと先達ては御家内を迎へられましたさうでお芽出度うございます。○此度何子が某家へ嫁附く事に纏りましてございますから御安心下さいませ。○不つゝか者でございますが、何卒宜敷お願ひいたします。○お初にお目に掛ります。○私は何々と申します不つゝか者でございますが、何卒宜敷御教導の程呉々もお願申上ます。○此度は不思議の御縁で某家へ參りましてございますから、不つゝか者でございますが何卒宜敷お引立下さいませ。○幾久しく宜しくを願ひ申上げます。○松の緑の千代かけて、○此度何村何某の娘を宅の長男の嫁に貰ひ受けましてございますから、今後私共と同様に御懇意にお願申上ます。

## ——結納持参の挨拶

「今日は誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）此度御兩家の御婚約もお芽出度お整ひ遊ばし（になり）（なさい）まして、お芽出度う存じます、と（挨拶一禮）本日のお日柄を撰びまして、私が御名代に御結納を持参いたしましてございますから、お改めの上幾久しく御受納下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——結納持参者に對する答禮挨拶

「仰の如く（通り）（左様でございます）誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）本日は御遠路の處お使の御役目、御足勞様に存じます。と（挨拶一禮）就きましては御結納の數々お頂戴いたしまして、有難く幾久しく受納仕りまするでございます。」と（答禮挨拶一禮）

## ——結納披露に招く挨拶（對話）

**招く人**　其後は御無沙汰いたして居りますが、皆様お變りはございませんか、と（挨拶一禮）衆ねて

お世話様になつて居りました處の政子も、此度良緣がございまして、一昨日結納の取り交しも相濟みましたので、明日は晴の結納披露を致し度いと存じますから、何かと御多用ではございませうが、永々お心安く願つて居りましたばかりで無く、色々とお世話様になつて居りましたのでございますし、之が娘といたしましての御交際のお終にございますから、是非共お遊びにお出で下さいます様お願申上げます。と（挨拶一禮）

**主婦**　それは〳〵誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）衆ておうわさは伺つて居りましたが、御結納の御式もお濟みになりましたとは、誠にお芽出度うございます。お祝言を申上げます。と（挨拶）就きましては、明日其御披露にお招き下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）定めし御立派な事と存じます。何を置きましても是非共御伺ひいたしますでございます。と（答禮挨拶）

## ——本人に對し結婚祝を贈る挨拶

「お聞きいたしますと、貴女様には此度何々様と御婚約がお整ひになりまして、明日がお輿入れでございますさうで、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）其上先方様はお家柄と云ひ、御本人様の御人格と云ひ、誠に御立派で被居いますさうで、ほんとうにお仕合せでございます。と（挨拶一禮）

何卒お輿入の後はお二方様共に御圓滿に御幸福の様お祈りいたして居ります。と（挨拶一禮）之は眞にお粗末でございますが、心ばかりのお祝でございます、何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――結婚祝を受けし本人よりの答禮挨拶

「ハイ有難うございます。と（挨拶一禮）御承知の通り私は未だ學校を出ましたばかりで、家事の方は一向に分りません者でございますから、茲一二年間は（母や）（姉の）お手傳をいたしながら修業いたしました上で、と思つて居りましたのでございますが、某々先生のお進めに依りまして、參ります決心はいたしましたものゝ、家事に付きましての自信がございませんから、いざとなりますと何だか心細い樣な氣がいたしましてなりません。と（挨拶）而し先方へ參りました上は、某先生のお顏にかゝはらない樣に、兩親を初め皆樣にお勉めいたします考へでございますから、貴女樣も何卒宜敷お引立下さいませ。と（挨拶一禮）そして、只今は誠に結構なお祝を頂戴いたしまして、有難度うございます。と（挨拶一禮）御遠慮無く頂戴いたしまして、幾久しく私共の記念といたしますでございます。」と（重ねて挨拶一禮）

## ――結婚祝を家族の方に贈る挨拶

「承たまはりますれば此度お宅（御令嬢樣）（御息女樣）（何子樣）の御良緣が芽出度くお整ひ遊ばし（なさい）まして、明後日がいよいよお輿入れで被居いますさうで、眞にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）取分け御先方樣は御家柄なり、御人格共に申分のない御立派なお方でございますから、御本人樣は申までも無く、御一同樣も定めし御滿足の御事と、私共までがお喜び申上げて居ります。と（挨拶）之は誠にお粗末でございますが、お祝の御印でございますから、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）（某樣）（御令嬢）（御息女）（何子樣）とはほんとうに好一對の御夫婦で被居いますと、宅の者共もほんとにお喜び申上げて居ります。」と（挨拶）

## ――結婚祝を受けし家族の方より答禮挨拶

「御遠方の處わざ〳〵お運び（お出で）下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）實は、何子は家事其他に附きましては少しも其心得がございませんが、今暫時く家庭に置きまして、其修養をと思つて居りましたのでございますが、何何樣のお骨折りで、某家へ貰つて戴く事

に趣まりましてございますから、御安心下さいません。と（挨拶）そして、只今は誠にお美事なお祝を頂戴いたしまして、有難うございます。何子の紀念といたしまして、厚くお受けいたします。何卒某家へ参りました後も、夫婦共に行末永くお附合下さいません。と（挨拶）何分何子は學校を出ました早々の事でございますから、案じられましてございますと。」（挨拶）

## ——嫁の荷物持参者の挨拶

「今日はお天氣と申、お日柄と申し、誠にお芽出度う存じます。と（挨拶）只今何々様のお荷物を御持参いたしますから、何卒ぞお改めの上お受取下さいません。」と（挨拶一禮）

## ——嫁の荷物持参者に答禮挨拶

「今日はお使のお役目眞と御苦勞様でございました。と（挨拶一禮）只今はお荷物の數々確にお受取致しましてございます。と（挨拶）後程お受取書を差上げます。と（挨拶）就きましては荷役一お方御一同様に一献差上て居りますから、御貴殿にも何は無く共御ゆつくりお祝ひ下さいます様お願申上げます。」と（挨拶一禮）

## ——荷物持参者歸りの挨拶

「只今は御遠慮無くお祝を頂戴致しまして、大變酌致しました。荷役一同の者にまでお厚い御變應に預りまして、誠に有難く御禮申上げます。と（挨拶一禮）其上私を初め皆の者に、重ねての御祝儀を頂戴致しまして、有難うございます。皆の者に變りまして私から厚く御禮を申上げます。」と（挨拶一禮）

## ——姑より神佛に對する嫁の紹介挨拶

（嫁をともなひ神佛の前に進み頭を下げたまゝ）「此者は何子と申まして、今日より世取の嫁といたしまして貰ひ受けましてございますから、今後は此者がお家の所理をいたしますから、何卒お目を掛られましてお守り下さいませ。と（挨拶一禮、そして姑は嫁に對ひ）之は吾家に取りましては、お大切な御神佛でございますから、日々よくお勤めをしなければなりません」と（輕く會釋）

## ——神佛に對する嫁の挨拶

「ハイ、仰のお言葉は堅くお守り致します。と（挨拶一禮して、神佛に對ひ頭を下げたまゝ）私は何子と申します、不つゝか者でございますが、今後はお母様と同じ様に何卒お守り下さいませ。」と（小聲にて挨拶一禮）

## ――嫁の親より婿の親に對する挨拶

### 並に親族紹介の挨拶

「お初にお目に掛かります。私は花子の父作平と申します不つゝか者でございます。と（挨拶）此度は畑中様の御盡力に依りまして、不つゝかな娘を御ひろひ下さいまして有難うございます。と（挨拶）何分わき前の無い私共の娘にございますれば、自然何の仕附もございませんから、定めしお目だるい事と存じます、何卒嚴敷お仕附け下さいます様お願申上ます。と（挨拶）尙ほ私共もおつり合ひ申ません事のみでございませうが、何卒末永く御願申上ます。と（挨拶一禮）御親戚御一同様にも宜敷お願ひ申上ます。と（挨拶一禮）就きまして御親戚御一同様に御紹介申上ます。と（挨拶）是れは娘の何に當ります（何平でございます）（次は何々でございます）（次は何々でございます）不束者ばかりでございますが、私同様宜敷お願ひ申上ます。」と（挨拶一禮）

## ――婿の親より嫁の親に對する答禮挨拶

### 並に親族紹介の挨拶

「御鄭重なる御挨拶で誠に恐入ります。お言葉の通り此度は畑中様のお骨折りで、御息女を貰ひ受けまして、目出度式も終り、誠に安堵仕りましてございます。と（挨拶一禮）お見掛け通りの野人でございますから、御挨拶の御返答さへもいたし兼ねます様な有様でございますが、何卒、幾久しく宜敷お願ひ申上ます。と（挨拶一禮）御親戚御一同様にも宜敷お願ひ申上ます。と（挨拶一禮）就きまして御親戚御一同様に御紹介申上ます。と（挨拶）私の次に居りますは愚息の何に當ります（何村の何郎にございます）（次に居りますのは何村の何吉でございます）（次は何々次は何々と申します）野人ばかりでございますが、私同様宜敷お願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――兩家の親族より新郎新婦の親への挨拶（對話）

**親戚の者**　「御挨拶申上げます。此度御兩家の御盛典も芽出度くお濟みになりまして、誠にお芽出度う存じます。と（挨拶一禮）就きまして私は作平の娘花子の叔父に當ります久三郎と申ます無作法者

でございますが、花子の縁に連れまして、御親類の末席をお汚し申ます事になりましてございますから、何卒末永く宜敷お願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

**新郎新婦の親**　「有難うございます。と（挨拶一禮）御挨拶誠に恐入ります。と（挨拶）お仰の通り此度は不思議の御縁で御親類のおつき合をさして戴きます様になりましてございますが、不行き屆きの者ばかりでございますから、何かとお氣附の處は、御遠慮無く、宜敷御指導下さいます様お願申上げます。」と（挨拶一禮）

〔注意〕兄弟姉妹の挨拶も親族の挨拶と大差ありません。玆には略します。

## ――荷飾り披露に招く挨拶

「此度愚息何某の嫁に、何村の何某の娘何子を貰ひ受けまして、お蔭様で諸式萬端滯り無く相濟みました。と（挨拶）就きましては來る八日形ばかりの荷飾りを致しますから、午前八時より午後八時までにお遊びにお出で下さいませ。と（挨拶）何分節約の折柄で御座いますから、荷物は成可辭退いたしました物でございますから、お目に留まる樣な物はございませんけれど、嫁もお近づきの程お願ひ申上げ度うございますから、お繰り合せの上お運び下さいます樣おまち申上げます。」と（挨拶一禮）



## ――荷飾り披露に招かれた客の歸りの挨拶

「大變お難作をお掛け申しまして、誠に有難うございました。と（挨拶）若奥樣のお好みと云ひ、親御樣のお見立と申し、眞に御立派でございます。と（挨拶）其上近頃のお若い方とはお見受け出來ません程のおたしなみには、誠に敬服の外はございません。と（挨拶）流石は奥樣のお眼鏡にお叶ひ遊ばしましたお方樣だけに、萬事にお行き屆いて被居しやいます。と（挨拶）今日は久方振りに目の正月をさして戴きまして、有難うございました。と（挨拶一禮）其上色々のお心盡しのおもてなしにあづかりまして、有難うございました。就きましては皆樣に一々お禮を申上げますが本意でございますが、お事多い中で被居しやいますから、貴女樣から、皆樣へ宜敷お傳へ下さいます樣お願ひ申上げます。と、（挨拶一禮して座を立ち、靜かに玄關へ出て行つて土間に下り、玆でいひ忘れたことなど、例へば）若奥樣がお落着き遊ばし（なさい）ましたら、どうぞ御同道で、是非共お遊びにお出掛け下さいませ、お待ち申上げて居ります。左樣なら。」と（挨拶一禮）

## ――家族の者から結婚披露招待の挨拶

「先達ては愚息何郎の結婚の時には、御丁重なるお祝を頂戴いたしまして、誠に有難うございました。」と（挨拶一禮）其節は取まぎれて居りました物でございますから、大變失禮をいたしました。今日は皆の者よりも呉々も宜敷お禮を申上げて呉れる様にと申出でましてございます。と（挨拶一禮）就きましては明後何日何時から、自宅の方で披露を兼ねまして小宴を開き度と思つて居りますから、御多忙中で被居しやい（ござい）ませうが、何卒御主人様御同道でお運び（お出で）下さいます様お待ち申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――家族の者より結婚披露に招かれた答禮挨拶

「お仰せの通り（左様でございます）大變結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）お宅様には此度御令息何様が、御良縁にてお芽出度く御婚儀をお済ませになりましたさうで、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）其際はお粗末の品を差上げましてお恥しい事でございますのに、お禮のお言葉恐入ります。と（挨拶）其上只今は又御披露の御盛宴にお招き下さいまして、誠に有難う存じます。と（挨拶一禮）就きましては、外ならぬお宅様のお祝でございますから、主人共々參上いたしまして、千代萬代までもお榮へ遊ばし（なさい）ます様、お慶び申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――本人より結婚披露に招く挨拶

「今日は誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶）此度私の結婚に付きまして、色々と結構なお祝に預りまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）就きましては、愚妻がお親付きの爲め、最もお親しい方々計りをお招きいたしまして、一献差上度いと思ひますが、何の風情もございませんのに、わざ〳〵お運びをお願ひいたしますのも却て恐入ますけれども、御夫婦お揃ひで明後日何時より自宅の方へ（お運び）（お出で）（お出かけ）（お臨み）下さいます様お待ち申上げて居ります。」と（挨拶一禮）

## ――本人から結婚披露に招かれた人の答禮挨拶

「一昨日はお滯りなく御式をお濟ませなさい（遊し）ましたさうで、眞にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）心計りのお祝のお印でございますのに、お禮のお言葉には恐入ります。と（挨拶）其上御令閨様を御紹介下さいますのみならず、御盛宴にまでお招きに預りまして、有難う存じ（ございます。と（挨拶）實は私の方からお慶びにお伺ひいたさうと存じて居りました際でございますから、

必らず共にお邪魔さして戴きます。と（挨拶）何れお伺ひいたしまして、お慶び申上げますが、お師りになりましたら、皆々様に宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶）さようなら。」と（重ねて一禮）

## ——結婚披露の招待席上に於ける席順

床を中心といたしまして、正客から順次に對ひ合せに席に着きます。媒酌人、兩親、新郎新婦は末席から床の方に對つて着座いたします。

## ——結婚祝席上の媒介人の挨拶（其一）

（普通のお座敷の時は媒酌人は末座の方から稍正客の方に對つて座し）

「不束な私共の媒介に依りまして、此度御當家の何某樣と何村何兵衛樣の何女何子樣との御婚儀がお芽出度お濟みになりまして、本日御披露の宴を催される事になりましてございます。自今新郎新婦樣共に、未だ御若年の方にございますれば、何卒御兩親樣御同樣、宜敷私よりお願申上ます。一言皆樣に御挨拶申し述べます。」と（挨拶一禮）

## ——同（其二）

（料亭などで大一座した場合の、稍や大がゝりの披露宴の場合の一例）

（靜かに一禮）「何々家の令嗣某君が、不束な私共の媒介によりまして、玆に華燭の典を擧げられるに至りましたことは、誠に慶賀に堪へぬ次第であります。

某君は帝大出身の秀才、而かも品行正しく、嫁君は某女學校出身の才媛でありまして、誠に此上もなき好配遇と存じます。此の夫君にして此の嫁君を擁し、然も琴瑟相和し、膠漆の如くんば、御家内の榮えは必定と存じます。希くは此の芽出度き夕を忘れ給ふ事なく、鴛鴦の契睦まじく、高砂の尾上の松の千代かけて、いや榮へに榮へんことを、一言疎略ながら私の御挨拶といたします。」と（挨拶一禮）

## ——同く兩親の挨拶

（主人が末席から床の方に對つて着座いたしますと同時に、白扇を取り出し膝頭より一尺程前方の正面に置きまして）

父　只今御紹介下さいました通り、何樣の御壺力に依りまして愚息の結婚の際は、皆樣より御結構な

お祝を頂戴いたしまして、有難く御禮を申上げます。何分若年者にございますれば、何卒宜敷お引立の程お願ひ申上げます。と（挨拶一禮）又本日は御多忙の處を御足勞を煩はしまして、恐縮に存じます。と（挨拶一禮）お口に合ひます樣な物は何もございませんが、何卒本日は御ゆつくりお遊び下さいませ。と（挨拶一禮）と、同時に引退ります。）

（主人と行き違ひに母は嫁をともない室に入り來り、末席より床の方に向ひ、下座の方に着座いたしますと共に、嫁も下座の方に姑と相並びて着座いたします）

母　此度長男の嫁に貰ひ受けました何子と云ふ者でございます。何卒今後は私共同樣、よろしくお引立下さいませ。と（挨拶一禮、そして姑は嫁に對ひ）此お方樣は市、町、村のお方々ですから御挨拶を申上げなさい。」と（挨拶）

## ――新婦の挨拶

「お初にお目に掛ります。私は何子と申ます不束者でございます。何卒宜敷お願ひ申し上ます。と（挨拶一禮）

（斯くて姑と嫁は引取りますと行違ひに新郎が出ます）

## ――新郎の挨拶

「此度私儀結婚の際は、誠に御結構なお祝に預りまして、有難うございました。と（挨拶一禮）就きまして、愚妻も未だ若年にございますから、私同樣宜敷お心添へ下さいませ。と（挨拶一禮）其上本日は皆樣の御多忙中に拘らず、御來車下さいまして誠に有難うございます。と（挨拶一禮）何にもございませんが、本日は何卒御緩くりお遊び下さいませ。と（挨拶一禮）

## ――男の場合に於ける今一例

「今日は、皆樣御多忙中にも拘はらず、斯くお揃ひになつてお出で下さいまして、恐縮の外ございません。素より粗酒粗肴、お口に合ひますまいとは存じますが、緩々と召しあがられんことをお願ひ申します。愚息は御承知の通り、此の程漸く普通の學術を卒へ、これから家業に力を入れる場合となり、私夫妻も所謂初老の域に進みました折柄、幸ひ知人から緣談を勸められ、遂に某氏の媒介で、某氏の令嬢何々子と結婚の約が調ひました次第で私共の滿足この上もありません。何卒愚息夫妻も私共同樣、お愛顧お引立下さいますやう、御挨拶に代へてひたすらお願ひいたします。」と（挨拶一

謹して退席）

## ――正客の答辞挨拶

「御親父を初め一々御鄭重なる御挨拶、誠に痛み入ります。本日は私共まで御新婦様御披露の宴にお招きに預りまして、有難うございます。外ならぬお宅様のお祝にございますれば、御遠慮無く頂戴いたします。と（挨拶一謹）不肖貴ながら私が皆々様に代りまして、一言御挨拶申上げます。と（挨拶一謹）

## ――来賓代表の答辞挨拶（大一座の波瀾実に於ける例）

「諸君、私は人生の最も重大なる、且つ厳粛なる、此の結婚式に参列いたしまして、花婿、花嫁御兩位の為に、祝詞を申し述べますのは、非常なる光栄とし、また愉快に感ずる所であります。

今、私共の御同席を得つゝある御兩位は、百年の吉業を偕にせられんが為に、今日を以て偕老同穴の契りを結ばれたのであります。されば私は今こゝに新婚御夫婦の前途の益々幸福と光栄とに満ち、長寿の高歳ならんことを祈るが為めに、満腔の熱誠を以て、乾盃を提言いたすのであります。この盃は世間普通の場合のそれの如くに、単に一片の形式より来たものではございませぬ。

新夫人は才色兼備の名媛、新良人は人格優秀なる好紳士、このお二人が御生涯に入り、圓満幸福なる新家庭をつくられますのは、眞に聯球雙璧とも稱すべく、××家のます〳〵御繁榮は期して待つべきであります。私どもは御兩人の前途のいよ〳〵光榮に満ち、あらゆる幸福を伴ふべき一切の事業に成功せられんことを祈るのでありますが、これ等一切の幸福以上に、私の衷心より祈りまするとは、今日唯今お二人の胸に萌えつゝある愛情の、年と共にます〳〵華やかに、また確實にその輝きを増加しつゝ、今日この席に列る光榮を得ました我々をして、最も幸福なる結婚の第一日に、参列することを得たといふ記憶を與へられんことであります。

諸君、私は同じ喜びを胸に懐かるゝ諸君と共に、こゝに花婿花嫁御兩人の為に、前途のます〳〵幸福にして、天寿の高歳ならんことを祈りつゝ、乾盃いたしたいと思ふのであります。」（一謹）

## ――姑及び新婦の御礼挨拶

（姑は嫁に、二枚重ね或は三枚重ねを背せ、丸帯を締めさせ、文金高島田に、さんやに、船底を附けてハコセコを懐中せしめ、黒情の房付き扇子を兩手に持たしめてともない、挨拶廻りをいたします。

そして其の目的の家に參りましたなれば、先づ姑より先方の人に對ひ）

姑　昨日は御多忙中、御主人樣には御足勞下さいまして、有難うございました。實は此度長男の嫁に何村の何兵衛門の娘何子を貰ひ受けましてございますから、今後は私共同樣宜敷お願申し上げます。と（挨拶一禮）

主婦　それは〳〵御鄭重なる御挨拶、有難うございます。と（挨拶一禮）

姑　（嫁に向ひ、此方は此のお家の何々樣でございますから）御挨拶を申上げなさい。と（紹介する）

嫁　ハイ、お初めてゝございます。（お初にお目にかゝります）私は何子と申します不束者でございますが、何卒宜敷お願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

主婦　申後れましてございます。私は此家の何々でございますが、何卒お互に宜敷お願申上ます。と（挨拶一禮）

注意　（嫁は挨拶の場合は少しく遠慮の意にて、稍々頭を下げ、何卒の邊より腰を曲げて一禮いたします。すべて動作は落付いて、しとやかにするやう心掛けねばなりませぬ。）

## ――結婚後新婦の實母より結に對する挨拶



「此度は不思議の御緣で、不束な娘何子を貰つて戴きまして、有難うございます。と（挨拶一禮）就きましては、お恥しい事でございますが、何分學校を出ました計りで、未だ何の仕付も出來て居りませんから、家事其他の事に付きまして、定めしお目だるい事と存じますが、何卒御面倒でございませうけれども、一よりお仕込下さいます樣特にお願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――結婚後新婦の實母より嫁の母に對する答禮挨拶

「お言葉の通り此度は不思議の御緣で何子を戴きまして、暴息も大變滿足さうに見受けられます。と（挨拶）何しろ暴息とても氣使者にございますれば、定めし嫁も氣骨が折れます事でございませうが、何卒此上は二人の者が仲良く暮して參ります樣、私共は心に念じて居ります。と（挨拶）それに何子は私共を初め皆の者に大變よく氣を附けて奥れますので、良人もよろこんで居ります。と（挨拶）何と申しても女は心のやさしいのが第一でございます。と（挨拶）如何にお仕込が十分でございましても、家風が變りますと勝手が違ひます事もございますから、之等は追々に慣れて參りますから、何卒其の樣な御心配は御無用にお願ひ致します。」と（挨拶一禮）

## ――結婚に關する忌み言葉

忌み言葉のことは前にも一寸申しましたが、大きのやうな言葉は決して用ゐてはなりませぬ、なるべく芽出度い言葉を用ゐるやう注意し、動作も努めて晴やかに愉快にすることが肝要であります。

○九は苦に通じ○四は死に通じます○破れる○逝る○落つる○砕ける○離別○悲しむ

## ――婚禮の用語

○婚約が整ひまして○婚儀を取結び○人樣のお勸めに從ひ○妻を迎へました○結婚の式を擧られ○お祝の品○是非お繰り合せ○小宴○御惠贈○御贈品○婚約相調り○幾久しく○申納め○妻は若年○記念品○吉辰○一層の御厚誼○不つゝか者○結納受納○亀占吉に合ひ合衾の典を擧げらる○華燭の典を擧げらる○人生の慶事之より大なるはなし○華燭耿々滿座を照し瑞氣藹々四方を繞る○瑞氣家に溢れ賀客座に滿つ○結婚は人生の重大事にして、家門の繁榮も之に因る○夫れ陰陽和合は天の理にして○朋を永け家を榮ぎ○夫婦良なると共に婦も亦温順ならざるべからず○一家の和合圓滿○琴瑟相和するは家運隆昌の因○妻を娶らば當に花の如くなるべし○某君は才德共に優秀○某君は本年未門を出でたる



秀才○夙に聰明の貴あり○今茲に某氏の令嬢と婚約成り○今回貞淑賢明なる好配を得、某嬢を迎へて益となす○合衾式○嬢は某女學校出の才媛を以て知らる○秀才に配するに才媛を以てす

## 出産の挨拶

お産は不自然な病氣ではありませぬが、産婦に取つても産兒に取つても、生きるか死ぬかの大役であります。

その大役をやうやく終つて、喜びの中にも極度の疲勞に陷つて居るのでありますから、如何に芽出度いからといつて、大きな聲でものをいつたり、笑つたりすることは慎まねばなりませぬ。勿論御婦人にはさういふ方は滅多にありませんが、男子にはよくさういふ方があつて、周圍の人達をはらはらさせることがあります。又、小さいお子さんのある方など、赤さんを見せて頂きませうなどゝいつて、態々連れて行く方がありますが、大都肥立つてからなら、それも差支ありませぬが、お産のそうそうでしたら必ず差控へねばなりませぬ。そして、相等親しい間柄でも、餘り長居してはなりませぬ。次ぎに一般的な出産祝の挨拶の言葉を申上げますと、

## ――産婦の姑に對する出産祝の挨拶

「今日に誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一體）承はりますと、二三日前奥様には、御安産遊ばし（なさい）ましたさうで、お芽出度うございます。と（挨拶一體）それに、いつも〳〵お坊ちやんばかりで被居いますのに、此度はお待ち兼のお嬢ちやんで居らしやいますさうで、貴女様を初め皆様も、定めし御滿足で居らつしやいませう。ほんとうにお芽出度うございます。と（挨拶）奥様は、平素お丈夫で居らつしやいますから、御安産の程は豫期いたして居りましたが、此度は又、格別の御安産で居らつしやいましたさうで、重ね〳〵お芽出度うございます。と（挨拶）之は誠にお粗末でございますが、ほんのお祝のお印でございます、何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一體）

## ――産婦の姑から答禮の挨拶

「ハイ、有難うございます。と（挨拶一體）兼て奥様に、色々と御心配をお掛け申て居りましたが、案じて下さいました程でもございませず、至極楽々と、一昨日身二つになりましてございますから、御安心下さいませ。と（挨拶一體）其上、今度は、待ちにまちました女兒が產れましたものでございますから、皆の者も大變よろこんで居ります。と（挨拶）早速お宅様の方へも、お知らせいたします皆でございましたが、つい遲くなりまして相濟みませんでございました。と（挨拶）そして、只今は早速御鄭重（結構）なるお祝を頂戴いたしまして、誠に有難う存じます。と（挨拶一體）何れ何子の忌の明け次第、お禮に差上げますけれど、（差出す皆でございますけれど）お歸りになりましたら、お内の皆々様に、宜敷お禮を申上げて下さいませ。」と（挨拶一體）

## ――産婦の夫に對する挨拶

「今日は誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一體）承はりますれば、奥様には今度が御初產にも拘らず、一昨日、御安產遊ばし（なさい）ましたさうで、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一體）取分け坊様がお生れ遊ばし（なさい）ましたさうで、貴兄方様御兩人は申までもございませんが、初孫のお顔をごらんになりました、御兩親様は、又格別のおよろこびて居らつしやいませう。と（挨拶）奥様のお手柄の程お羨ましうございます。定めし御陽氣の事でございませう。と（挨拶）此品は誠にお粗末でございますが、ほんの心ばかりのお祝のお印でございます、何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一體）

## ――産婦の夫より答謝挨拶

「これは〳〵御遠方の處をわざ〳〵お運び（お出で）下さいまして、誠に有難う存じます。と（挨拶一禮）何分初産でございますばかりで無く、生れます日も、十日ばかり延びましたものですから、皆の者も大變心配いたして居りましたが、案じるより生が易いとか申まして、産婆さんの參りました時は、もう産れて居ました樣な譯で、業々と身二つになりまして、皆の者も安堵いたしましてございます。と（挨拶）そして、其後の肥立もよく、子供も大變丈夫に見えますから御安心下さいませ。と（挨拶）又、只今は、誠に結構なお祝を下さいまして、有難く頂戴いたします。と（挨拶一禮）何れ其内家内をお禮に差上げまして、御挨拶申上げますが、お歸りになりましたら、何卒、お内の皆々樣へ宜敷お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――産婦に對する挨拶

（産褥に居る産婦を見舞ふことを、お室内見舞と申します。）

「今日は誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）貴女樣には、一昨日業々と坊樣御安産でございましたさうで、（坊樣を御安産遊ばしまして）お芽出度うございます。と（挨拶一禮）其後大變お違者で被居いますさうで、ほんとうにお芽出度うございます。と（挨拶）日頃のお望み通り、坊樣で、御主人樣を初め、御兩親樣も、嘸ぞかし御滿足で居らつしやいますね。と（挨拶）坊樣もよく只今は御よつて（ねむつて）居らつしやいませう、お祝申上げます。と（挨拶）（挨拶）まあ〳〵大變大きな赤ちやんで居らつしやいます事。（又は、お丈夫さうな赤ちやんで居らつしやいますこと。と賞讃の挨拶を申述べて）之は誠に失禮でございますが、お祝のお印でございます何卒お納め下さいませ。と（挨拶）そして之は貴女樣へのお力附けにと思ひまして、地王子を少し持參いたしましたから、召上つて下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――産婦よりの答謝挨拶

「何卒も有難うございます。奥樣には此度は、色々と御心配ばかりお掛けいたしまして、誠に相濟みませんでした。兩親初め良人も、皆よろこんで居ります。と（挨拶）それに生れます時に、比較的楽でございましたものでございますから、今日あたりは、床に伏つて居りますのが、何だかまどろかしい樣でございます。と（挨拶）そして、又、只今は重々のお祝を頂戴いたしまして、有難うございま

す。と（挨拶一禮）何れ、日が明き次第お禮に參上いたしますが、お歸りになりましたら（遊ばしましたら）何卒皆樣に宜敷お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——出產祝の挨拶（對話）

（前項の例は、皆個々の挨拶でありましたが、更にこれを對話體にして申上げますと、）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

主　（玄關に出て障子を開き）おや、よく彼らつしやつて下さいました。さあ、何卒（お上り）お通り下さいませ。と（挨拶）

客　いゝえ、今日は此處で失禮さして戴きます。と（挨拶）

主　でも、此處では餘り端近でございますから、御挨拶も出來ません、何卒……。と（挨拶）

客　失禮でございますけれど、本日は此處で御免下さいませ。と（挨拶）承りますれば、一昨日、若奥樣が御安產遊ばし（なさい）ましたさうで、お芽出度うございます。と（挨拶一禮）其後のお肥立は如何でございますか。と（輕く會釋）

主　ハイ、有難うございます。と（挨拶）色々と御心配をお掛け申まして、誠に申譯がございません。

と（挨拶）お藏樣で、兩人（母子共）至極達者でございますから、何卒御安心下さいませ。と（挨拶）

客　それは〳〵、誠にお芽出度うございます。（何よりでございます）と（挨拶）そしてお生れ遊ばしました赤ちやんは、どちら樣で居らつしやいますか。と（挨拶）

主　お藏樣で、世嗣が生れましてございます。と（挨拶）

客　それは〳〵、殊の外のお芽出度でございます。若奥樣も大變なお手柄でございますと。（挨拶）

主　ハイ、皆の者も大變よろこんで居ります。と（挨拶）

客　之は、誠にお粗末な品でございますが、ほんのお祝のお印でございますから、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）

主　まあ、左樣でございますか、それは〳〵早速御鄭重なお祝に預りまして、誠に恐れ入ります、外ならぬ貴女樣のお心靈しでございますから、有難く御遠慮なしに頂戴いたします。と（挨拶一禮、そして、敬々敷兩手に持ちて奥に入り紙紗包の中におうつりとして、半紙二枚を四つ折りとして入れ、玄關に持ち出で）どうも御叮嚀なお祝物を有難うございました。何れ產婦が肥立ちましたら、改めてお禮申上げます。と（挨拶一禮）

客　それでは是で失禮致します。と（挨拶）何卒若奥樣に隨分御養生遊ばし（なさい）ます樣、お傳

へ下さいませ。と（挨拶一禮）

主　ハイ有難うございます。と（挨拶）之は又大變端近で失禮いたしました。何れ後日お禮の御挨拶に上りますが、何卒お歸り遊ばし（なさい）ましたら、お内の皆樣に宜敷お申傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ、左樣申し傳へますでございます。と（挨拶）それでは御免下さいませ。と（挨拶一禮）

主　失禮いたしました、御免下さいませ。と（挨拶一禮、そして、客の姿が見えなくなるまで、その儘〻見送つて居る）

## ——出産祝に家族より招く挨拶

「其後は大變御無沙汰をいたして居ります。と（挨拶一禮）先日春子が分娩（お産）いたしました節は、お見事なお品をお祝下さいまして、有難うございました。と（挨拶一禮）其後お藍樣で兩人共丈夫に肥立つて居りますから御安心下さいませ。と（挨拶）就きまして明後日はお七夜でございますから、何の風情もございませんが、別懇の方々ばかりで、心ばかりの祝宴を開きまして、嬰兒の行末（前途）を祝つてやりたいと思ひますから、當日は午後二時から、奥樣御同道で御來宅下さいます樣、お待ち申上げます。」と（挨拶一禮）

## ——出産祝招待に對する答禮挨拶

「何子樣（若奥樣）の御分娩後は、疎々お見舞もいたしませんで、失禮ばかりいたして居ります。と（挨拶一禮）就にお粗末な品を差上げましたのに、お禮のお言葉で痛み入ります。と（挨拶）其後は、御兩人樣御壯健で、お床拂をお濟ませなさいまして、眞ね〳〵お芽出度うございます。と（挨拶）それに就きまして、明後日のお祝にお招き下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）お席をけがさして戴く樣な責格はございませんが、折角のお招きでございますから、お言葉に從ひまして、お祝に參上いたします。」と、（挨拶一禮）

## ——夫より出産祝に招く挨拶

「愚妻（何々子）が、過日分娩（出産）いたしました節は、嬰兒に大變お珍らしい（結構な）お祝品を頂戴いたしまして、就に有難うございました。と（挨拶一禮）就きましては、産婦の床拂も濟ませまして、明夕、宅で子供の命名祝の印と歌しまして、粗飯を差上げ度いと思つて居りますから、態〻お

呼立申上げます程の事ではございませんが、お子様御同道で午後四時ごろお運び（お出掛）下さいます様、お待ち申上げます。」と（挨拶一禮）

## ——夫より招かれし答禮挨拶

「先日は上りまして大變失禮いたしました。と（挨拶一禮）其後赤ちゃんも日一日と目立つて大きくおなりで居らつしやいませう。と（挨拶）そして奥様には、最早お床拂もお濟まし遊ばし（なさい）まして、何よりお芽出度うございます。と（挨拶一禮）只今は又、明日の御祝宴のお備しに、私共までもお招き下さいまして、誠に有難う存じます。と（挨拶一禮）外ならぬ貴方様のお内のことでございますから、子供達共々參上いたしまして、お祝申下げます。」と（挨拶一禮）

## ——出産祝の席上主人の挨拶

「皆様（御一同様）には、今日は御多用中にも拘らず、ようこそお運び（お出掛）下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）お蔭様で、此度はまちにまちました子供が生れまして、其上に、愛育も至極順調でございますので、家族も大變よろこんで居ります。又其節は種々とお心遣しのお祝に預かりまして、誠に有難う存じます。と（挨拶一禮）就きましては、今日抑々數お招き申上げましても、ほんの形ばかりで、何の風情もございません、お口にお合いたします様な品がございませんで、御迷惑でございませうが、厭兒の幸先を御ゆつくりとお祝ひ下さいます様、切にお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

## ——出産祝の席上正客の答禮挨拶

「只今は誠に御鄭重なる御挨拶で、痛み入ります。と（挨拶一禮）お祝と申しましても、ほんの心ばかりでございまして、誠にお恥しい次第でございます。と（挨拶）お宅様にも永々とお待ち兼ねで被居いましたお子様がお生れになりました上に、御長男様で、重ね〳〵お芽出度う存じます。と（挨拶）皆様のおよろこびと云ひ、奥様のお手柄と申し、御一同様に私がなり代まして、お祝の御挨拶を申し上げます。と（挨拶）今日は又お心遣しのおもてなしに預りまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）お言葉に從ひまして、御遠慮無く頂戴いたしますでございます。」と（挨拶一禮）

## ——出産祝席上有志者の挨拶

（やゝ大掛りな祝宴の席上で、殊に立食の祝宴に於けるテーブルスピーチの一例）

（静かに起つて一禮）「私は今日の祝宴の當の主人公たる、嬰兒さんの健康と長壽と、そして御幸福とを祝して、乾盃をいたしたいと思ふのでございます。」と（挨拶）

私は元來斯樣な祝宴に際しまして、皆さんの前に立つて御挨拶致しまするのは、至つて不得手なものでございますが、嬰兒さんの前途をお祝ひする名譽の爲に、一言御挨拶いたしたいと思ふのでございます。と（挨拶一禮）

××君、並に令夫人の如き、精神的にも物質的にも、社會の上流に立たるべき方々を御兩親とせらるゝ××君（嬰兒の名）は、御一方の賢明周到なる御薫陶の下に、將來立派な御人格者とならせらるゝことは要ふべからざるところで、洵に洋々春の海の如き御前途であるといはねばなりませぬ。願はくば××君（嬰兒の名）の將來の彌が上にも幸福に充ち滿ちて、御兩親の御名譽に一層の御光輝を加へられんことを、私は衷心より希望して止まないのであります。

今日御列席の諸君は、私以上に××君並に令夫人の御親友であらせられるのでございませうが、私は××君並に令夫人の御幸福を願ひ、今日の祝宴の主人公たる、××君（嬰兒の名）の健康と幸福と長壽とを祈る熱誠に於ては、敢て人後に落ちないつもりでございます。

諸君、どうか盃を引いて××君（嬰兒の名）の健康と、長壽と幸福とを祝して、乾盃をいたさうではございませんか。」と（盃を擧げて乾盃する）

## ――命名日の内祝を持參する女中の挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶一禮）先達て赤ちやんが出來ました折は（若奥樣の出産の節は）誠に結構（お慶事）、（お立派）なお祝を頂戴いたしまして、有難うございました、主人より奥々も宜敷お禮を申上げる樣にとの仰せでございます。と（挨拶一禮）そして、之は誠にお粗末でございますが、今日は赤ちやんのお七夜でございますので、内祝のお印でございます。」と（挨拶一禮）

## ――内祝を持參せる女中への答禮挨拶

「今日は、入來つしやいませ。と（挨拶）其後は若奥樣も赤ちやんもお達者で居らつしやいますか、と（挨拶）それは御結構でございます。と（挨拶）そしてもうお七夜でございますか、お早いものでございますね。それは〳〵有難うございます。と（挨拶）赤ちやんのお名前は（一夫樣）（和子樣）本統によいお名前でございます。と（挨拶）それでは折角のお祝でございますから、有難く頂戴いたし

ます。と（挨拶一禮）お歸りになりましたら、奥様に何卒宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶）そして赤ちゃんをお連れになつて、お遊びにお出で下さいませと、お仰被て下さいませ。と、（挨拶）さようなら。と（重ねて挨拶）

注意（此のお祝の品を頂戴いたしました場合は、半紙二枚を四つ折りにしておうつりとして、包みに入れてお返しいたします。又、お使ひの人には身分に應じて、心附をいたします。幼少の人達ならお菓子等を包んで差上ましても宜敷うございます）

## ――内祝を持参する子女の挨拶

「伯母様、今日は、先日坊が生れました時は、誠に結構なお祝を頂戴いたしまして、有難うございました。と（挨拶）そして今日はお母様が、お禮に上ります筈でございましたが、何かとごた〳〵して居りますので、失禮させて頂いて、何れお近い内にお禮に上りますと、私から奥々も宜敷申上る樣にと申しましてございます。と（挨拶一禮）そして之は誠にお粗末でございますが、今日は坊やの七夜でございますから、内祝のお印でございます。」と（挨拶一禮）

## ――内祝を持参せる子女への答禮挨拶

「よく被居いました。と（挨拶）其後お母樣や坊やもお變りはありませんか。と（挨拶）おやもうお七夜ですか、それは〳〵、どうも有難うございます。と（挨拶一禮）坊やのお名前は一郎さん、よいお名前ですこと、それでは折角のお志しですから、有難くお頂戴いたします。と（挨拶一禮）お歸りになつたらば、お母樣に宜敷、そして、坊やを連れて、一日ゆつくりお遊びに入來つしやつて下さいと云つて頂戴。と（挨拶）さようなら。」と（挨拶一禮）

## ――出産に關する成語と單語

○令閨昨冕弄瓦の喜びありて母子共に健全○世にも稀なる玉の如き○必ずや名を揚げ家を起すの寧馨兒ならん○令息の誕生の祝宴を開かる○御兩親たるお二方は、才美賢明のお方○他日風雲を叱咤し○馳驅○將來十分なる薫陶養育によつて○功名を樹つるは期して俟つべきなり○諺にも申す如く梅檀は二葉より馨しとか○瑞氣堂に繞る○瞬祉悉く至る○一門の繁榮家運の隆盛期して待つべし○我が郷の秀才○才氣溌剌○賢息は聰明叡敏○資性廉直にして温雅○夫人は淑良賢貞の德あり○生れた子女

の愚たらんと欲するも豈に得べけんや○人世の慶事豈之に過ぐるものあらんや○洵にお羨やましき大第○將來の隆盛○家基鼓に乘し○眷族の喜悅推察するに餘あり○淑徳の婦人○良妻賢母○賢息の將來を祝福せんとす○不肖幸に知を辱ふするを以て○此の賀筵に陪す歡喜の情禁ずる能はず○今日の御主人公たる賢息の將來を祝福し○健康と長壽を祈る。

## 誕生日の挨拶

日本ではこれまで、誕生日をそれほど祝ひません。都會ではさうでもありませんが、田舍では殊にさうで、意義ある自分の誕生日を、知らないで過す者が大部分であります。

そこへ行くと外國では、誕生日には必ず當人は一日業を休み、綺麗に着飾つて教會へ行き、神に感謝を捧げ、友人や近親から贈物をもらつて、愉快に一日を過すのであります。

いふまでもなく誕生日は、人間一生の第一歩で、一年に一度の記念日でありますから、出來るだけ愉快に過すと同時に、自分の存在をはつきり覺じて、神なり兩親に感謝の意を表し、且つその存在をより多く意義あらしめる覺悟をしなくてはなりませぬ。そこにこそ大きな意義があると、私共は思ふのでございます。

### ——子供の誕生に招く挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）大變お晩でお凌ぎよくなりましてございます。お宅樣にも皆樣お達者で、御結構に存じます。と（挨拶一禮）私の方もお蔭樣で何子が滿三歳になりまして、本月十五日が丁度誕生日でございまして、心ばかりのお祝をいたしてやり度と思ひます。何にもございませんが、私の手料理で粗酒を一盞差上たいと存じますから、御主人樣を初め、お子樣御同伴で正午からお運び（お出掛）下さいませ。と（挨拶）態々お運びをお願ひ致しましても、何の風情もございませんので、却へつて迷惑とは存じますけれど、何卒お出下さいます樣お待ち申上げます。」と（挨拶一禮）

### ——招待を受けし人の答禮挨拶

「入來つしやいませ。と（挨拶）仰せの通り大變お凌ぎよくなりました。お蔭樣で、皆達者でございます。おや、ほんに何子樣は、もうお三つでございますねえ。さぞお身大きくおなり遊ばしたことでございませう。それは〳〵お茅出度うございます。と（挨拶一禮）私共のやうな者までお心に留めら

れまして、御鄭重なお招きで恐入ります。と（挨拶一禮）何を差し置きましても、必ずお邪魔させて頂きます。何卒お歸り遊ばし（なさい）ましたら御主人様始め、皆様に宜しくお傳へ下さいませ。と（挨拶）御免下さいませ。さようなら。と（更に挨拶一禮）

## ——誕生祝に招待されし人が祝物を贈る挨拶

「先達ては御遠方の處わざ〳〵お運び（お出で）下さいまして、有難うございました。と（挨拶一禮）お言葉に甘へまして、御當日は子供達を召し連れまして、早々からお邪魔をさして載きまして、子供同様、幼心になりまして、緩る〳〵遊ばして頂きませうと、皆の者もよろこび勇んでお待ち申上げて居ります。と（挨拶）之は誠にお粗末でございますが、何かのお役に立ちましたならば私の滿足は此上も無い事でございます。と（挨拶）何卒其様にお仰せ下さいませんで、お恥しい品でございますが、お納め下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——當日の祝の挨拶（對話）

（誕生日の當日に於ける客と主人側との挨拶を、對話式に申上げますと）

客　今日は、御免下さいませ。と（挨拶）

主婦　入來つしやいませ。と（挨拶）是は何子様、ようこそお出下さいました、さあ何卒お通り下さいませ。と（挨拶一禮）

客　有難うございます。御免下さいませ。と（挨拶一禮して靜かに上る）

主婦　サア、何卒此方へ。と（挨拶をなしつゝ客室に伴ひ入り來る、客は此時床前に進んで、お幅、花、床、置物、等をよく拜見して座に着きます、此間に主婦はお座蒲團の用意などいたします）

客　今日は誠に御結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）

主婦　左様でございます。と（挨拶一禮）

客　先日は御遠方の處をわざ〳〵お運び下さいまして、有難うございました。と（挨拶）

主婦　其節は大變長座いたしまして、誠に失禮いたしました。と（挨拶）

客　いゝへ、どう致しまして、何のおかまひも致しませんで私こそ失禮いたしました。其節お招きに預りまして、本日は御遠慮無くお伺ひいたしました。と（挨拶一禮）

主婦　お出掛け難うございましたでせうに、ようこそお出下さいました、何卒暫時くおくつろぎ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ有難うございます。と（挨拶一禮）之は誠に有りふれた物でございますが、只だ今日の紀念にも吹りますれば幸福と思ひまして、持参いたしました、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）

主婦　何を仰しやいますやら、左様な御心配に預りましては、さかさ事でございます、私の方より差上げませねばならないのでございます、何卒御心配無用にお願ひいたします。と（挨拶）

客　其様に仰しやいます様な物ではございません、口上は（改つて斯う申しますと）大夢立派さうでございますが、品物は誠につまらない物でございます。と（挨拶）ほんの私共の心ばかりのお祝ひでございますから、お心安くお納め下さいませ。と（挨拶一禮）

主婦　左様でございますか、其れでは折角のお心壺しでございますから、頂戴いたしませんと、却つて失禮と存じますから、お言葉に甘へまして有難く頂戴いたします。と（挨拶一禮）

客　誠にお粗末でございます。と（挨拶）

主婦　ほんとうに相済みません。と（挨拶一禮）

## ――自分の誕生に客を招く挨拶（對話）

當人　御免下さいませ。と（挨拶）



招待を受ける家の主婦　入來しやいませ。と（挨拶）

當人　毎度父が上りましては長座ばかりいたしまして、御迷惑をお掛け致します。と（挨拶）今日お伺ひ致しましたのは外でもございませんが、明後日は私の二十八回目の誕生日でございます。其上結婚いたしましてから丁度五年目でございますので、兩親達が、今まではほんの内祝だけですましたが、今年は親しい方々に一献差上げたらと申しますので、突然で御迷惑でございませうが、是非御足勞をお願ひいたしまして、席上に花を咲かせて戴き度いと存じます。と（挨拶）併し厚ケ間敷うお願ひいたしましても、お口に合ふ様な者は何もございませんが、ほんの手料理でお恥しうございますが、午後四時にお出で下さいますやう、お待ち申上げます。と（挨拶一禮）さようなら（重ねて一禮）

## ――來賓有志者の挨拶

（來賓有志者一禮して一座を見廻し）「今日は某君の第何十回の誕辰に當りますので、玆に盛大な祝宴をお開きになつて、私如き者までも御招待を蒙りましたことは、大なる光榮とする所であります。今日斯うして御列席の方々をお見受け致しますと、何れも毎年某君の此の祝宴にお見えの方ばかりの様でございますが、既にそれだけでも、某君の友情に厚いことを證據立て、而して圓滿な人格者であ

られるといふことをも、窺ひ知ることが出來るのであります。某君は今や何々の事業に成功して、益々擴張せられんとしつゝあられますが、年々逆行されるのかと思はれるほどの御壯健で、益々御盛運で、實に羨望に堪へませぬ。玆に芽出度き祝宴に列りまして、聊か蕪辭を述べて祝意を表し、御挨拶に替へて某君の健康と幸福を祈る次第であります。」と（挨拶）

## ――主人の答禮挨拶

（にこやかに一禮して）「今日は私の誕生日祝賀の印までに、皆樣をお招き申しました所が、御多忙中にも拘らず、斯くお揃ひ下さいまして、衷心から感謝する次第であります。毎年皆樣と斯うして一堂に集りまして、お變りのないお顏を拜し、過去の樂しい追憶を語り合ふのは、何よりも愉快なことに存じます。本席は素より、魚酒魚肴で、お口に適ふ樣なものはございませんが、何卒私の微衷をお酌み取り下さいまして、十分の歡を盡されんことを希望いたします。謹んで御挨拶申上げます。と（鄭寧に一禮）

## ――誕生祝に關する用語

○誕生日の祝宴を開かる○姻戚知友相會し○私も年來厚情を賜はつてゐる者の一人○西洋の諺に曰く、人四十にして知たり、五十にして富ますんば、終生知たり富たるの時なかるべしと○瑞氣堂を繞○某君は幸福圓滿なる家庭に抱擁され○某君の如きは、功績並び高く、壽齡倶に備はると謂はざる可けんや○身心强健、意氣尙ほ壯者を凌ぐ○年々歲々同一の友人が斯く見受けられる所を見ますのは○取りも直さず某君が如何に友情に厚きかを證するものであります○某君こそ私共に對する嚮導者であります○良友○何時までも此の紀念日の繰り返されんことを祈るものであります○諸君某君の健康を祝して乾杯を題ひたいものです○一言を以つて祝辭といたします○此の祝宴に列なるの光榮を得○聊か蕪辭を述べて祝意を表す○某君の長壽萬歲を祈る。

## 節句の挨拶

節句とは一月七日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日の所謂五節句の總稱でありますが、中でも三月の節句は雛の節句、桃の節句などゝいつて、年中行事の中でも重要な女子の祭であります。又五月の節句は菖蒲の節句、端午の節句といつて、男子のための祝日で、全國津々浦々に至るまで行

はれてゐる、我々日本人の持つ床しいお祭であります。

何處のお家でも子供が生れますと、初節句といつて、女ならば三月、男ならば五月にお祝をされますが、近親や知己はそれに先立つて、雛人形その他の贈物をいたします。

## ——雛祭の祝物持参者の挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）大變御無沙汰して居りますが、お變りもございませんか。と（挨拶一禮）定めしお嬢様もお身大きくお成り遊ばしましたことでございませう。これは誠にお粗末の品で、お目にお掛けいたしますやうなものではございませんが、お嬢様のお節句の玩具でございます、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）お言葉では却つてお恥かしうございます。では、御免下さいませ。と（挨拶一禮）さようなら。」と（重ねて一禮）

## ——祝物を受ける主婦の答禮

「入來つしやいませ。と（挨拶一禮）さあ、どうぞお通り下さいませ。と（挨拶）有難うございます。と（挨拶）一日々々お悪戯にばかりなりまして、此の頃では一寸も目が離せませんが、お蔭様で虫氣



一つございません。まあ、何日も〳〵御心配をかけまして、恐れ入ります。と（挨拶一禮）折角のお心壺しでございますから、御遠慮なく頂戴いたします。と（挨拶一禮）お宅へお歸り遊ばし（なさい）ましたら、皆様に宜しくお傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——節句の祝物持参者と主婦の挨拶（對話）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

主　入來つしやいませ、之はお珍らしうございます。サア、何卒お通り下さいませ。と（挨拶）

客　有難うございます、それでは一寸お邪魔して戴きます。御免下さいませ。と（挨拶して上る）

主　サア、何卒此方へ。と（挨拶）

客　有難うございます。と（挨拶と同時に指定の座に着座いたします）其後は暫く御無沙汰いたして居りますが、皆様お變りはございませんか。と（挨拶一禮）

主　有難うございます、私の方こそ誠に申譯の無い御無沙汰を致して居りまして、相濟みませんでございます。と（挨拶一禮）御蔭様で皆んな達者で喜んで居ります。と（挨拶）

客　それは何よりも御結構でございます。と（挨拶）

主　有難うございます。と（挨拶）

客　此節は陽氣も誠にお凌ぎよくなりましてございますから、定めし御令嬢様も一層のお發育でございませう。（お可愛いくおなり遊ばしたことでございませう）と（挨拶）

主　有難うございます、日々わるさにばかりなりまして、誠に困つて居りますが、お蔭様で虫氣一つございませんので、達者なだけが取り得でございます。と（挨拶）

客　お達者なのが何よりでございます。と（挨拶）是は誠にお粗末で、お目に掛けます様な品ではございませんが、御令嬢様のお節句の玩具でございますから、何卒お納め下さいませと（挨拶一禮）

主　まあいつも〳〵色々と御心配に預りますばかりですのに、又お節句のお祝を頂戴いたしまして、恐入ります。と（挨拶）

客　左様におつしやつて頂きます様な品ではございません、ほんのお玩具でございますから、何卒お心安くお納め下さいませ。と（挨拶）

客　左様でございますか、それでは毎度戴きますばかりでございますが、折角のお心壺しでございますから、御遠慮なく頂戴いたしますでございます。と（挨拶一禮）

客　其様なお言葉ではお恥かしうございます。と（挨拶）



主　御風流な貴女様方で居らつしやいますから、定めし御立派な事でございませう、宅が歸りましたら、早速拜見さして頂きます、有難うございます。と（挨拶一禮）

客　無風流者の見立でございますから、浦島太郎の玉手箱の様な事でございませうよ。（と品よく笑ひながら挨拶一禮）

## ――菱餅を贈る挨拶（對話）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

主婦　入來つしやいませ。と（答禮挨拶）何卒お通り下さいませ。と（又挨拶）

客　有難うございますが、今日は此處で勝手をさして頂きます。と（挨拶）

主婦　それでは餘り端近で、御挨拶も出來兼ねますから、……でもございませうが、何卒お通り下さいませ。と（挨拶）

客　今日は此所で失禮いたします。と（挨拶）此節は大分お凌ぎよくなりましてございます。と（挨拶一禮）

主婦　左様でございます。と（挨拶一禮）

客　お宅様にも皆様お達者で何よりでございます。と（挨拶一禮）

主婦　有難うございます。と（挨拶一禮）お宅様にも皆様御機嫌よく居らつしやいますさうで、何よりお芽出度うございます。と（挨拶一禮）

客　お蔭様で本年は皆達者でよろこんで居ります。と（挨拶）そして之は誠に不出來な品でございますが、明日が（何子）の誕生節句でございますので、慰に作りました菱餅でございます。幸二三日暖いお天氣でございました者ですから、子供等一同と散歩方々摘草をいたしまして、新よもぎで作りました物でございますから、香りだけが取り得でございます、お笑ひ草に召上つて下さいませ。と（挨拶と同時に差出します）

主婦　それは〳〵何日ながらお宅様にはお樂しみな事をなさいまして、おうらやましう存じます。と（挨拶）では折角のお心志しでございますから、有難くお頂戴いたします。と（挨拶一禮）と同時に敬々敷兩手にて取り上げ、奥に入り、器を空け、きれいに洗ひ、よく拭いて其中におうつりを入れて、元の座に歸り）如何も有難うございました。お色合と云ひ、お手ぎわと申し、誠に御結構でございます、御遠慮なしに頂戴いたしましてございます。と（挨拶一禮）

客　イ、エ、どういたしまして。と（挨拶）大變お手間をお取りいたしました、左樣なら、と（挨拶



一禮）

主婦　まあ、お宜敷うございます。と（挨拶）左樣でございますか、之は誠に端近で失禮いたしました。と（挨拶）何卒お歸りになりましたら（遊ばしましたら）皆樣へ宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ、左樣申傳へますでございます。と（挨拶一禮）

主婦　さようなら、御免下さいませ。と（挨拶一禮）

## ――五月人形を贈る挨拶（對話）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

女中　入來つしやいませ。（と出て來り、一禮と同時に）失禮でございますが、どなた樣でございませうか。と（挨拶）

客　私は長谷川と申ます者でございますが、奥樣は御在宅で居らつしやいますか。と（挨拶）

女中　ハイ居らつしやいますが、一寸お待ち下さいませ。と（挨拶と同時に立ち上り、奥へ入り）奥樣、只今長谷川樣と仰しやいますお方がお見へでございます、お玄關で一寸お待ちを願つて居ります。

と（挨拶）

主婦　あら、さう！。（と云ひつゝ玄關に出て迎へ）是れは大變失禮いたしまして相濟みません。さあ何卒お通り下さいませ。女中が初めてゞございますから、大變失禮いたしました。と（挨拶）

客　イ、エ、どういたしまして、仲々よく氣のきいたお女中樣でございますねえ。と（挨拶して客室に入り、床、花、置物、等拜見、座に付きます。此の間に主婦は女中にお座ぶとん、茶、菓子、等を進める樣命じ置き、客室に入り、客と對座いたします。玆で初めて、主、客、共に時候の挨拶をいたすのでありますが、玆には略して置きます）

女中　（お菓子を進め）粗菓でございます。と（挨拶一禮）

客　有難うございます。と（挨拶一禮）

女中　（お茶を進め）粗茶でございます。と（挨拶一禮）

客　有難うございます。と（挨拶一禮して主婦に對ひ）坊ちやんも定めしお達者で、大きくおなり遊ばし（なさい）ました事でございませう。と（挨拶）

主婦　ハイ、有難うございます。お蔭樣で大變達者でございます。と（挨拶）一度お伺ひいたしませうと思つて居りました所へ、貴女樣の方からお選び下さいまして、有難うございました、何卒今日は



御ゆつくり遊ばし（なさつ）て下さいませ。と（挨拶）

客　ハイ、有難うございます。時に赤ちやんを拜見さして下さいませんか。と（挨拶）

主婦　ハイ、むさい事をいたして居りますが、何卒見てやつて下さいませ。と（挨拶、同時に女中を呼び寄せ、赤ん坊のおむつを變へて連れてお出でと、命じます）

女中　ハイ、承知いたしました。と（挨拶して引退ります。此の時分より主客は互に積る四方山の話をいたします。其内女中が赤ん坊を連れ來り）奥樣、坊ちやんをお連れいたしましてございます。と（挨拶）

主婦　（女中より赤ん坊を受取り）きたない赤ちやんでございますが、何卒見てやつて下さいませ。と（挨拶、と、同時に客に手渡しいたします）

客　まあお可愛い赤ちやんでございます事、お父樣、お母樣がお綺麗で居らつしやいますから、赤ちやんがほんとうにお人形さんの樣でございます事、又大變お達者さうで居らつしやいます事。（と賞讃の挨拶をいたします）

主婦　イ、エ、きたない坊やでございますけれ共、まあ達者なだけが取り得でございます。と（挨拶と同時に）伯母樣に粗相をいたしてはなりませんから、さあ、入來つしやい。（と、客より赤ん坊を受

取り、暫時我が膝に抱き、色々談笑の後ち、折を見計らつて）一寸失禮いたします。と（挨拶して、赤坊をいだき勝手元に退り、女中に赤坊をまかせ、ついで中食の用意を命じ置いて、再び客室へ入り）之れはどうも大變失禮いたしました。と（挨拶、客は此間に持ち來りし物品をよく調べて差出し、主婦の座に附かれしを見計つて、）

客　奥様、之は誠にお粗末でございまして、御宅様等にはふさはしからぬ品でございますが、お坊ちやんのお節句をお祝申上げます、ほんに心ばかりの品でございます。定めしお氣に召さない事とは存じますが、お棚の角にでもお置き下さいますれば、誠にお結構に存じます。と（挨拶）

主婦　それは〳〵、まあ何品かは存じませんが、有難く頂戴いたします。と（挨拶）毎度お宅様の方からばかり戴きまして、申譯がございません、折角の思召でございますから、御遠慮なく頂戴いたします。と（挨拶）同時に頂戴いたした品を押し頂いて、自分の上座の、膝頭前に置きます、そして）本年は坊やの初節句でございますから心ばかりのお祝をいたさうと思つて居りますが、時間其他は改めてお知らせいたしますから、其節は何卒御家内御一同様で、必ずお運び下さいます様、前以てお願ひ申上げて置きます。と（挨拶）

客　ハイ有難うございます。と（挨拶一禮、同時にお座蒲團を離れ）今日は突然御多忙中に參りまして、大變長座いたしました。之で失禮いたします。と（挨拶）

主婦　只今お壹の用意が出來て居りますから、お手間はお取らせいたしません。何にもございませんが、御一所におつき合下さいませ。と（挨拶）貴女様が御遠慮下さいますと、お宅様へ上りました時に、遠慮なく頂く事が出來ないではございませんか。と（笑ひながら挨拶）いつも私が上りました時は御馳走にばかりなつて歸りますのでございますから）今日は是非共おつき合下さいませ。と（挨拶）

客　私こそ、お宅様へ上りますと、何日も長座をいたしまして、御馳走にばかりなりまして、誠に相濟みませんでございます。今日ばかりは早速歸りませうと思つて上りましたのに、又御馳走様になつて歸りましては、主人から小言が出ますから、又の時にお頂けいたしまして、今日は之れでおいとまいたします。と（挨拶）此の時分に女中が室内に這入つて來て一禮）

女中　奥様、あの、お壹の用意が出來ましてございますが、どちらにいたしませうか。と（挨拶）

客　ほんとうにおかまひ下さいません様に。と（挨拶）

主婦　それでは、此方へ運んでお呉れ。と（挨拶）

女中　ハイ、承知いたしました。と（挨拶、と同時に引退り、膳部を運んで再び這入つて來ます）

主婦　お手間はお取らせいたしません、それに何もおかまひはいたしません。ほんのお凌ぎでございて、

ます。と（挨拶）

客　ハイ、有難うございます。其れでは折角でございますから、御遠慮無く頂戴いたします。と（挨拶一禮）

主婦　何卒お當て下さいませ。と（挨拶）

客　ハイ有難うございます。と（挨拶、と同時に再び）お座蒲團を頂きます。と（挨拶）

（主客對話中に女中、膳部を運び一禮。）

主婦　何もございませんが、何卒お召上り下さいませ。と（挨拶）

客　ハイ、それでは御遠慮無く頂戴いたします。と（挨拶して、靜かに箸を取ります）

客　（食事を濟ましたならば）どうも御馳走様でございました。と（挨拶）御遠慮なしに頂戴いたしました。と（重ねて挨拶）

主婦　お口にお合ひなさる様な物がございませんで、ほんの出來合ひでございまして、誠に失禮でございました。と（挨拶）

女中　（又出て來て）お粗末でございましたと（挨拶一禮して、膳部を引き、退ります）

客　御馳走様でございました、御多忙中に女中さんのお手間をお取らせいたしまして、相濟みません



と（挨拶一禮）

女中　どういたしまして、行き屆きませんでございます。と（挨拶）

客　（之より一時間位雜談を交へた後、お座蒲團を離れ）どうも大變長座いたしまして、色々と御馳走様でございました。何卒御良人様がお歸り遊ばし（なさい）ましたら、宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

主婦　左様でございますか、もう少し御緩り遊ばし（なさい）ましては如何でございます。と（挨拶）

客　有難うございます、隨分長居をいたしましたから、之で失禮いたします。と（挨拶）

主婦　左様でございますか。と（挨拶）今日は御遠方の處を態々お運び（お出で）下さいまして、誠に御結構なお祝を頂戴いたしまして、有難うございます。と（挨拶）

客　イヽエ、ほんのお印でございます。と（挨拶）

主婦　主人が歸りましたならば大變によろこぶ事と存じます、何れ其内、改めてお禮には參上いたしますけれど、お歸り遊ばし（なさい）ましたらば、お内皆々様に呉々も宜敷お申傳へ下さいます様お願ひ申上げます。と（挨拶）

客　ハイ、左様申傳へますでございます、それでは御免遊ばせ。と（挨拶一禮、同時に立ち上り、玄

闕に主客共に進む、此時）何卒おかまひ下さいませぬ様。と（挨拶）

主婦　ハイ、でも表まで御一所にお見送りいたします。と（挨拶を交じへつゝ玄關まで出で來り、玆で改めて、主、客、共に）左樣なら。と（挨拶一禮）

主婦　何卒お靜かに。と（挨拶）

客　ハイ、有難うございます。と（挨拶一禮）

## ――端午の節句に客を招く挨拶（對話）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

主婦　入來つしやいませ。さあどうぞお通り下さいませ。（お上り下さいませ）と（挨拶）

客　有難うございますが、今日は玄關で失禮いたします。と（挨拶）

主婦　でも餘り端近で、御挨拶も出來ませんから、何卒お通り下さいませ。と（挨拶）

客　誠に勝手でございますが、今日は一寸急ぎの事もございますので、お玄關先で失禮さして戴きます。と（挨拶一禮）過日はわざ〳〵お運び下さいまして、身に餘る御立派なお祝を頂戴いたしまして、誠に有難うございました。と（挨拶一禮）

主婦　お言葉の程痛み入ります、（恐れ入ります）其節は又大變長座いたしまして、色々と御馳走樣になりまして、定めし御迷惑の事でございましたでせう。と（挨拶一禮）

客　イ、エ、どういたしまして、私の方こそお引留いたしまして、相濟みませんでございました。と（挨拶）夕方主人が歸りましてから、早速拜見いたしましたが、まあ、何と御立派なお品でございませう。お見立と云ひ、お組合せと申し、ほんとうにお心靈しの程が伺はれまして、何共お禮の申上樣もございません、有難うございました。と（挨拶一禮）主人が早速お床に飾り立てましたので、皆の者が此の上も無くよろこんで居ります。と（挨拶）本日も主人が吳々も宜敷お禮を申上げて吳れと申傳へましてございます。と（挨拶一禮）

主婦　イ、エ、お粗末でお恥しう存じます。と（挨拶）

客　就きまして、明日のお節句に、心ばかりの內祝をいたし度と存じて居りますから、何にもございませんが、ほんの柏葉餅にちまき位いの用意をいたして居りますから、夕方五時頃に、皆樣お揃ひでお運び（お出掛け）下さいませ。お待ち申して居ります。と（挨拶）

主婦　ハイ有難うございます。無風流の私共の見立でございますのに、大變お褒めに預りまして、恐入ります。其上明日のお祝にお招き下さいまして、有難う存じます。と（挨拶一禮）五月の節句の

お祝をいたします用の無い私共でございますから、明日は是非お伺ひいたしまして、お宅様のお祝にあやかり度うございます。と（挨拶）それにお使を戴きましても足りますのに、奥様がお自分で、御多忙中を態々お運び下さいまして、誠に恐入ります。と（挨拶）

客　何をお仰しやつて下さいますやら、たま〳〵お伺ひをいたしましては、失禮にも多忙振りを致しまして、ほんとうに申譯がございません。と（挨拶一禮）

主婦　イ、エ私の方こそ、端近でお茶も差上げませんで、ほんとうに失禮でございます。と（挨拶一禮）

客　それでは明日はお出掛難うございませうとも、皆様お揃ひでお運び下さいます様、かた〴〵お待ち申上げて置きます。と（挨拶）左様なら何卒御良人様へ宜敷お傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）さようなら、御免遊ばしませ（重ねて挨拶）

## 入學の挨拶

近來は中等學校や專門學校に入學するのがなか〳〵困難で、人生の幸不幸の岐れる一つの苦味い分岐點になつて居ります。從つて首尾よく入學を許可されますと、本人は素より、一家族の喜びは一方でなく、祝物を贈つた近親や知友を招いて祝宴を催し、最も特長ある近代的な一風景を描き出すのであります。

近代人、殊に都會の人達には、年中行事が一つ增へた譯で、入學を祝する挨拶の仕方、祝された者の答禮の仕方位は心得て居らねばなりませぬ。

### ――入學通知の挨拶

「其後は大變御無沙汰いたしました。と（挨拶一禮）貴方もお變り無くて、何よりでございます。と（挨拶一禮）時に、御心配をお掛け申して居りました入學試驗も、どうやら見苦しからぬ成績で合格いたしまして、一昨日入學を許されましたから、何卒御安心下さいませ。と（挨拶一禮）そして本年の受驗者は、募集人員の七倍もございましたから、一時は私もほんとうに心配いたしましたが、俄に入學いたしましたから、此上は一意專心勉强いたしまして、相當の成績を擧げたいものと思つて居ります。と（挨拶）最早、教科書も全部買求めまして、少々づゝ讀み初めて居ります。」と（挨拶一禮）

## ――入學せし本人へ祝の答禮挨拶

「お久しうございますが、お變りなくて何よりでございます。と（挨拶一禮）貴方様は此度某學校へ、好成績で御入學ございましたさうで、お芽出度くお祝を申上げます。と（挨拶一禮）貴方様はもとより、御兩親様を初め、皆々様のお喜びは又格別で居らつしやいませう（ございませう）ほんとうにお芽出度うございます。と（重ねて挨拶）何卒御入學の後は、時々お遊びに入來して下さいませ。お待ち申て居ります。と（挨拶）お身體を御大切に御勉強遊ばしませ。」と（挨拶一禮）

## ――入學者家族への挨拶

「今日は誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）常々お話でございました御子息（御令嬢）御令弟。御令妹様）が此度優等の御成績で縣立第一中（縣立高等女學校、商業學校、女子專門）に御入學遊ばし（なさい）ましたさうで、御本人様は申までも無く、皆様も定めし御滿足の事でございませう。お祝申上げます。と（挨拶一禮）素より御入學の事は豫期いたして居りましたが、いよ〳〵御入學遊ばした事をお伺ひいたしますと、今更にお嬉しう存じます。と（挨拶）何卒お身體にお氣をお付



け（遊ばし）なさいまして、此上共に御勉強なさいます様、御本人様へお傳へ下さいませ。と（挨拶）、之は誠にお粗末な品でございますが、お祝のお印に、お赤飯を蒸しましてございますから、お口よどしではございませうが、差上げて下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――入學祝を受けた家族の答禮挨拶

「仰の通り、誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）其後は大變御無沙汰をいたして居りますが、皆様お變りもございませんか。と（挨拶一禮）貴方様には、いつも〳〵御心配ばかりお掛申して相濟みません。と（挨拶）就きましては此度愚息（愚女、愚弟、愚妹）の何子が、漸く入學を許されまして、皆の者もやつと安堵いたしました様な譯でございます。と（挨拶）それに貴方様には早速のお祝を頂戴いたしまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）何分子供の事でございますから、本人よりは、私共の方が却て心配いたしました様な譯けで、お恥かしうございます。と（挨拶）貴方様の御申し聞けの事共は、よく本人に申聞かせましてございますが、入學式の前に、本人をお禮に差上げますから、何卒細々とお諭し置き下さいます様、特にお願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

○君は堅忍不拔○確固たる精神○信念鐵の如し○百錬の鐵○鬱勃たる功名の念○心を緊めて所信を貫くことに○奮然勃起○一意專念○其の目的に向つて勇猛邁進○壯圖をなす○素志の貫徹に努められんことを○艱難汝を玉にす○雷名を世界に發揮す○鄕黨の譽○偉功を奏せられよ○刮目して俟つ○錦衣故鄕に歸らるゝのを御待ちする次第○過度の御勉强の爲御健康を害し給はぬ樣○御自重御自愛の程。

## 入退營の挨拶

兵役は國民の一大義務でありまして、男子としての第一の誇でありますから、別れに臨みましても、決して涙を見せるやうな不心得をしてはなりませぬ。古昔スパルタ人の母は、子息の戰死と聞いて、「これでこそ子息を持つた甲斐がある」といつて喜んだといふことであります。

我が國人も、古代スパルタ人に劣らない氣慨を持つてゐる筈であります。送る人も送られる人も、終止、たゞ〳〵「君國のために」の一念を以て、挨拶の言葉を交はさなくてはなりませぬ。

### ——本人に對する入營祝の挨拶

「今日は、誠に結構なお天氣でございます。と（挨拶一禮）貴方樣にはいよ〳〵明日何隊へ御入營遊ばし（なさい）ますさうでお芽出度うございます。と（挨拶一禮）私が申上げるまでもございませんが、兵役は國民の義務と申ますよりは、男子としての御名譽で、ほんとうにお芽出度うございます。何卒御入營後は、國家の爲めにも御自愛遊ばし（なさい）まして、專心軍務に御精勵遊ばし（なさい）ませ。と（挨拶）之は誠に些少でございますが、御入營後は何かとお小遣の御入用の時がございませうから、其時のお足しに、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）何れ明日はお見送りいたしますが、呉々も御身御大切に御勉强遊ばし（なさい）ませ。」と（挨拶一禮）

### ——本人の答禮挨拶

「今日は大變お寒い中を態々お運び下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）就きましては、いよ〳〵明日入營いたしまする事になりましてございます。と（挨拶）實の處は私の方から御挨拶に上りますのが本意でございますが、貴方の方からお運び下さいまして、恐入ります。と（挨拶）其

上御餞別まで頂戴いたしまして、誠に有難うございます。御遠慮無く頂戴いたします。と（挨拶一禮）仰の通り軍人は國家の干城で、男子の本懐でございますから、喜び勇んで入營いたします。と（挨拶）殊に、私の希望いたして居りました、騎兵隊に採用されましたのが何よりでございます。と（挨拶）入營後は、身をも家をも打ち忘れまして、一意專心、國家の爲め軍務に服從致します考へでございますから、何卒御安心下さいませ。と（挨拶一禮）留守中は兩親と、弟妹ばかりでございますから、何かと御面倒をお掛け致しませうが、何卒宜敷お願ひ申上げます。と（挨拶一禮）入隊後は、營中の模樣も、時々お知らせ申上げますと同時に、御機嫌のお伺ひもいたしますが、今後はます〳〵お寒さに向ひますから、お内皆々樣、お身體を御大切になさいます樣、お祈り申上げます。」と（挨拶一禮）



## ――家族の人に對し入營祝の挨拶

「今日は大變お寒うございます。と（挨拶）何某樣も、いよ〳〵御入營遊ばしますさうで、お芽出度うございます。と（挨拶一禮）御本人樣は元より、皆樣の御悦びは、此の上も無く、國家の爲めにも大變お喜ばしい事に存じます。と（挨拶）之は誠に些少でお恥しうございますが、心計りのお祝の印でございますから、何卒お納め下さいませ。何れ、後程お見送りいたしますが、御本人樣に、何卒宜しくお傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――入營祝を受けし家族の答禮挨拶

「仰せの通り、大變お寒うございますが、態々お運び下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）兼ねてより、色々と御心配をお掛け申して居りました愚息（何某）も、本日いよ〳〵入營いたします事になりました。と（挨拶）ことのほか、此の兩三日中は、色々とお世話樣になりまして、有難うございました。と（挨拶一禮）只今は又、誠に御結構な品を頂戴いたしまして、有難う存じます。と（挨拶一禮）（只今本人が出て居りますから、失禮いたしましたが、何れ後程お禮に參上いたさせますでございます。」と（挨拶一禮）

## ――送別會席上に於ける有志者の挨拶（其一）

（一禮して）「本日〇〇君の入營送別の宴に列するを得ましたのは、不肖の最も光榮に存ずる所であります。言ふまでもなく、兵役は國民一般の義務であります。併し同じ國民でも、身體天性の如何によつて、如何に軍人たらんと希望してもなれない者もあります。然るに〇〇君は、身心共に健全にして

此の名譽ある軍人たる選に入り、一身を拋つて國家に盡す事が出來るのは洵に男らしく、勇ましい事でありまして、我々は〇〇君が家事を拋つて國家の爲に盡すといふことを、深く感謝致します。軍規軍律は峻嚴でありますが、これ即ち男子の心膽を錬るものでありますから、唯だ服從を解して職に忠なれば、軍人たるの本分は果されるのであります。〇〇君がよく國家の干城たるの任を完ふせられんことを。お祈りして、私の御挨拶といたします。」と（鄭寧に一禮、着席）

## ——同、有志者の挨拶（其二）

「今回〇〇君が入營されることになりましたが、これは實に〇〇君の名譽ばかりでなく、また實に本村（本町）の名譽であります。申すまでもなく、軍隊は、畏くも　天皇陛下の統率したまふ所でありまして、其の職分は實に國家鎭護の任にあるのであります。そして兵制の上におきましては、將校兵卒など〻階級はありますが、國家の柱石として活動するの點から見ますれば、全く彼が重く、此れが輕いといふ別はありません、今や〇〇君が、忠愛の士氣と、强健の體軀とを以て、この光榮ある職務に從はれまするのは、誠に美しい一快事と申さなければなりませぬ。

熟々世界の形勢を見まするに、軍縮は聲ばかりで、實際は何國も競つて軍備を擴張して居りますので、我國でも平時に於て、一層兵力の充實に盡す必要があるのであります。別言すれば、今後我國に於ける兵備は、いよ〻〻多端に赴くのでありますから、軍隊の責任も亦た輕からずといはねばなりませぬ。〇〇君も、希はくば軍務に精勵して、營中有用の材となり、一旦緩急あるに際しては、卒先して、拔群の武勇を實地に試み、日本男子の意氣を陣頭に示して、以て皇威を宇內に發揚せられんことを希望するのであります。御覽の通りの粗酒粗肴で、〇〇君に餞するには、餘りに設備が不完全でありますが、幸に我等の微意を酌み、十分の歡を盡されんことを切望する次第であります。一言御挨拶申し上げます。」と（鄭寧に一禮）

## ——同、入營者の答辭（其一）

「今回、私が名譽ある徵兵檢査に合格しまして、入營するに際し、斯かる盛大なる送別の宴をお開き下さいまして、其上懇篤なる訓誡を賜はりましたことは、感謝に堪へない所であります。私如き者が國家の干城たるを得ますことは、望外の幸福で、素より本懷とする所でありますから、入營の後は大いに奮勵努力、軍人たるの本分を守り、軍人たるの名譽を保つやう、充分覺悟致して居ります。謹んでお禮申上げます。」と（鄭寧に一禮）

## ——同、入營者の答辭（其二）

「私の入營に就いて、今日お手厚き御招待に預りまして、誠に有難う存じます。仰の通り、多年兄弟にも劣らぬほど、親密に御交際を願つた諸君と、假令暫くの間なりともお別れいたしますのは、誠に心辛いことでありますが、君國の爲めに喜び勇んで入營いたします。勿論、皆樣がいろ〳〵とお言葉を下さつたやうな、目覺しまいことは素より出來ませぬが、諸君の教訓を守り、力一ぱいに行つて、私の日頃の主張を貫徹するつもりでありますから、猶入營の後も、相變らず御教訓下さるやう、お賴みいたします、謹んで諸君の御厚意を感謝いたします。」と（挨拶一禮）

## ——入營當日見送人の挨拶

「それでは、いよ〳〵之でお別れでございます。と（挨拶）何卒今後はお身體を御大切に、御壯健で御奉公をお濟ましになられまして、御無事でお歸り下さいます日をお待ち申し上げて居ります。と（挨拶一禮）さようなら。」と（重ねて一禮）



## ——入營者の最後の挨拶

「御遠路の所をお見送り下さいまして、皆樣、有難うございます。と（挨拶一禮）それではお別れいたします。どうぞ皆樣もお身體を御大切に、と（挨拶一禮）さようなら。」と（重ねて挨拶一禮）

## ——退營當日出迎の挨拶

「今日貴兄樣には滿期除隊になられまして、御無事でお歸りになりまして、何よりお芽出度うございます。（挨拶一禮）お宅樣の方でも定めし、皆樣がお待ち兼ねで居らつしやいませう。（ございませう）と（挨拶）お心がお落着になりましたら、私の方へもお出掛け下さいまして、御在營中の面白いお話などお聞かせ下さいませ。と（挨拶）必らずお待ち申して居ります。」と（挨拶一禮）

## ——出迎へを受けた本人の挨拶

「今日は御遠方の處を、態々お出迎へ下さいまして、有難うございました。と（挨拶一禮）在營中は兩親初め、皆の者共が、一方ならぬ御厄介になりましたさうで、誠に有難うございました。と（重ね

て挨拶一禮）時々御禮狀を差上げ様と思ひ乍ら、つい軍務の方に引かれまして、御無沙汰勝ちで誠に申譯ございません。と（挨拶一禮）お宅様でもお變りはございませんか。と（挨拶）何れ歸宅いたしました後に參上致しまして、御禮申上げますがお歸りの上は（なさいましたら）何卒皆様に宜敷くお傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――退營前日家族への挨拶

「此度は御子息（御令弟様）が二ケ年間の軍務を御無事にお務め遊ばし（なさい）まして（滿期除隊になられまして）明日いよ〳〵お歸りなさいますさうで、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）皆様の御滿足の程お祝ひ申上ます。之は誠にお粗末でございますが、お祝のお印でございます。と（差出し一禮）何れ明日は、お出迎へに參上いたしますが、色々とお取込でございませうから、何卒御本人へ宜敷くお傳へ下さいませ。と（挨拶）二三日も過ぎて、お心が落着かれましたら、何卒、私の方へもお出で下さいまして、御在營中の面白いお話をお聞かせ下さいます様、お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）



## ――家族からの答禮挨拶

「今日はお寒い中を、わざ〳〵お運び下さいまして有難うございます。と（挨拶一禮）愚息。愚弟。の入營中は、色々と御心配をお掛けいたしまして、誠に相濟みませんでしたが、漸く二ケ年間の軍務を無事に了へまして、いよ〳〵明日歸つてまゐる事になりました。これも一重に皆様のお力添のお蔭とよろこんで居ります。と（挨拶一禮）それに只今は又、大變美事な御品を頂戴いたしまして、有難うございます。と（挨拶一禮）本人が歸宅いたしましたら、定めし悦ぶ事でございませう。と（重ねて挨拶）何れ歸りましたら、早速お禮に差出しますが、お歸りになりましたら、何卒皆様に宜敷お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――留守中の廻禮挨拶

「御機嫌よろしうございますか。と（挨拶一禮）御當家皆様お變りなくて何よりお芽出度うございます。と（挨拶）昨日は御遠方の處を、わざ〳〵お出迎へ下さいまして、有難うございました。と（挨拶一禮）在營中は時々御親切なお手紙を下さいまして、誠に有難うございました。其上留守中は家族

の者一同が、一方ならぬお世話様に預りまして、重ね〳〵有難うございました。厚く御禮を申上げますと。（挨拶一體）何れ改めてゆつくりとお伺ひいたしますが、今日は歸りました御挨拶なりお迎へのお體旁々、留守中の御禮を兼ねて御挨拶申上ます。」と（挨拶一體）

## ――入退營の用語

○兵役は國民の義務○男子の本懷○男子の本分男子の誇○一村の名譽○男子たる者の一大快心事○身體强健○國家の干城○最大の光榮○忠君愛國○大和民族の誇○軍律を守り○軍務に精勵○皇國の爲めに○芽出度御歸國○率公を卒へ○威德を望見○嚴格なる軍律に鍛へられたる風姿○堂々たる眞男子。

## 火事見舞の挨拶

火事のやうな突發事件の場合には、誰何でも幾等か慌てるものでありますから、折角逸早くお見舞に馳け付けても、やあ、た、大變で……位が關の山で、碌に口も訊けないものであります。勿論馳け付けたお家が燃えてゐるやうな場合、挨拶も何もあつたものではありませんから、やアでも、あアでも結構ですが、先づ延燒の恐れのない近火で、見舞を受けた人が却つて平然と構へてゐるのに、餘り慌てゝはあ〳〵息をきらして居ては可笑しい。勿論逸早く馳け付けたといふ意味で、對手に惡い氣持は與へませんが、人格的に輕く、小さく見せる意味で御自分の損です。男子は殊にさうで、非常時の場合が一番よく男の大小を明さまにするものであります。

昔の人は、出火の際は必ず手水へ行けと教へましたが、落つかないといざといふ場合の間に合はないからであります。間に合はないばかりでなく、過失をしたり怪我をするのは、さういふ時に限るからであります。

## ――突差の近火見舞の挨拶

「今晩は！（御免下さい！）御近所がお騷々しいことで、御心配でございませう。と（挨拶一體）御避難のお荷造りその他のお手配は、もうお出來になりましたか、風向きも宜しいし、だいぶ隔れて居りますから、お宅樣は大丈夫とは思ひますが、何なりとお手傳ひいたしますから、何卒御遠慮なく仰やつて下さいませ。」と（挨拶一體）

## ——出火の翌日近火見舞の挨拶

「今日は、ご免下さいませ。昨夜は突然、お宅様のご近所が火事ださうでございましたから、早速かけつけましたのでございますが、何分奮戒が厳しいものですから、近寄ることが出來ませんで、止む無く、何々の角の邊から見て居りましたが、幸ひお宅様の方はご無事のことがわかりましたから、鎭火の後早速お伺ひしやうかと思ひましたが、大變夜が更けましたから、お伺ひして却て御心配をお掛けしてはと思ひまして、そのまゝ歸宅いたしましたが、定めし一時は御心配なさいました事でせう。お見舞申上げます。と（挨拶一禮）之は誠にお粗末でございますが、定めし本日はお取込のおつかれもございませうかと存じまして、母の手製のおはぎを一つ持參いたしました。お口よごしでございませうが。召上つて下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——近火見舞の答禮挨拶

「今日は御遠方の處を、わざ〳〵（お運び）お出で下さいまして、大變ご結構な品を頂戴いたしまして、有難うございます。と（挨拶一禮）そして又昨夜は其樣な御心配をお掛けいたしまして、誠に相



濟みませんでございます。有難うございました。と（挨拶一禮）實は昨夜のさはぎに皆の者もつかれまして、今日は何が何やらさつぱり分らないで、取散らしましたまゝ、ごろ〳〵いたして居りますが、何んだか、夢の樣でございます。と（挨拶）而し、少しも被害がございませんでしたから御安心下さいませ、有難うございました。どうぞ取り散らして居りますが、何卒お通り下さいませ。と（挨拶）そして、火事の模樣を委しく話して、では一寸失禮いたします。と（挨拶）して見舞物を戴いて奥へ這入り、お重箱を明けて再び出て來て）御鄭寧なお見舞にあづかりまして、有難うございました。何れ近日お禮に參上いたしますが、お歸りになりましたら、皆樣に宜敷お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ——類燒見舞の挨拶

「今日は。と（挨拶）今朝程、新聞で拜見いたしますと、昨夜御近所からの御出火で、お宅樣も御類燒なさいましたさうにございますが、皆樣は御無事で居らつしやいますか。と（挨拶）新聞で拜見して、ほんとうにびつくりいたしました。と（挨拶）實は早速、主人がお伺ひして何かと、お手傳をいたしますのが本意でございますが、二三日前から地方へ參りまして、只今は留守中でございますものですから、誠に失禮いたします。何れ一兩日中に歸宅いたしますから、歸宅次第お伺ひいたさせます。

と（挨拶）之は誠にお粗末でございますが、お見舞のお印でございます。と（挨拶一禮）、若し、私でお役に立ちます様でございましたら、何なりとお手傳いたしますから、仰しやつて下さいませ、尙ほお入用の品は何なりと、御遠慮無くお申付け下さいませ。と（挨拶）其では、今日は之で失禮いたします。皆様へは貴方様から宜敷お傳へ下さいます様、お願申上げます。と（挨拶一禮）さようなら。」と（挨拶）

## ――類焼見舞の答禮挨拶

「入來つしやいませ。と（挨拶）御多忙中に、御遠方から態々お運び（お出で）下さいました上に、大變御結構なお品をお惠み下さいまして、誠に有難うございます、御親切の程厚く御禮申上ます。と（挨拶）御主人様御不在中に御心配をお掛けいたしまして、誠に相濟みません。と（挨拶一禮）お蔭様で皆の者が無事に此處に立ちのきましてございますから御安心下さいません。と（挨拶）殆んど全焼いたしまして、不自由でございますから、其内何かと又御拜借に上らなければならぬかと存じますから、其節は何卒宜敷御援助下さいます様、お願申上ます。と（挨拶一禮）何れ落付きましたらお禮に上りまするが、御主人様がお歸り遊ばしましたら、何卒宜しくお傳へ下さいませ、と（挨拶一禮）さようなら、お靜かに。」と（重ねて挨拶）

## ――火事見舞に關する用語

○別段お怪我もなく○不幸中の幸○さぞお取込みのこと○御入用のものは何なりと○お宅は風上○折からの烈風○誠に天佑と申しませうか○親戚に避難○鳥有に歸しました。

## 病氣及び全快の挨拶

病人のある家庭では靜かにすることが何よりも大切でありまして、重病人のある場合など、敷石の上に蓆を敷く位のものでありますから、見舞に行く人も餘程注意して靜肅にしなければなりませぬ。よく子持ちの御婦人など、子供を連れて行く人がありますが、これは心なきわざで、是非止めて欲しいものであります。

## ――病人の家族の人に述べる挨拶

「お聞きいたしますと、お宅のお父上様は先達てから御病氣ださうでございますが（居らつしやいますさうですが）御容態は如何でございますか、（挨拶一禮）本年は大變季候が不順でございますから、御病人にはさぞお障りになることでございませう。お宅様のことでございますから、何から何までお手ぬかりはございますまいが、精々お氣をお付け下さいませ。と（挨拶一禮）これは誠にお粗末の品でございますが、ほんのお見舞の印でございます。と（挨拶）御病人に差上げては如何か存じませんが、主治醫の先生のお許しがございましたら、お目にお掛け（遊ばして）下さいませ。と（挨拶一禮）どうぞ精々御養生なさいまして（遊ばして）一日も早く（お早く）御全快なさいますやう（遊ばしますやう）お祈り申します。と（挨拶一禮）

## ――見舞を受けた家族よりの答禮の言葉

「お宅様では皆様お變りはございませんか、おや、さやうでございますか、それは何より御結構でございます。と（挨拶一禮）大した病氣ではございませんが、何しろもう年が年でございますから、父も此の節はほんとに意久地がございません。と（挨拶）御遠方の所を態々御見舞下さいまして、その上父の大好物の品を戴きまして、有難うございました。と（挨拶一禮）早速病人に見せて喜ばせますでございませう。何卒お歸り遊ばしましたら、御主人様初め皆様に宜しくお傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――友の母の入院を見舞ふ挨拶（對話）

（病院へ見舞に行つた時は、病室の入口に立つて、戸をノック（たゝく事）いたします。すると、差支の無い時は中から戸を開けるか、又は何卒お入り下さいませと應答いたします。）

見舞人　御免下さいませ。と（挨拶）お母様がお惡くて御入院なさいましたさうでございますが、如何でございますか。と（挨拶一禮）

嬢　有難うございます。何分病氣が病氣でございますから、はか〳〵しく良くなりませんで、困つて居ります。と（挨拶）此の樣な處へ態々お見舞下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）お宅様には皆様お達者で居らつしやいますか。と（挨拶）

見舞人　ハイ、私の内では皆達者でございますから、御安心下さいませ。と（挨拶）も少し、早くお伺ひいたします筈でございましたが、何かと、次から〳〵と用事が出來まして、遲くなつて誠に相濟みません。と（挨拶）此節の御容態は、如何でございますか。

娘　有難うございます。どうもよくない様に思はれまして。心配いたして居ります。と（挨拶）

見舞人　それは、御心配でございますネ。お察し致します。と（挨拶）

娘　もう暫時居て呉れませんと、私は兎も角、弟や妹達が可愛想でございますから、何卒して元々通りに全快してもらひたいと心に念じて居ります。と（挨拶）

見舞人　さうで（左様で）ございますとも、それはもう、貴女様のお心霊しで、きつと元々通り御全快なさいます（と慰めの挨拶を述べる）

娘　有難うございます。貴方の様に仰しやつて戴きます（下さいます）と、私どんなに心丈夫か知れません、有難うございます。と（挨拶一礼）

見舞人　之は誠にお粗末でございますけれど、私の心霊しでございますから、お母様に差上げて下さいませ。と（挨拶）

娘　御遠方の處を態々お見舞下さいました上に、御結構な品まで頂戴いたしまして、誠に相済みません。折角のお心霊しでございますから、御遠慮無く、厚く（有難く）お受けいたします。と（挨拶一礼）母も只今休んで居りますが、後程申聞けましたら、定めし喜びます事でございませう、有難うございました。と（鄭重に押戴き一礼）

見舞人　一度御病人様をお見舞申上げますのが本意でございますが、其では失礼いたします。御看病でお疲れの中をお手間をお取らせいたしまして相済みません。と（挨拶一礼）時々お見舞は申上げますけれど、随分共にお大切に遊ばし（なさい）ませ。そしてお母様がお目醒めの時に、宜敷くお傳へ下さいませ。と（挨拶一礼）

娘　有難うございます。と（挨拶一礼）何卒お帰りになりましたら、皆様にも宜敷くお傳へ下さいませ。と（挨拶一礼）

見舞人　左様申傳へます。と（挨拶）では御免下さいませ。と（挨拶一礼）

## ――全快祝に招待する本人の挨拶

「先日僕が（私が）入院して居りました折は、（僕の入院中は）度々お尋ね下さいました上に、其都度お心を込められました（お心霊しの）お見舞を頂戴いたしまして、誠に有難うございました。と（挨拶一礼）一時は医師も匙を投げましたさうでございますが、寿命がございましたものか、お蔭様で治療の効がめき〳〵と現はれまして、先日退院いたしました。と（挨拶）只今では前と少しも変りません程元氣になりまして、家族の者も蘇生の思をいたして居りますから、何卒御安心下さいませ。と（挨

拶）其節は特に御心配をお掛けいたしまして、誠に相済みませんでした（ございました）と（挨拶一禮）就きましては、明後日、心ばかりの全快祝をいたし度いと思つて居りますから、御迷惑でございませうが、何卒夕刻から、奥様御同道でお越し下さいます様、おまち申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――招待を受けた答禮挨拶

「永らく御病氣で居らつしやいましたが、御全快なさいまして、何よりでございます。今日は御鄭寧に其お祝にお招き下さいまして、こんな嬉しい事はございません。と（挨拶一禮）貴方の御入院中、一時は大變御心配申上げましたが、幸、元々通り御全快遊ばし（なさい）まして、誠にお目出度うございます。貴方の御家族様ばかりで無く、永い間心淋しく思つて居りました私共の家族に至るまで、ほんとうに蘇生た様な心持ちがいたします。と（挨拶）仰に從ひまして、明後日は早々からお邪魔をいたしまして、皆々様と共にお祝ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――全快祝に家族の者より招く挨拶

「宅の主人の（祖父の）（父母の）（姉）（妹）（弟）の病氣中は、御多忙中を度々お見舞に預りまして、有難うございました。と（挨拶一禮）一時は危篤に陥入りました爲め、皆の者も心配の餘り、お宅の皆様にまで色々御心配をお掛け致しまして、誠に申譯がございません。と（挨拶一禮）其後日に日に快方に向ひまして、只今では從前の通り達者になりまして、家族の者も安堵いたして居りますから、何卒御安心下さいませ。と（挨拶）就きましては、聊か内祝の宴を開きまして、御心配をお掛けいたしました皆様に御足勞をお願いたし、久々振りで笑つて戴き度と存じますから、明後日午後三時から御主人様を初め皆様お揃ひでお出で下さいます様、お待ち申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――全快祝當日客の挨拶

「今日は、御病氣御全快のお祝にお招き下さいまして、有難うございます。貴方の御病氣中、一時は如何なる事かとほんとうに御心配申上げましたが、本日はそれに引かへ、御全快のお祝にあづかりまして、ほんとうに言葉では云ひ盡せない程の喜びでございます。之は誠にお粗末でございますが、心ばかりのお祝のお印でございますから、何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――病氣に關する用語

○發熱臥床○醫師の診斷○食慾減退○衰弱が加はり○療養に萬全を盡し○御慰めの言葉を○手當を受け○絶對安靜を要す○經過は至極順調○愁眉を開き○御懇篤なお見舞○全く恢復○病後の療養が肝要と存じます○健康に留意。

## 新築祝の挨拶。

常の場合でも、他家を訪れてお客間に通されましたならば、先づ床の間の軸物なり、置物やお花を拜見して、褒めるのが禮儀でありますが、新築祝に招かれた時など、殊に建築の模樣を見て褒めなければなりませぬ。それには多少とも建築上の知識と、用語なども心得て居らなければなりませぬ。

「洋室のロク屋根に厚硝子を使ひましたのが、手前の工夫でございます……。」などゝいはれても、何がロク屋根やら解らぬやうでは、滿足に話の受け答へも出來ませぬ。從つて默つて他人のお話を聞いてゐるだけで、若し詰らなさうな顏でもいたしますと、折角の祝宴に列しながら、却つて禮を失することになりますから、一通りの話が出來るだけの知識を蓄め養つて置かなければなりませぬ。

### ——新築の祝物を贈る挨拶

「今日は、御免下さいませ。と（挨拶）兼て御工事中の御本邸が、いよ〳〵御落成なさいまして、近日御移轉遊ばし（なさい）ますさうで、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）お設計の御樣子は時々お伺ひ申上げて居りましたが、多年のご希望の御新築で居らつしやいますから、定めし御立派のことでございませう。と（挨拶）其上、お土地（敷地）がお廣くて、大變閑靜で居らつしやいますさうで、皆樣も定めし御滿足で居らつしやいませう（どざいませう）お芽出度うございます。と（重ねて挨拶一禮）實は本日、主人が上りましてお祝申上げます筈でございましたが、一寸親族の方に手離せない用事が急に出來ましたものでございますから、私から吳々も宜敷申上げる樣にと申聞けましてございます。と（挨拶一禮）と同時に之は誠にお粗末でございますが、お祝のお印でございますから、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）何れ御移轉になりましたら、（遊ばしましたら）拜見さして戴きます。」と（挨拶一禮）

### ——祝物を贈られた答禮挨拶

「本日は御多忙中を、わざ〳〵お運び下さいまして、御鄭重なお祝に接しまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）實は前々からの理想もあり、色々と考案もいたしましたのでございますが、其場に立ち至りますと、思ひも依らない處に考への及ばぬ事も多々ございまして、出來上つて見ますと、不滿の所ばかりでございます。と（挨拶）仰せの通り、唯々土地が高いのと、閑靜なだけが取り得でございます。と（挨拶）まだ移轉前でございまして、大變取り散らして居りまして、誠に失禮でございますが、多分何日頃には移轉出來ようかと存じますから、新築の方へ參りましたら、改めて御案内は申上げますが、只今の處より少々お近くにもなりますから、何卒お遊びにお出で下さいませ。と（挨拶一禮）如何も御鄭重なお祝を有難うございました。何れお禮には參上いたしますけれども、お歸りになりましたら御主人樣に宜敷お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――新築落成祝に招く挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）先達ては大變御結構なお品をお祝ひ下さいまして、有難うございました。又其節は端近で大變失禮いたしました。と（挨拶一禮）實は本日お邪魔をいたしましたのは外でもございませんが、去る何日、新築の方へ移轉いたしまして、未だ不整頓で、手も届かない勝でございますが、幸ひ明十五日が日曜に當りますので、極くお親しい方ばかり十二三名お出でを願ひまして、心計りの小宴を催したいと思ひます。定めし御多忙で居らつしやいませうが、お繰合せの上、何卒午後二時までにお越し下さいます樣、お待ち申上げて居ります。と（挨拶）尙ほ此日は、ほんとうにお親しい方ばかりでございますから、坊ちやん、嬢ちやんの居らつしやいますお宅樣からは、皆樣お揃ひでお出で下さいます樣、お願ひ申上げて居りますから、何卒お宅樣でも、皆樣お揃ひでお出掛け下さいます樣、特にお願ひ申上げて置きます。と（挨拶）其れでは今日は之で失禮いたします。又明後日お目に掛ります、さようなら。」と（挨拶一禮）

## ――新築落成祝に招かれし答禮挨拶

「先達てはお取り込中に上りまして誠に失禮いたしました。と（挨拶一禮）ほんのお祝のお印でお恥かしう存じます。と（挨拶）其れではいよ〳〵御移轉遊ばし（なさい）まして、誠にお芽度うございます。定めし御普請なり、御庭園など、萬事御立派なお出來榮で、皆樣もさぞ御滿足で居らつしやいませう。と（挨拶）仰せに從ひまして、御遠慮無く子供を連れまして早々からお邪魔に上りまして、拜見さして戴きます。と（挨拶）何れ參上いたしました節　改めてお祝ひを申上げますが、何卒お歸

りなさいましたら、皆様に宜敷お傳へ下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――新築祝の當日客の挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶一禮）此度は大變御立派な御普請が御落成いたしまして、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）そして本日わざ〳〵お招きに預りまして、有難うございます。お言葉に甘へまして、御遠慮無く子供連を連れまして、何卒宜敷。と（挨拶一禮、後は普請萬端を拜見して席上に歸り）建築の樣式といひ室内の御裝飾といひ、又お庭の有樣なども全く御理想通りで、御立派なお出來榮えでございます。と（挨拶）殊に此の邊は高臺でございますから、閑靜で、お見晴しも宜しうございますから、春秋の眺めは又格別でございませう。と（挨拶）夏のお暑い時も、風通しが宜しうございますからお涼しうございませうし、南が少し東にふれて居るやうでございますから、冬は日當りがよくてお暖かでございませうし、ほんとにお羨しいお住居でございます。」と（挨拶、後は何かと普請の美麗なことをほめたゝへる。）

## ――新築祝宴の席上主人の挨拶

（愛嬌宜しく一禮）「皆樣も御承知の通り、舊私の家は祖父が建築したものでございまして、既に父の時代から非常に荒れて居まして、改築の必要に迫られて居りましたが、父の代まで、遂に其の運びに至りませんでした。私の代になりましても、折角祖父の遺物とも言ふべきものを毀つといふのは、何やら忍びない樣な氣がいたしまして、これまで延々になつて居りましたが、雨が降ればお恥しい話ですが雨洩りが致しますし、風が吹けば毀れさうで、如何にも危險でございましたから、斷然意を決して舊家は全部取り壞し、新築に取りかかりました。そして漸く粗末ながらも其の工が成りましたので、玆に聊か小宴を開いて、皆樣のお運びを願つた樣な次第でございます。お忙がしい中にも拘らず、態々お運びを願ひましても、何のもてなしもございませんが、どうか私の微意を酌まれて、十二分の歡をお盡し下さる樣お願ひいたします。」と（挨拶一禮）

## ――新築祝來賓の挨拶

「何某君は父祖傳來の舊宅を毀つのが、情に於て忍びざる所として、これまで新築を企圖されて居ながら、其の儘にして居られましたが、愈々改築に迫られて、玆に結構壯麗の新居を御新築になり、斯く盛大なる宴を張られて、私まで其の席末を汚すの光榮を得ましたことは、鳴謝の外はございません。

私は此の吉日に際して、何某君の祝福と、併せて此家の永劫隆昌を來さんことを謹んでお祈りいたします。」と（挨拶一禮）



## ——新築祝に關する用語

○優雅な建築樣式○通風宜しく○木口も宜しく○理想的な設計○殊の外出入に便利○閑靜○高燥○興致を添ふ○結構壯麗○窓を押せば大河は淙々として家を遶り○自然の景勝○人工の美を盡されて○山水の景○庭前の松○潺湲○古人曰く居は氣を移す○住居は必ず人の精神に影響すると申しますから○斯の清宴を張られ○慶賀○欣喜。

## 開店祝の挨拶

何によらずお祝ひ事の贈物には、緣喜のよい物を贈らなければなりませぬ。普通の、中元とかお歲暮の贈物ですと、貰つて重寶なものといふことが一番大切な目標となるのですが、祝ひ事には、假令重寶しないものでも、緣喜のよいものであれば貰つた方で氣持が好いものであります。殊に開店のやうな場合ですと、前途が運賦天賦といふやうな氣持が多分にありますから、是非緣喜のよい、例へば鯉節の折とか、お酒の角樽とか、宜しいのであります。

## ——新築開店を祝ふ挨拶

「兼而御新築中のお店が御落成なさいまして、昨日賑やかに御開業遊ばし（なさい）ましたさうで、誠にお芽出度存じます。と（挨拶一禮）實は御開店遊ばすお噂は承つて居りましたが、昨日とは一向存じませんでしたから、お手傳もいたしませんで、誠に申譯ございません、何卒お免し下さいませ。と（挨拶一禮）承まはりますれば、御開店早々から、大變な御人氣で居らつしやいますさうで、重ね重ねお芽出度うございます。と（挨拶）お宅樣のお噂をお伺ひいたしますと、人樣の事の樣に思はれませんで、まるで吾事の樣に思はれまして、一日も早くお伺ひして、お祝を申上げやうと思つて居りましたが、生憎親族の方に取込事がございましたものですから、失禮いたして居りました。何卒惡しからずお許し下さいませ。と（挨拶一禮）これはほんとに詰らぬ品で、お恥しうございますが、お祝ひのお印でございます。何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――開店祝ひを受けた答禮挨拶

「如何も有難うございます。と（挨拶一禮）お蔭様で開店當日から店員一同が目のまわる樣な忙しさでございまして、皆よろこんで居ります。と（挨拶）之と申しますのも、皆樣のお力添へがありますからでございます。と（挨拶）何卒此狀態をいつまでも〜〜續けたいと意氣込んで居りますが、此後共、何卒宜敷くお指圖下さいます樣吳々もお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）又今日は結構なお祝物を戴きまして、何とも申譯がございません。と（挨拶）有難うございます。遠慮なく頂戴つかまつります。」と（挨拶一禮）

## ――開店の祝宴に客を招く挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）先達ては、御遠方の處をわざ〜〜お運び下さいましたのに、取込中でございましたから、端近で眞に失禮いたしました。と（挨拶一禮）又其節は誠に御結構なお祝を頂戴いたしまして、皆の者も大變よろこんで居ります。と（挨拶一禮）實は早速主人がお禮に上りますのが本意でございますが、未だ店の方も十分整頓いたして居りませぬので、今日は私がお禮に上りまして、ございます、ほんとうに有難うございました、厚く御禮を申上げます。と（挨拶一禮）就きましては、日頃の御親切を謝しますと共に、披露の宴を催しまして、今後に付きましてのお心添へを皆樣にお願ひ申上げ度いと存じますから、何卒、御主人樣御同道で、奥樣もぜひお運び下さいます樣お願ひ申上げます。と（挨拶一禮）態々〜〜お招き申上げましても、一向に何の風情もございませんで、御多忙中を却つて御迷惑でございませうが、何卒お繰合せの上、お運び下さいます樣、お願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――開業祝宴に招かれし答禮挨拶

「今日は、御多忙中をわざ〜〜お運び下さいまして、有難う存じます。と（挨拶一禮）お聞きいたしますと、御開店以來、日々非常な御盛況で居らつしやいますさうで、誠にお芽出度うございます。と（挨拶一禮）お場所柄なり、御信用がおありになりますから、さうある筈でございますが、今後も一層御隆昌になりますやう御祈り申上げます。と（挨拶）就きましては、此のお芽出度いお祝にお招き下さいまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）お言葉に甘へまして、明日は早々からお手傳ひ方々〜〜お祝に上りまして、貴方樣にあやからして戴きます。と（挨拶）何れ明日參上いたしまして、

御主人様へお祝の御挨拶は申述べますが、お師宅の上は、何卒貴方様から奥々も宜敷くお傳へ下さいます様お願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）さようなら。と（重ねて一禮）

## ——開店祝の席上に於ける主人の挨拶

（鄭寧に挨拶一禮）「本日は、私が多年の宿望でありました、米穀商を開店する事になりましたので、聊か披露の宴を開きましたが、御多用中にも拘はらず、斯く態々御來席を辱ういたしまして、誠に有難き仕合せに存じます。それに就きまして、甚だ烏滸がましい次第ではございますが、私が米穀商を開店しようと云ふ動機について一言申上げたいと思ひます。實は當地に於きましても、錚々たる同業者がございますのに、私如き微々たる者が、新たに斯の至難の米穀商を營むといふことは、聊か猪口才に思はれるかも知れませんが、今日の米穀商なるものに就ては、多少遺憾の點があります。勿論、當地には左樣な同業者はありますまいが、他の地には能くある事のやうに見聞いたして居ります。勿論商賣は營利を目的とするものでありますから、儲けなければなりません。然しながら、如何に儲けねばならぬからと申して、徒らに營利心にのみ驅られて居ましては、遂いに人を瞞着して、桝目を誤魔化すといふやうな事になります。そして結局、自身を汚辱し、信用を失ひ、社會に害毒を流す樣な事になります。いふ迄もなく米穀商は、我々お互の常食とするところの米を販賣するものでありますから、一面些細の事のやうでありますが、實は、大なる影響を及ぼすものであります。是を甚だ遺憾に思ひまして、少許ではありますが、私財を投じて自ら斯業の改革に當らうと、いたしました唯一つの動機であります。斯かる事を申しましては、至極生意氣の樣ではありますが、之は私の信念であり抱負であります。併しながら、お見かけの通りの若輩ものでございますし、それに斯業の經驗には至つて乏しいのでありますから、皆さんの御眷顧を仰がねば到底成功は期すべくもありません。どうか御愛顧を賜はらん事をお願ひいたします。尚ほ本席は素より盃酒盃肴ではございますが、十二分に歡をお盡し下されんことを希望いたします。」と（挨拶一禮）

## ——開店祝の席に於ける來賓の挨拶

（起つて一禮）「本日某氏が、多年の宿望たる米穀商を開かるゝに際し、其の披露のために此の盛宴を張られ、私如き者まで席末を汚し、而かも慇懃なる御挨拶に接し、恐縮に存じます。

氏は某商業學校に於て新時代の商法を學ばれ、卒業後何商店に入つて實地の經驗を積まれ、其の才幹衆を抜くことは、これまで人々の嘆稱するところであります。其の氏が、今日吾人の常食とする

米穀商の中に、多く不正なる奸商あるを慨き、自らその改革を企圖されて、斯業に就かれたことは、洵に一村一郡、一縣一國のために喜ぶべき事であります。申すまでもなく、商人にも商道德がなくてはなりませんが、多くは只だ我利にのみ浚頭する者が多く、氏の如き正義の人を我が商界に送るといふ事は、確かに一つの清涼劑でありまして、益々繁榮に赴かれることは信じて疑はぬ所であります。聊か所感を述べて祝辭といたします。」と（鄭寧に一禮）

## ――開店祝の用語

○開店の披露○諸般の御準備を整へられ○店舗開設○商業上の經驗を積まれ○事業繁榮の根柢○家運の隆昌○非凡の手腕○時代の要求に適す○御發展○敏腕家。

# 面會の挨拶

他人に面會する時は、殊更に改つた態度を作つては不可ませぬ。初めは馬鹿に鹿爪らしい顔をして居たに拘らず、段々色でも褪せるやうに變つて來ると、如何にも淺墓なやうな感じを對手に與へるものであります。でありますから、假令初對面でありませうとも、和かな、至極平靜な態度で會談いたさなければなりませぬ。

それから極く親しい間柄でない限り、服裝などにも注意して、一寸衣紋をつくらうか、或は羽織を引つかける位の心得があつて欲しいと思ひます。御婦人なら殊にその心掛が必要で、自分の姿を一寸姿見に寫した上、見惡くからぬ姿で客に會ふのが禮儀であります。

## ――初對面の挨拶（對話）

客　（應接間が洋式ならば椅子から起つて、又日本室なら座布團から辷り下りて、自分の名刺を差出し）お初にお目にかゝります（お初めてお目にかゝります）と（挨拶一禮）私は何々と申します至つて不束者でございますが、今後はどうぞ宜しくお願ひ申します。と（挨拶一禮）

主人　これは申し後れました。私がお訪ねに預りました何々でございます。と（挨拶）どうぞお互樣に宜しくお願ひいたします。と（挨拶一禮して客の名刺を取り、一寸戴く手つきをして見る）

客　豫てから一度お訪ねして、御高說を承りたいと存じて居りましたが、その機會がありませんで、今日まで失禮いたして居りました。と（挨拶一禮）

主人　いや、恐れ入ります。と（挨拶、又名刺をちらと見て）××町にお住居でございますか、あちらは閑静で、空氣も宜しうございませうし、出入りの便利も宜しいし、此邊と違つてお住居には御結構な所でございますねえ。」（などゝ、客が用談を切り出すまで愛想よく雑談を交へます。）



## ――知人を紹介する挨拶（對話）

A　B様、一寸御紹介申上ます。と（挨拶一禮）此お方は主人のお友達の、何様の奥様で居らつしやいます。私も大變お親しういたして居りますから、今後何卒、私同様お心安くお願ひ申上げます。と（挨拶、そして職業身分其他を、細々と説明いたします。）

B　左様で居らつしやいますか。と（挨拶、此時AはCに對ひ、）

A　C様、私がいつもお話いたして居ります、何々様の奥様で居らつしやいます。と（挨拶）

C　あら、左様で居らつしやいますか。と（挨拶、と同時に、お初に御目に掛かります。私は何々と申します不束者でございますが、何卒今後はA様の奥様御同様、宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

B　左様で居らつしやいますか、之は申し遅れましてございます。お名前は象ねてA様から伺つて居りましたが、お目にかゝりますはお初めてゞございます。私は何々と申ます者で、A様とは古くから御懇意に願つて居ります。どうぞお互に宜しくお願ひ申上ます。と（挨拶一禮）

## ――面會に關する用語

○面談○面晤○面識を得○御壁咳に接し○お手間を取らせ○拜眉の榮○早速拜顏○突然御訪問○御平靜を驚かしまして○販路擴張の爲め出張いたし○御別懇の間柄○昵懇○御添書を拜受○御高見をお伺ひいたしまして○御指導に預かり

## 依賴の挨拶

他人にものを依賴する場合は、先づその要件を解りよく、誤解のないやうに話すことが心要であります。そして對手の顏をちつと見て、少しでも迷惑さうな色が見えたら、無理に强要してはなりませぬ。嫌や〳〵承諾してもらつても、決して無理な依賴事は成功するものでなく、よし成功しても、對手に何時までも惡い感じを持たせて、却つて不利益であります。

又他人に物を依頼された人は、自分に出來るか出來ないかをよく考へ、自信のない時はその理由を委しく述べて、判然り斷るのが禮儀であります。詰らぬ見得を張つて、自信もないことを引受け、依頼者に迷惑を掛け、失望させるのは大きな罪惡であります。後には自分も退くには退けず、困り拔いた結果、依頼者の來訪を避けて、逃げ廻るやうな例は世間に決して少くありませぬ。表面は大變親切なやうで、結局大變な不親切で、怨まれないで濟むことを態々怨まれるやうな結果となるのでありまして、心すべきことであります。



## ――初對面の人に物を依頼する挨拶（對話）

客　御免下さいませ。と（挨拶）

女中　入來つしやいませ。と（答禮挨拶）

客　私は何某と申す者でございます。と（住所姓名を詳しく述べるか、或は名刺を出して）私は斯樣な者でございますが、御主人は御在宅で居らつしやいませうか、一度お目にかゝつてお願ひ申上げたい事がございまして、お伺ひいたしました。どうぞ宜しくお取次ぎをお願ひいたします。と（挨拶一禮）

女中　ハイ、左樣でございますか、暫くお待ち下さいませ。と（挨拶一禮して、奥に入り）旦那樣。と（客の名刺を差出し）只今、此お方樣がお越しになりまして、旦那樣にお目に掛つて、何かお願ひしたい事がおあり遊ばしますさうでございますが、如何いたしませう。と（挨拶一禮）

主人　（名刺を見て）此方へお通し申しなさい。

女中　承知いたしました。と（挨拶、玄關に出て來て）お待たせいたしました、何卒お通り下さいませ、と（挨拶、と同時に立ち上り、主人の居間に案内いたしまして、室の入口で室内を差し）何卒、彼方へ。と（挨拶一禮）

客　有難うございます、それでは失禮いたします。と（室内に入り、下座の方から主人の方に對ひ着座いたして）御免下さいませ。と（挨拶一禮）

主人　入來つしやいませ、私がお尋ねに預かりました、何々でございます。と（挨拶）

客　之は申遲れましてございますが、只今、お取次をお願ひいたしました何々と申す不束者でございます。何卒宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

主人　そして、御依頼の件と仰しやるのは、如何な事でございますか。と（挨拶）

客　（此時自己の用件を要領よく簡單明瞭に話し）只今申上げました樣な譯でございますから、誠に不

しつけなお願ひとは存じますが、如何に考へましても貴方様におすがりいたします外に道がございませんので、途方に呉れて居ります。厚ケ間しい御願ひでございますが、何卒宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

主人　左様でございますか、それは誠に（御結構、お氣の毒、御同情）に堪へない事でございます。何とか御希望に添ふ様に致します。と（挨拶）

客　大變御無理なお願ひをいたしまして、申譯がございません、早速御承引下さいまして、誠に有難うございます。之で私も大變安堵いたしました。何卒宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

## ——依頼を断る挨拶（對話）

主人　左様でございますか、お話は大變よく分りましてございますが、私共にはお話の様な事は一向に經驗がございませんから、折角の御依頼でございますが、殘念ながら、貴方の御希望に添ひ兼ねまする。何卒悪しからず御了解下さい。と（挨拶）

客　左様でございますか、實は貴方なればと存じてお伺ひいたしたのでございますが、それでは何とも致方がございません。と（挨拶）それでは之で失禮いたします。御多忙中を永々とお手間をお取らせいたしまして、誠に相濟みませんでございました。と（挨拶一禮）、

主人　折角の御依頼に添ふ事が出來ませんで、誠に殘念でございますが、又外に何か私共の出來ます様な事がございましたら、何なりと御申附け下さいませ。其節は必ず御希望にお添ひ申上げます。と（挨拶）

客　ハイ、有難うございます。其節は何卒宜しくお願ひ申上げます。其では之で失禮いたします。左様なら。と（挨拶一禮）

主人　左様なら、失禮いたしました、何卒お靜に。と（挨拶一禮）

## ——依頼を考慮する挨拶（對話）

主人　左様でございますか、お話の模様は逐一分りましてございますが、私だけでは御返事が出來兼ねますから（家内、父母、兄弟）が歸りましたら、よく相談いたしまして、改めて御返事いたします。と（挨拶一禮）

客　御尤もでございます。ほんとうに御無理なお願ひをいたしまして、申譯がございません。どうぞお怒りにならぬやう、お願ひ申し上げます。と（挨拶一禮）大變せつかちの様でございますが、何日

頃、御返事を頂戴に上りましたら宜しうございませうか。と（挨拶）かしこまりましてございます。それでは其節また〳〵お邪魔さして戴きます。何分共に宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）

主人　承知いたしました。と（挨拶）

## ——依頼に關する用語

○日頃の御同情に甘へ○甚だ申し悪いお願ひ○恐れ入りますが○恐縮○御迷惑ながら○その邊お含みの上で○身元確實な者○曲げて御承諾願へませんでせうか○甚だ勝手なお願ひ○お聞き屆け○お聞に合せ願へますれば

# 祭禮の挨拶

祭禮は楽しい年中行事の一つで、殊に子供に取つては此の上もない楽しいものであります。誰何でも年を取つて懐しく思ひ出されるのは、少年時代の正月とお祭であります。

お祭には大抵泊りがけで親戚なり知人の家へ參りますが、子供として泊りがけで他家へ行くことは、



お祭の時位のものであります。ですから招待を受けましたら、事情の許すかぎり必ず子供を同伴して、斯ういふ機會に他家の家風を見せて、しつけをすることが必要であります。挨拶の仕方や御馳走の頂き方など、禮儀作法を教へるに最も好い機會であります。

## ——祭禮に人を招く挨拶

「御免下さい、と（挨拶）其後は誠に御無沙汰いたして居りますが、昨今は大變冷しくなりまして、凌ぎよくなつて參りました。お内皆樣お變りございませんか。と（挨拶一禮）私の方も皆んな達者でよろこんで居ります。と（挨拶）就きましては、例年の通り本月十一日が氏神樣のお祭でございますから、皆樣お揃ひでお出掛け下さいませ。と（挨拶）本年は例年の大神楽やお神輿樣の外に、素人芝居や、素人奉納相撲もいたしますさうで、過日から若者達がお稽古に夢中になつて居ります。と（挨拶）其外、田舍は田舍なりに色々の趣向を凝らして居りますさうでございますから、例年よりは一層賑ふ事と存じます。何のおもてなしも出來ませんが、お子樣をお連れ遊ばし（なさい）。まして、宵祭からお泊り掛けでお越し下さいませ。お待ち申して居ります。」と（挨拶一禮）

## ——祭禮に招かれた答禮挨拶

「仰の通り、朝夕は大變お凉しくなりましてございます。お宅様には、いつも皆様お壯健で、何より御結構でございます。と（挨拶一禮）毎年お祭にはお招きに預かりまして、厚ケ間しく大勢で上りまして、御馳走様でございます。と（挨拶一禮）昨日今日と思つて居ります内に、早や一年過ぎまして本年のお祭も後數日となりましてございますねえ、又々お招きに預りまして有難うございます。と（挨拶一禮）其では本年は、昨年よりは尙一層お賑やかでございませう。是非共お邪魔させて戴きまして拜見さして頂きたいものでございますが、折惡しく當日は、主人が商用で上京いたします樣、先方とも打合をいたして居りますから、留守になります筈で、私共は御馳走樣になります事が出來ませんで、誠に殘念でございますが、而しお言葉に甘へまして、子供等二人をお伺ひいたさせますから、御厄介樣でございますが、何卒宜しくお願ひ申上げます。」と（答禮挨拶一禮）

## ——祭禮當日の挨拶（對話）

客　今日はよい御祭禮でございます。お招きに預りまして、御遠慮無くお邪魔に上りましてございます。と（挨拶一禮）

主人　よく入來つしやいました。サア、何卒お通り下さいませ、堅くるしい御挨拶には及びません。と（挨拶）

客　先達ては、わざ〳〵お立寄り下さいましても、何のお愛想もいたしませんで失禮いたしました。と（挨拶一禮）お招きのお言葉に甘えまして、本日は御遠慮無く大勢で厚かましくお伺ひいたしました。と（挨拶一禮）

主人　先日は突然お伺ひいたしまして、色々と御馳走樣でございました。其上結構なお土産まで頂戴いたしまして、有難うございました。內の者も皆よろこんで頂戴いたしました。と（挨拶）時に、奥樣や坊ちやんは、と（挨拶）

客　えゝ、後から上る事になつて居ます。と（挨拶）

主人　さう、それは宜しかつた、僕は又、君お一人かと思つて、少し氣惡味思つた處です。はゝゝゝ、それで安心しました。と（挨拶）

主婦　（出て參り着座と同時に）入來つしやいませ、其後は御無沙汰いたして居ります。御內樣にも皆樣御壯健で何より御結構でございます。と（挨拶一禮）そして、先達ては主人が上りまして、色々と

御馳走様になりまして、その上、お土産まで頂戴いたしまして、誠に有難うございました。と（挨拶一禮）

客　先日は失禮いたしました。其節お招きに預りまして、本日は厚かましく大勢でお邪魔に上りました。と（挨拶一禮）

主婦　よく入來して下さいました、何卒おくつろぎ下さいませ。と（挨拶）そして、奥様や坊ちゃんは、如何なさいました。と（挨拶）

客　後から來る筈でございます。と（答禮挨拶）

主婦　左様でございますか、子供が最前からお待ち申て居ります。と（挨拶）

妻、子　御免下さいませ。と（挨拶）

主婦　オヤ、マア、よく入來つしやいました。餘りおそくて居らつしやいますから、宅の坊やが待ち兼ねて居ります。さあ、何卒お通り下さいませ。と（挨拶）

客の妻　どうも有難うございます。御免下さいませ。と（挨拶）

子供　伯母ちゃん、今日は。と（挨拶）

主婦　よく入來つしやいました。と（答禮挨拶）

（客の妻。主人、夫婦に對ひ、時候の挨拶、其日の挨拶等を細々と述べる。）

## ——祭禮に招かれた人の歸りの挨拶（對話）

客　それではどうも色々と御馳走様でございました。其上兩親達にまで結構なお土産を下さいまして、有難うございます。定めし兩親もよろこぶことでございませう。と（挨拶一禮）

主人　御遠方の處を、折角お招きいたしましても、何のおもてなしもいたしませず、誠に恐縮でございました。お歸りになりましたら、御兩親様に宜しくお傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）

客　ハイ、左様申し傳へます。と（挨拶一禮）

## ——祭禮に關する用語

○結構な祭禮○よい御祭禮○秋季例祭○お招きに預り○御招待により○御寵招を受け○奉納の神樂○奉納角力○村芝居○神輿渡御○幣帛○詔使參向○參詣○御馳走○御饗應○茶番狂言○大花火打揚げ○何の風情もなく○山車も多數○粗酒一獻○御一統様お泊りがけ○地酒に妻の手料理○態々お招き○お祭氣分。

# 送別の挨拶

哀別離苦といつて、別れるといふことは確かに人生の一つの悲劇であります。假令遠く隔れた土地へ行くのでなくとも、改つていさ別れるとなると、何人も一種の悲哀を感じます。送られる者は素より、送るものも同樣であります。で、結局涙の一つも流すことになるのでありますが、これは必ず愼まなければなりませぬ。

涙を見せるとお互ひに、何時までも別れた後まで、俾が殘つて、餘計な苦痛となるのであります。ですから、愈々といふ別れの場合に臨みましたら、ぢつと悲みを押しこらへて、努めて朗かな態度で、別れの手を握り合はなければなりませぬ。

尤も努めて朗かにならうとして、際立つて燥やいだりいたしましては、又却つて對手に異狀なショックを與へるものであります。私は嘗て可愛い一人子を喪つた友人が、その葬送の日に、突然大口を開けてから〳〵と笑ひ出したので、はつとして、友人の顏を正視するに忍びなかつたことがありました。當人は他人に悲しさうな顏を見せまいとしたのでありませうが、周圍の人は寧ろより强い悲哀を



感じさせられ、何ともいへぬ晴い氣持になるのであります。勿論悲を押しこらへて平靜な態度を持するといふことは、餘程修養した人でなくては出來ぬことかも知れませぬが、出來るだけさう努めて欲しいものであります。

## ——本人よりの別れの挨拶

「今日は、誠に御結構なお天氣でございます。と（挨拶）永々御厄介になりましてございますが、此度（事業の都合上）、よぎなき事情の爲め（轉任、轉宅、歸國）致します事になりましたので、一寸御挨拶に上りましてございます。時候もだん〳〵お寒さに向つて參りますから、皆樣も何卒朝夕共に、お身體を御大切になさいませ。と（挨拶）何れ落着きましたら、御通知はいたしますが、お近くへお出での節は、必ずお立寄下さいませ、お待ち申て居ります。と（挨拶一禮）さようなら。」

## ——本人への別れの挨拶

「仰の通り、結構なお天氣でございます。と（挨拶）其は〳〵御丁寧な御挨拶で、恐入ります（痛み入ります）私の方こそ朝夕御親切にして頂いて居りましたのに、急に（御轉宅、御轉任、御歸國）な

さいましては、誠にお名殘り惜うございます。と（挨拶一禮）お宅樣でも、寒さに向ひますから、何卒お身體を御大切になさいませ。と（挨拶一禮）そして永々とお住み馴れの處でございますから、たまには何卒、お出掛け下さいませ、お待ち申して居ります。と（挨拶一禮）さようなら。」と（重ねて一禮）

## ――家族の者よりの答禮挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）實は何某が何日も大變お世話樣になりまして誠に有難うございます。所が此度突然都合に依りまして、家族一同が歸國いたさねばならぬことになりましたので、止むを得ず某も歸りますことになりました。此方に居ります間は何日までも御厄介をお掛けする積りでございましたが、誠に殘念に思つて居ります。と（挨拶）此方樣には特別のお引立に預りましたにも拘らず、何の御恩返しもいたしませんで、歸國いたします事は、本人も大變苦に病んで居りますが、何卒お許し下さいます樣、お願ひ申上げます。と（挨拶一禮）何れ歸り次第御通知はいたしますが、國の方には、色々珍らしい變つた處もございますから、是非一度お遊びにお出で下さいませ。田舍の事で、何もございませんけれど、家だけは廣うございますから、何卒お出掛け下さいませ。と（挨拶一禮）某も又何時參りますかも知れませんから、其節は何卒宜しくお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）其では御免下さいませ。何卒お身體を御大切になさいませ。と（挨拶）さようなら。」と（一禮）

## ――家族の者への答禮挨拶

「オヤ、マア、左樣でございますか、其れはマア何かと御多忙な事でございませうに、わざ〳〵お出で下さいまして、有難うございます。と（挨拶一禮）ほんとうに、永々のおなじみでございましたのに、只今お別れいたしますのは、何と無く心殘りでございますけれど、御本人を一人お殘しになりますより、御一所の方が御心配がございませんでお宜しうございます。と（挨拶）而し、餘り御遠方と云ふ譯ではございませんから、時折りお遊びにお出で下さいませ。私も又お伺ひいたしまして、方々御案内をお願ひいたします。是れは又結構なお土産を頂戴いたしまして、有難うございます。と（挨拶一禮）何卒お身體を御大切に、左樣なら。」と（挨拶一禮）

## ――見送りの挨拶

「昨日はどうも丁重な御挨拶で、恐入りました。と（挨拶）いよ〳〵お別れの時が參りました。それ

では、何度申上ましても同じ事でございますが、今後は特にお身體を御大切にお元氣にお暮しなさいませ、そして一日も早く御成功をお祈りいたして居ります。と（挨拶）是は誠に少々でございますけれど、お道中のおなぐさみでございます。それでは隨分ともに道中（途中）お氣をお付けなさい（遊ばし）ませ。と（挨拶）さようなら。と（重ねに挨拶一禮）

## ――遊學の友の送別會に於ける席上挨拶

（個人と個人の挨拶でなく、數人數十人の人が集つた席上での挨拶は、個人的のものとは全然相違することは申すまでもありません。送られる人の最も親しい友で、送別會の司會者から指名を受けたA君が起つ。勿論此の場合、豫め諒解を得て置いて、指名するのであることは、いふまでもありません。）

「今晩の司會者某氏の御指名によりまして、一言御挨拶申上げます。と（挨拶一禮）今回B君が法學研究の爲に御上京なさる事となりましたので、吾々青年會員一同が、聊か送別の意を表する積りで、本日此の小宴を催した次第であります。

B君は本村青年會の幹事として、會務に缺掌せらるゝ事殆んど四年であります。其間、B君が本會の爲め犧牲的に努力せられた事は、吾々會員一同の感謝措かざるところであります。然るに、今や、



そのB君と暫時のお別れをせねばならぬ事となりました。それは青年會の方から言つても、又吾々個人の情誼から云つても、惜別の情に堪へられませんが、同君多年の希望が達せられて、學問研究の爲めと云ふ、誠に目出度い事でありますから、如何ともする事が出來ません。只此上は同君の行を盛にして、吾々青年會員一同の心の誠を表する外はありません。さて、B君も愈々御上京なされたならば、多年の御希望の事でありますし、悦び勇んで御勉強なされるでありませうが、由來都會の地は、あたら有爲の青年の身を過る誘惑が多いと聞いて居りますから、注意の上にも御注意あつて、やがては判檢事試驗か辯護士試驗かの孰れかに及第せられて、錦衣故郷に歸らるゝのを御待ちする次第であります。又風土氣候の變る土地へ御出でになる事でありますから、十分御氣をつけられん事を希望いたします。聊か思ふ所を述べて送別の辭にかへます（挨拶一禮）

## ――遊學者の答辭挨拶

（鄭寧に一禮）「本日は私が此度東上遊學いたす事になりましたに就て、盛大なる此の送別の宴をお開き下され、のみならず、諄々の御教訓を賜はりましたのは、大なる光榮として深く感謝する次第であります。（挨拶一禮）尙ほ、先刻諸君より賜はりました御教訓は、一々肝に銘じ、須臾も忘るゝ事なく、

專心目的に向つて進み、初一念を貫徹して、諸君の御厚意に背かざらんことを期したいと決心いたして居ります。一言御挨拶を述べて答辭に代へ、終りに臨んで諸君の御健康と御幸福とを祈るものであります。」と（挨拶一禮）

## ――海外留學者送別會幹事の挨拶

（鄭寧に一禮）「今回何某君が文部省留學生たるの名譽を獲き、不日渡航の途に上られるに就き、聊か其の前途を祝する爲送別の宴を催しました所、斯く多數の御臨席を恭うし、幹事の面目を施し得たことは、誠に感謝に堪へませぬ。

某君は帝大法科大學出身で多年經濟を專攻せられ、既に某大學助教授として盛名あることは昔く人の知る所で、他日の博士を以て目せられる前途有爲の青年であります。今回文部省留學生を命ぜられたのを以てしても、如何に君の資性が優秀であるかを窺ひ得るでありませう。學者としての面目は、蓋し之に過ぎるものはありません。君の如き俊秀の材を以て更に廣く世界に知識を求めたなら、我が學界に貢獻する所は頗る甚大なるを信じ、獨り一鄕の誇りとして祝するのみならず、實に國家の慶事とする次第でございます。併しながら倩々我が學界を觀ずるに、學者多くは原書を目して彼等が闕健となせるは慨歎に堪へません。願くは某君他日研究の功を積み歸朝せらるゝの日は、大に獨創の見を立て、自力の權威を示し、我が學界に一大覺醒を與へられんことを切望いたします。

君は之より風土異る境域に向はれるのでありますが、何卒健康に注意せられ、研鑽の功を修めて無事歸朝せられんことを祈ります。今夕は小宴にして素より君に酌杯を侑むるに足るものはありませんが只微衷を斟まれて十二分の歡を盡くされんことをお願ひいたします。」（挨拶一禮）

## ――海外留學者の答辭挨拶

（鄭寧に一禮）「今回私が文部省留學生として渡航するに就きまして、有志諸君が斯く盛大なる別宴を張られた御好意を深く感謝いたします。（挨拶一禮）諺にも百聞は一見に如かずと申しますから、私如き不才のものでも、親しく海外を視察し、碩學鴻儒の下に精勵せば、或は學識を高める事が出來るかと、是のみ覺束ない乍らも頼みとして居る次第であります。勿論彼も人なり我も人であります。我が學界の錚々たる先輩も、留學して後初めて獨特の見界を具へたのでありますから、只熱心と努力を以て事に當らば、或は豫期の一端を果し得るに庶いのがありませうから、私は今後諸先輩の後塵を掃ふて、何等か我が學界に貢獻せんと期して居る次第でありますが、我田引水の譏りは免れませんが

今回歐洲騷亂の成行より偖〻世界の大勢を觀察すれば、經濟專攻者の地位は頗る重要となるので、殊に我が國に於て最も然りと信じますから、私は身を以て此の重任を果したい覺悟であります。お別れに臨み、謹んで一言御挨拶申し上げます。」と（挨拶一讃）

## ――送別に關する用語

○お名殘惜しうございます○折角のお興染○御轉居○御轉任○御歸國○御榮轉○誠に止むを得ぬ○突然都合により○是非お遊びに○御道中のお慰みに○御車中のお慰みに○道中お氣をお附け遊ばして○隨分ともにお身體を御大切に○お身體をお厭ひ遊ばし○深く感謝○肝に銘じて○御自重○御自愛○感慨無量○御春願を蒙りまして○感謝に迫り○記念品を增呈して。

## 壽賀の挨拶

何に芽出度いといつて、壽賀ほど芽出度いことはありませぬ。又これほどの幸福はありませぬ。如何に巨萬の富を擁し、王公の位にありませうとも、一度現世と界を異にいたしましたならば、何の甲斐もありませぬ。

世の中には高齢の人もかなり澤山見受けられますが、さて自分の周圍を見ますると、若くして逝いた人がその大部分で、六十才七十才までも生き伸びてゐる人は誠に少ないのであります。そして、なるほど長壽は得難いものだと首肯かれます。

一體長壽は遺傳的なものでありまして、大きな百合根に大きな花がつくと同樣であります。從つて長壽の家に生れた者は、自己の幸福を思ひ、長壽の父なり祖父なりのために、心からお祝ひしなければなりませぬ。昔から「還暦は子が祝ふ」と申します。又「還暦から兒に歸る」と申しまして、再び子供になつたといふ意味で、赤いものを身に纏ふのが例でありますが、要するに、何れにしても生活力が既になくなつたことを意味するものでありますから、壽賀のお祝ひは、子なり孫なりが心をこめて祝はなければならぬのであります。

## ――還暦祝ひに招く挨拶

「昨今はめつきりお冷しくなりましてございますが、皆樣お變りはございませんか、と（挨拶）いつも御無沙汰ばかりいたして居りますが、私の方も皆々達者で暮して居りますから、御安心下さいませ。

と（挨拶一禮）時に本月の十八日は、私の六十一回目の誕生日でございますから、極くお親しい方ばかりをお招きいたしまして、形ちばかりの祝をいたしたいと思ひますから、十八日の午後二時から、自宅の方へ是非お運び下さいます様、お待ち申し上げます。」と（挨拶一禮）

## ――招かれし人の答禮挨拶

「先達てはわざ〳〵お運び下さいまして、お祝の御盛宴にお招き（下さい）にあづかりまして有難う存じます。と（挨拶一禮）お言葉に從ひまして、當日は何を措きましても早々からお祝に上ります。と（挨拶）之は試にお粗末でございますが、ほんのお祝のお印でございますから、何卒お納め下さいませ。と（挨拶一禮）いゝえ、そのやうに仰しやいますほどのものではございませんで、ほんのお印でございますから、どうぞお納め下さいませ。」と（挨拶）

## ――温厚の祝宴に家族より招く挨拶

「時候とは申しながら大變お寒くなりましてございますが、お宅様でも皆様お變りございませんで、誠に御結構でございます。と（挨拶一禮）私の方も皆達者でよろこんで居ります。其上父は本年六十一才の年を迎へまして、ます〳〵壯健で、私共をしのぐ位で大變よろこんで居ります。と（挨拶）此の上共にます〳〵達者で、長壽いたします様にと思ひまして、來る何日午後何時から、自宅の方で心計りの酒宴を催したいと思つて居ります。と（挨拶）就きまして、平素御昵懇に願つて居ります方々ばかりをお招きいたしたいと思ひますから、御遠路の處をわざ〳〵お招きいたしましても、何の風情もございませんが、何卒奥様御同道で御列席下さいます様、特にお願ひ申し上げます。」と（挨拶一禮）

## ――家族の者より招かれた答禮挨拶

「相變らずお寒うございます。過日は御遠路の處を、わざ〳〵お招きにあづかりまして、有難うございました。と（挨拶一禮）此度御親父様には還暦の壽をお迎へ遊ばしまして、誠にお芽出度う存じます。と（挨拶一禮）御親父様には六十一年の長の御年月を御齎闘なさいまして、今日のお榮を得られまして、此度の御よろこびを迎へられましたことは何よりお芽出度いことでございます。と（挨拶）其上ます〳〵御壯健で居らつしやいますから、今後の榮へも推し量られます。と（挨拶）御本人は申し上げますまでも無く、御一統様のお喜びは如何ばかりかとお察し申上げます。と（挨拶）其お芽出度い御祝宴に私共までお招き下さいまして、恐入ります。御當日は早々から參上いたしまして、御

長壽と御盛運にあやからして戴きます。と（挨拶）之は誠にお粗末でございますが、お祝のお印でございますから、何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一禮）

注意　（還暦とは六十一才のことで、暦が元へかへる、例へば甲子年に生れた人が、六十一年目で再び甲子年を迎へるから、還暦といふのであります。）

## ――古稀の祝を贈る挨拶

「御尊父様にはます〳〵御壯健で、此度古稀の壽をお迎へ遊ばしまして、賀宴をお催しになりますさうで、誠にお芽出度う存じます。と（挨拶一禮）御尊父様には多年世の爲め人の爲めにお盡し遊ばされ（まして）只今では名實ともに世の人の御信望を身にお集め遊ばして居られます上に、賀壽をお重ね遊ばしましたことは全くお芽出度い限りでございます。と（挨拶一禮）就きましては、其御祝宴に私共までお招きに預かりまして、誠に有難うございます。厚くお禮を申し上げます。と（挨拶一禮）何れ當日は、時刻早々に參上いたしまして、御尊父様にあやかり度いと思つて居ります。と（挨拶）之は誠にお粗末で失禮でございますが、心ばかりのお祝のお印でございます。何卒お納め下さいまして、御本人の御目にお掛け下さいますれば、有難うございます。」と（挨拶一禮）



注意　（古稀とは古から稀れなる長生といふ意味で、七十才を斯う申すのであります。）

## ――喜壽の祝物を贈る挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）大變厳しいお寒さでございますが、御親父様には此度喜壽の賀を迎へられまして、ます〳〵御壯健で居らつしやいますさうで、誠にお羨やましうございます。と（挨拶一禮）永々公共にお盡しの爲め、一町一村の信頼を一身にお集め遊ばしまして、今後は世の塵を外に、御幸福なる歳月をお送り遊ばしますさうで、誠にお芽出度存じます。と（挨拶一禮）就きましては、此の二十八日に喜壽の御祝宴をお催し遊ばしますさうで、其お芽出度い御席上を、私共にまで汚さして戴きます事は、誠に光榮と存じます。と（挨拶一禮）之は誠に輕少でございますが、尚ほ此上にも御長命遊ばします樣、千うどん一箱お祝のお印としてお納め下さいますれば、大變幸福に存じます。」と（挨拶一禮）

注意　（喜壽とは、七十七才のことで喜の字を略して書くと七十七となるからであります。）

## ――祖母の米壽に招く挨拶

「お寒うございますが、皆様お壯健で何より結構に存じます。と（挨拶一禮）幸　私の方も皆達者でよろこんで居ります。増して祖母は本年が八十八の年を迎へまして、特別に達者でございますから、皆の者が大變よろこんで居ります。と（挨拶）就きましては尙ほ此上にも達者で、百までも長壽いたします樣にと思ひまして、此十五日の誕生日に出來得るだけのお祝をいたし度と思つて居りますから、貴方樣も御遠路の處を恐入りますが、お孫樣を御同道で、當日は早々よりお出掛け下さいまして、祖母の健在をよろこんでやつて下さいますとともに、色々の昔話など、お聞かせ下さいます樣、奥々もお願ひ申上げます。と（挨拶一禮）祖母も貴方樣のお出を心よりお待ち申して居る樣でございます。と（挨拶一禮）

注意　（米壽とは八十八才のことで、八十八と書けば米といふ字になるから斯う申すのであります。）

## ――米壽の御祝を贈る挨拶

「七十を古來稀なりと申しますのに、お祖母樣は本年八十八の御誕辰を迎へられまして、而もます〳〵お達者で居らつしやいますさうで、誠にお芽出度う存じます。と（挨拶一禮）毎日お孫樣をお相手に平和な日をお送り遊ばしますことは、御本人樣は申までもございませんが、皆樣も定めし御滿足の事とお喜を申し上げて居ります。と（挨拶）就きましては此二十五日に米壽の御祝宴をお催しで居らつしやいますさうで、私共までもお招き下さいまして、有難うございます。御當日は早々よりお祝に參上いたしまして、お宅樣の御家庭にあやからして戴きます。と（挨拶）之は誠に失禮でございますが、お祝の印でございます。何卒お納め下さいませ。」と（挨拶一禮）

## ――米壽の祝物を持參する頃の挨拶

「御免下さいませ（今日は）先日はわざ〳〵お越し下さいまして、有難うございました。と（挨拶一禮）之は誠にお粗末でございますが、お父祖樣のお祝のお印でございます。と（挨拶と同時に差出し、一禮）今日は母が參ります筈でございましたが、今朝ほど一寸手ばなせない用事が出來ましたものですから、私が代理に上りました、奥々も宜しく申傳へる樣にと申聞けましてございます。と（挨拶一禮、次に祖父に對ひ）祖父樣、今日は。と（挨拶一禮）伯母樣からお聞きいたしますと、此月の二十三日に米壽の御祝をなさいますさうで、お芽出度うございます。と（挨拶一禮）其日はお父樣やお母樣を初め、皆んなでお祝に上りまして、祖父樣にあやからして戴きまして、長命するやうにと申して

居ります。と（挨拶）今日はお母様が參ります筈でございましたが、一寸急用が出來まして、私が代りに上りました。お祝の日は、早くから皆んなで上ります。では御免下さいませ。さようなら。」と、（挨拶一禮）

## ――古稀壽筵に於ける祝辭挨拶

（謙虚な態度で一禮）今夕は××××翁の古稀の賀筵が開かれまして、私も御招待に預り、席末を汚すの光榮を得まして、感謝の至りに堪えませぬ。と（一禮）古人も「人生五十、七十は古來稀なり」と申されましたが、人の世に得がたいものは長壽であります。然るに××翁は此の最も得難い長壽を得られ、而も矍鑠として壯者を凌ぐばかりの元氣で居られまするのは、此の上ない御幸福で、洵にお羨ましい次第であります。××翁よ、願くばます〳〵健康を保たれ、喜の字や米の字の壽は愚か百歳も二百歳も長壽を保たせられて、私どもも其の御裾分をいただいて、長生をしたいものであります。私は今日の祝宴に際しまして、御列席の皆様と共に、滿腔の熱誠を以て、××翁の御健康と、××家の御幸福を祝し、斯かる芽出たき日の今後幾久しく回り來らんことを祈りつゝ、××翁の萬歳を三唱して乾盃をいたしたいと存じます。では、三唱いたします。（盃を取つて差上げる、一同が盃を上げるのを待つて、落着いて、××君（翁）萬歳、萬歳、萬歳……（一禮）

## ――還暦賀筵に於ける主催者たる長男の挨拶

（席末に着座し、扇子を膝頭より一尺ばかり離れた所に置き、鄭重に一禮して、）

「本日は御多忙中にも拘らず、皆様が賑々しく御列席下さいまして、私共の心ばかりの賀筵に、斯く盛大な光輝をお添へ下さいましたことを、厚く御禮申し上げます。と（挨拶一禮）御承知の通り、私共の父は、巨萬の富を殘し、或は高い人爵を獲たといふでもありませぬ。又名譽ある事業を完成したといふでもなければ、取立てゝ申し上げるほど、社會のために盡したといふでもありませぬ。つまり一口に申し上げますと、普通の意味での成功者では決してありませぬ。併し、私共として見まする時、私は私の父が、斯ういふ父であつたことを、此上もなく嬉しく、此上もなく有難く感謝してゐるのでございます。世の中には一代にして巨萬の富を貯へ、或は名譽ある大事業を完成し、高位高官に上つて宏大な邸宅を構へ、榮譽を一身に鍾めてゐるやうな成功者も少なくありませんが、さういふ成功者に限つて、已の功を追ふのに汲々として、家族の幸福など殆ど顧ませぬ。不良兒の出る家庭

が、多くさういふ家庭であることは、よく新聞雜誌などにも記載されて居りますが、此の一事を以てしても、成功者の子と生れた者が幸か不幸か、思ひ半に過ぐるものがあると思ひます。これは、強ち大成功者には限りませぬ。一村内で知られ、一町内で稱せられるだけの極く小さな成功者でも、成功するためには幾分かでも犧牲を拂はなければなりませぬ。天二物を與へずといふ言葉がございますが仕事の爲めにも充分心を使ひ、家族の幸福の爲めにも辛い所へ手が屆くやうに氣を遣ふといふやうなことは、到底出來得ないことでございます。私共の父は、今申しましたやうに、何等取立てゝ申し上げるほどの成功者ではございませんが、母と共々、私共兄弟を慈み育てゝくれましたことは、世の如何なる父にも決して劣らないのでございます。私が、私の父が斯ういふ父であつたことを喜び、感謝いたしますのは以上の意味からでありまして、斯の父が御覽の通りの頑健さで還暦を迎へましたことは、私としては此上もなく嬉しいことでございますが、なほ此上にも壯健で、鶴齡龜壽をも重ねるやうにと、心ばかりの賀筵を開いた次第でございます。お口に合ふやうな物はございませんが、何卒皆様も父のために御祝福下さいまして、十二分にお過し下さいますやうお願ひいたします。」と（挨拶一體）

## ――壽賀に關する用語

○還曆○本卦還りの心祝○耳順（六十才のこと）○古稀○喜壽○米壽○壽筵○饅鰈として壯者を凌ぐ○元氣旺盛○精力絶倫○此上ない人生の幸福○お美しい次第○日頃御撰生の賜で○孟軻の言葉に「天下の達尊三つ、德一つ、齡一つ、爵一つとありますが」○寄る年波の跡なく○無類の御壯健○御長命にあやからして頂きたいものです。

## 死亡の挨拶

死亡は人生に於ける最も大きな非常事件でありまして、隨分交際の廣い方でも、さう度々出會すものでありません。從つて挨拶なども兎角不馴れで、相當もの馴れた人でも麻胡付きがちなものであります。

先年私の家内の父が亡くなりました時、隣家の妻君が他人への話に「奥樣のお父樣がお崩れになつたんださうですよ。」といつて居るのを蔭で聞いて、噴飯したくなつたことがありました。申すまで

もなく「お崩れ」といふ言葉は貴人の死に使はれる言葉で、下々の者の使ふ言葉ではありません。然るに出來るだけ鄭重な言葉を使はうとした結果、却つて他人が噴飯すやうな滑稽なことをいつたのでありまして、所詮柄にないことはいはぬが好いのであります。此の場合でも、

「奥様のお父様が死なれたさうですよ。」といへば、甚だざつくばらんな言葉でありますが、別段非禮でもなければ可笑しくもありませぬ。普通の言葉であります。更に今一歩進めて、「奥様のお父様が、お亡くなりになつたさうですよ。」といへば萬點であります。

一體言葉は、死ぬとか、暮すとか、食ふとかのやうに、その行動をそのまゝにいふのは下品な言葉でありまして、死ぬのを亡くなる、暮すといふ代りにお過し、食ふを召し上るといふやうに、間接的に申しますと大變品よくなるのであります。從つて社交語といたしましては、出來るだけ此の種の言葉を使つて欲しいものであります。外國でも社交的な挨拶の言葉には、デスとかポディとかいふやう直接的な言葉は決して使ひませぬ。此の點は日本と少しも變りはありませぬ。

尤も、操り返して御注意しなければなりませぬのは、前例のやうに、努めて上品な言葉を使はうとした結果、飛んだ失敗を演ずることがありますから、よく〳〵注意しなければなりませぬ。殊に死亡などゝいふ非常事件の場合の挨拶は、誰しも不馴れでありますから、餘程注意しなければなりませぬ。

## ――友の母の死を聞き駆付けた人の挨拶

「御免下さい。お早うございます。と（挨拶一禮）只今承りますれば、昨夜急にお母上様（お母様御賢母様、御尊母様）が亡くなられましたさうで、嘸かしお力落し（御落膽、御殘念のこと）でございませう。と（挨拶一禮）先達て中からお加減がお悪いとは薄々承つて居りましたが、急に斯様なことにならうとは夢にも存じませんで、慘々お見舞にも上りませず、誠に失禮いたしました。と（一禮）お取込み中却つてお邪魔とは思ひましたが、取り敢へず謹んでお悔み申し上げます。どうぞ皆様に宜しくお傳へ下さいませ。と（挨拶一禮）さようなら。」と（重ねて挨拶一禮）

## ――逸早く悔みに來た友に對する答禮挨拶

「お早うございます。と（挨拶一禮）有難うございます。全く私共でもこんなに早く（呆氣なく）逝くとは思ひませんでしたが、可愛想なことをいたしました。と（挨拶）然し、年からいへばまあ〳〵不足もいへませんから、一同諦めて居ります。と（挨拶）御多忙中に拘らず、御遠方の所を早速お悔み下さいまして、有難うございました。」と（挨拶一禮）

## ――死亡通知の挨拶

（近來は角張つたことが段々廢れて參りましたが、本來なら死亡通知を口頭でする場合は、必ず二人で行くのが慣例であります。假令子供でもよいから、餘計のやうだが一人連れて、二人で行くのであります。そして、多くの場合不幸のあつた家の人は行きません。大抵隣家の人が駈け付るのであります。）

「御免下さい。今日は。と（挨拶一禮）私は御當家樣の御親戚に當られます。（兼ねて御當家の御主人樣と御懇意になさつて居られました、）○○村の○○家の御近所に居ります○○と申す者でございますと（挨拶一禮）實は昨夜、兼ねて御病氣中でございました御老母樣が、俄に御重態になられまして、今朝午前三時二十五分に、とう〳〵お亡くなりになりました（御他界遊ばされました。）お宅樣とは御存命中殊の外御懇意にお願ひ申して居りましたので、早速お知せしてくれとのことでございましたから、取るものも取り敢へずお知せに上りました。と（挨拶一禮）お目にはかゝりませぬが、どうぞ御主人樣に宜しくお傳下さいませ。と（挨拶）では、御免下さいませ。さようなら。」と（挨拶一禮）

注意（此の場合通知を受けた主婦は、女中に命ずるなり自分でするなりして、息吐きのお茶を出します。又田舍などで、遠方からの知らせでしたら、食事時時分なら簡單な食事を供することを忘れてはなりませぬ。場合によつては、お膳の上でお酒を一本付けて、元氣を付けさせるのが禮であります。又子供には、有合せの菓子など紙に包んでやります。）

## ――實母を失つた人から通知の挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶一禮）御承知の通り皆樣方の御同情に依りまして、一時は大變快方に向つて居りました母が、突然今朝程から急に苦しみ出しまして、二十分程の後にとう〳〵亡くなりましてございます。と（一禮）病中は種々御心配をおかけ致しましたが、死去いたしましても又お手間をお取りいたしまして、誠に申し譯がございませんが、何卒宜しくお願ひ申上げます。」と（挨拶一禮）

## ――祖父を失つた人から通知の挨拶

「御免下さいませ。と（挨拶）先達てからお父樣が少々不快だと申しまして休んで居りましたが、今朝四時頃に安々と永眠いたしましたから、一寸お知らせいたします。と（挨拶一禮）お葬式は明後日、午後二時に自宅出棺○○葬儀場で執行いたしますから、何卒宜しくお願ひ申し上げます。と（挨拶

一禮）ハイ、年は本年八十九才でございます。と（挨拶）それでは何卒宜しくお願ひいたします。さようなら。」と（一禮）

## ――妻を失つた人から通知の挨拶

「愚妻夏子の産後の肥立ちが宜しくございませんで、皆様御心配をお掛け申しまして居りましたが、お蔭様で一時は大變よくなつて居りましたものですから、皆の者も稍や安心いたして居りましたが、今朝十時頃、心臟痲痺で急に無くなりましてございますから、一寸お知らせいたします。と（挨拶一禮）どうぞ宜しく。」と（重ねて挨拶一禮）

## ――祖母を失つた人に對する挨拶（對話）

A　永らく御病氣で居らつしやいました祖母様には、お手厚い御養生の甲斐も無く、昨日とう〳〵御逝去なさいましたさうで、定めしお力落しの事と存じます。と（挨拶一禮）是はほんの些少でございますが、御靈前へお供へ下さいませ。と（挨拶一禮）

B　ハイ、有難うございます。本人存命中は、種々お世話様でございました。其上に御香儀にまでづかりまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）

A　今後は何卒、皆様のお身體を御大切になさいませ。と（挨拶）

B　ハイ、有難うございます。何から何までお心壹しの程、誠に有難う存じます。と（挨拶一禮）

A　それでは御免下さいませ、さようなら。と（一禮）

## ――母を失つた友への挨拶（對話）

友　お聞きいたしますと、永らく御病氣で居らつしやいましたお母様が、貴方様や皆様の必死の御看護の甲斐も無く、昨夜遂に御逝去なさいましたさうで、貴方様を初め御弟妹様も、定めしお力落しの事でございませう。何とお慰めの御挨拶を申し上げまして宜しいやら、ほんとうに申し上げやうもございません。と（挨拶一禮）

母を失つた人　母の存命中は一方ならぬお世話様になりました上、病氣中は御多忙中を度々お見舞下さいまして、誠に有難うございました。と（挨拶一禮）なくなりましても、まだ眠つて居ります様な感じがいたします。そして、今後の事共を考へますと、獨り氣が遠くなります様に思はれます。と。（挨拶）

友　御尤もでございます。さうでございませうとも、併し思ふ樣には參りませぬのが浮世でございますから、まだ〳〵世の中には、より不幸のお方も澤山居らつしやいますのでございますから、何卒思ひ直しなさいまして、少しでもお心をお慰めなさいませ。と（挨拶）此上は貴方が幼い御弟妹さまを可愛がつてお上になりますと、きつとお母樣が先の世で、どんなにお喜びになるか知れません。と（挨拶）又其が一番お母樣への手向けの御孝行でございますから、何卒お身體を御大切に、お氣をお取り直してお父上樣をお助けなさいませ。と（挨拶）

母を失つた人　有難うございます。と（挨拶）いつも〳〵貴方樣にはお變りも無く、御親切にお力添へ下さいまして、蔭ながら涙を流してよろこんで居ります。と（挨拶一禮）母無き後の私等は、何かと貴方樣に御面倒の事ばかり申し上げませうが、句卒相談相手におなり下さいませ。と（挨拶一禮）

友　行き屆きませんけれど、私の出來ます限りは御遠慮無く仰しやつて下さいませ。と（挨拶）と同時に之は大變お粗末でございますが、此方は母からのお供へで、此方は私の心計りのお供へでございますから、何卒御佛前へお供へ下さいませ。と（挨拶一禮）

母を失つた人　お心靈しのお供へ、有難うございます。無き母も定めしよろこんで頂戴いたします事と存じます。と（挨拶一禮）

友　今日は、之で失禮いたします。吳々も貴方樣初め皆樣のお身體を御大切になさいますやう、御忠告申し上げます。と（挨拶）

母を失つた人　之は誠に端近で失禮いたしました。と（挨拶一禮）どうも色々と御親切なお言葉を頂きまして、誠に有難う存じます。きつと仰せに從ひますでございませう。と（挨拶一禮）お歸りになりましたら、お母樣に宜しくお傳へ下さいませ。何れ其内お禮に上りますでございます。と（挨拶一禮）さようなら。と（挨拶一禮）

## ——お通夜に行く人の挨拶

（家族の者に對する場合。家族は看病の疲れや心の悲みのために、一室に閉ぢ籠つて就寢してゐることがよくありますが、必ずしもさうとも限りませんから、一例を揭げて置きます。）

「今晩は。と（挨拶一禮）大切なお方が亡くなられまして、定めし神心ともにお疲れでございませうと（挨拶、どうぞ奥でお休みなさいませ…　これはいふてもいはなくても宜しい。近所の者で、極く親しい間柄だと申します。）至つて不束者で、お聞には合ひませんが、御用事がありましたら、どうぞお言ひ付け下さいませ。と（挨拶一禮、そして、今度は列席の一同に向つて）皆樣、御苦勞樣でござ

います。と（鄭寧に一禮、そして靜かに立つて、佛前に行き、此時初めて持參の香奠、線香などをそつと供へて、お線香を供します。お線香は何本立てゝも宜しいが、必ず一本々々離して立てるのが習慣であります。又香奠でなく菓子や果物などの供物を持參した時は、初めの一通りの挨拶を終つた時、なるべく他人に目立ぬやうに、家族か又は一族の者に）これは甚だ輕少でございますが、どうぞ佛前（御靈前）へお供へ下さいませ。」と（挨拶して差出します。）

（一族の者か親戚の者に對する場合）

「めつきりお寒くなりましたが、お宅樣では皆樣お變りもございませんで、何よりでございます。と（挨拶一禮）此度は又、此方樣（御當家樣）では、〇〇樣がお亡くなりになられまして、日頃御昵懇な（大切な祖母樣をお喪ひなされまして）貴方樣は、嘸かし御愁傷でございませう。と（挨拶一禮、御愁傷といふ言葉は死亡者の親戚の者か一族の者や極く親しい知人に對して申します言葉で、死亡者の家族に對しては、前例で申しましたやうに、お力落し、御落膽など丶申します。それより佛前へ行つて、線香を供へることは前例同樣であります。）

## ——葬儀當日の挨拶

（葬儀當日は取込み中でありますから、餘り敷々しい挨拶はいたしませぬ。尤も初めて家族や親戚や一族の者に面會いたしましたら、大體前に申し上げましたやうなお悔みを述べます。親しい友人や隣家の方なら、既にその前にお悔を述べてゐる筈でございますから、極く簡單に）

「お疲れでございませう、と、（挨拶一禮）どうぞ御無理をなさいませんように……。」と（挨拶一禮、又、近親や親しい友人に對しては、）

「今日は御苦勞樣でございます。」と（挨拶一禮いたします。）

（又、隣家の者でも差して親しい友人でもなく、死亡通知の書狀をもらつたために、お寺なり自宅で行はれる告別式に列席される方は、態々家族を探してまでお悔みを述べなくても宜しうございます。必ず葬儀委員が入口の受付に居りますから、そこへ名刺を差出して、帽子、マント、オーバーなどを脱いで傍に置き、佛前に進んで抹香を供します。その供し方は、靜かに佛前の二三歩前まで進んで一禮し、更に進んで、死者の冥福を祈りながら抹香を摘み上げて輕く頂き、備への香爐に供し、同じことを三度繰り返して、改めて鄭寧に一禮して三歩後退し、踵を旋らして葬儀委員の方に一禮して歸途に付きます。尙ほ當日香奠を持參される方は、燒香する前に、懐中から取出して佛前に供します。）

## ■葬の御禮挨拶（對話）

（會葬のお禮には喪主は行きませぬ、親戚の者や一族の者が連れ立つて行くのが慣例になつて居ります。）

**禮者**　只今（先程、今日）は、御還路の處を御會葬下さいまして、誠に有難うございました。何分取込中の事で、萬事不行届で申譯がございませんが、何卒御免下さいませ、失禮でございますが、何卒皆様に宜敷お傳へ下さいませ。さようなら。と（挨拶一禮）

**家人**　取込中、御鄭重な御挨拶で恐入ります。お跡が定めしお淋しい事でございませうが、皆様お身體を御大切になさいますやう、どうぞ皆様によろしくお傳へ下さいませ。と（答禮挨拶一禮）

**注意**（總て悲しい事に接しました場合は、必ず御自身も先方の方の心になつて、言葉及び動作に氣を付けなければなりませぬ。（例へば）先方は泣て居るのに、笑顔で挨拶しましては、失禮も甚だしいのであります。又動作も餘り活潑にするのは、好ましくありませぬ、惡意でなくても先方の人は非常に氣にするものでありますから、よく注意しなければなりませぬ。）

## ■葬儀後家族に對する挨拶

（佛教なら初七日、二七日といふやうに、七日々々の佛事がありますが、神式では十日祭、二十日祭といふやうに、十日目々々にお祭がありまして、親戚の方や親しい方が列席されますが、その時の御挨拶の仕方は、）

「今日は好いお天氣で、誠に御結構でございます。と（挨拶一禮）その後は定めしお淋しいことでございませう。お察しいたします。と（挨拶）○○様（亡くなられた方）はお可愛さうでございますが、餘り御心勞なさいまして、若し貴方の御健康に障りますやうなことがございましては、それこそ亡くなられた方の御本意でもあるまいと存じますから、どうぞ餘りお歎き遊ばし（なさい）ませぬやう、お願ひいたします。と（挨拶一禮）

## ■眞人を失つた人に對する挨拶（對話）

**見舞人**　御主人様には永らく御病氣で居らつしやいましたが、あれやこれやと種々御養生遊ばして居らつしやいましたから、定めし其内には御全快遊ばす事とのみ思つて居りましたのに、ついに御永眠

遊ばしましたさうで、嘸かし御落膽のことでございませう、深く御同情申し上げます。と（挨拶一禮）

主婦　ハイ、有難うございます。と（挨拶一禮）主人の存命中は、御多忙にも拘らず、色々と御厄介をお掛けいたしました上に、一昨日は遠路の處を、御主人様にはお葬送り下さいまして、誠に有難うございました。と（挨拶一禮）實は是非共今一度全快させ度いと存じまして、種々と手を盡しましたのでございますが、天命がつきましたものか、ついに歸らぬ旅に趣きましてございます。と（挨拶）

今日は御繁多な奥様にまでお悔みの御挨拶を頂きまして、誠に有難うございます。と（挨拶一禮）

見舞人　イヽエ、此位の事に何のお禮に及びませう、貴方様には永々の御心盡しのおみとりで定めしお疲れのことでございませう。と（挨拶）此上は御看護のお疲れが出ませんやうに、お氣をお附け遊ばせ（なさい）お役には立ちませぬが、何か御用がございましたら、御遠慮無く仰しやつて下さいませ。と（挨拶）

主婦　ハイ有難うございます。只今の處では、何んだか氣ぬけがいたしましたやうで、何と申し上げまして宜しいやら、御挨拶の致し様もございません。と（挨拶）

見舞人　野邊の送りもお濟ましになりましたから、一層お淋しい事でございませう。と（挨拶）

主婦　左様でございます。ほんとうに夢うつゝのやうで、貴女様にも失禮をいたして居りますが、何卒御免下さいませ。と（挨拶一禮）

見舞人　でも、お宅様にはお子様方が居らつしやいます、（ございます）もう此上は、御壽命とお諦めなさいまして、お身體を御大切にお子様方の（御成長）（御養育）にお心をお慰め遊ばし（なさい）ますやう、お進め申し上げます。と（挨拶）

主婦　ハイ、有難うございます。貴女様の仰せの通り、今後は子供共をたよりに、皆様に御厄介をお掛けしまして、其日〳〵を暮して參りますつもりでございますから、何卒御面倒でございませうが、何かとお力をお添へ下さいますやうお願ひ申し上げます。と（挨拶一禮）

見舞人　それはもう、仰しやられますまでもございませんが、私共のやうに子供一人もございませんお者（自分の不幸でなくとも、何か他人の不幸の例を擧げても宜しい。）に比べますれば、貴女様等は、ほんとに、御不幸中の御幸福で居らつしやいますわ。と（挨拶）

主婦　貴女様のやうに仰しやつて戴きますと、いくらか心が明くなるやうでございます。誠に有難うございます。厚くお禮を申し上げます。と（挨拶一禮）

見舞人　今日は之で失禮いたします。何卒御用の節は御遠慮無く仰しやつて下さいませ。そして、呉呉もお身體をご大切になさいませ。さようなら。と（挨拶一禮）